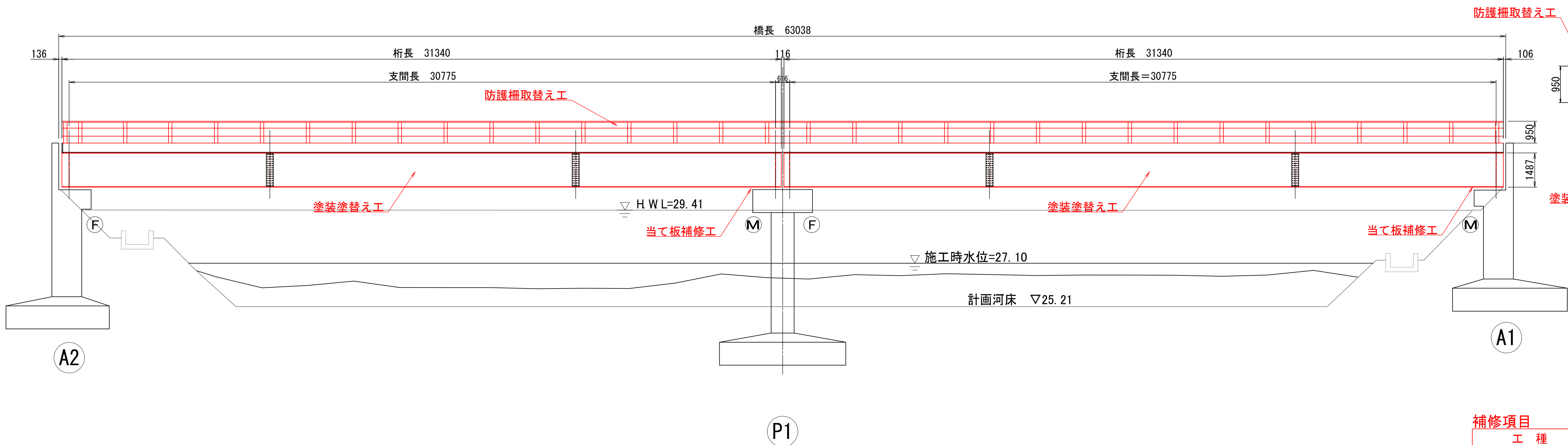


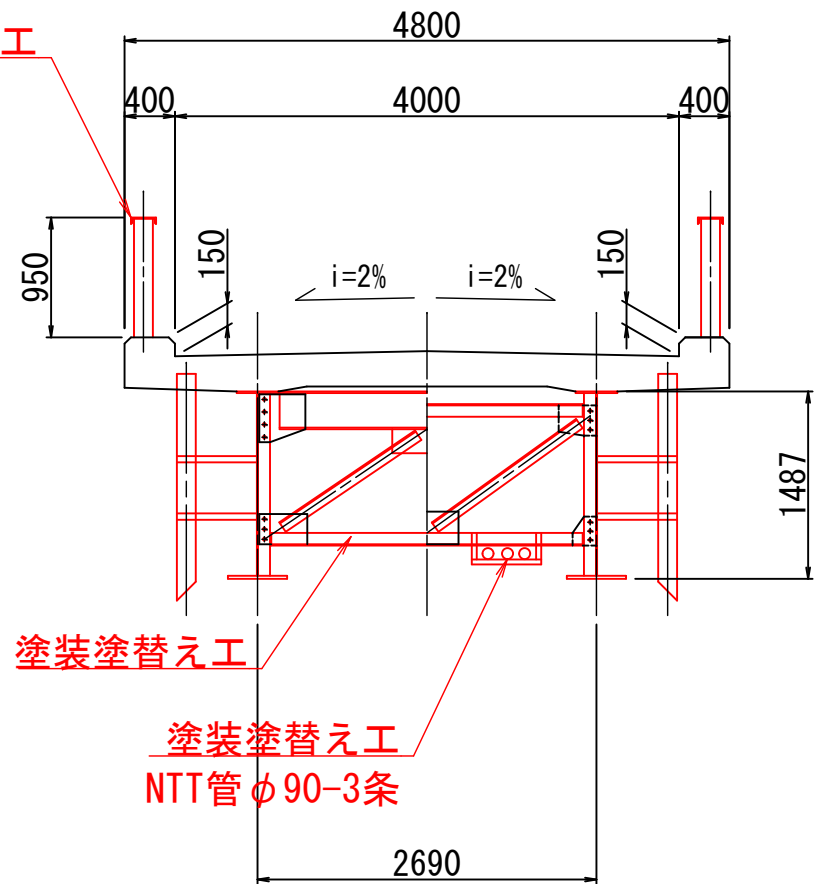
図 面 目 録				
図面番号			図 面 名 称	縮 尺
猿毛橋	補修図	1	猿毛橋 補修対策一般図	図 示
		2	猿毛橋 当て板補修図(1)	図 示
		3	猿毛橋 当て板補修図(2)	図 示
		4	猿毛橋 当て板補修図(3)	図 示
		5	猿毛橋 当て板補修図(4)	図 示
		6	猿毛橋 当て板補修図(5)	図 示
		7	猿毛橋 当て板補修図(6)	図 示
		8	猿毛橋 伸縮装置詳細図1	図 示
		9	猿毛橋 伸縮装置詳細図2	図 示
		10	猿毛橋 ガードレール詳細図 (その1)	図 示
		11	猿毛橋 ガードレール詳細図 (その2)	1 : 60
		12	猿毛橋 ガードレール詳細図 (その3)	1 : 10
		13	猿毛橋 ガードレール詳細図 (その4)	図 示
		14	猿毛橋 吊り足場工図	図 示
	復元図	1	猿毛橋 復元一般図	図 示
		2	猿毛橋 主桁及び横構詳細図	1 : 50
		3	猿毛橋 主桁詳細図	1 : 50

猿毛橋 補修対策一般図

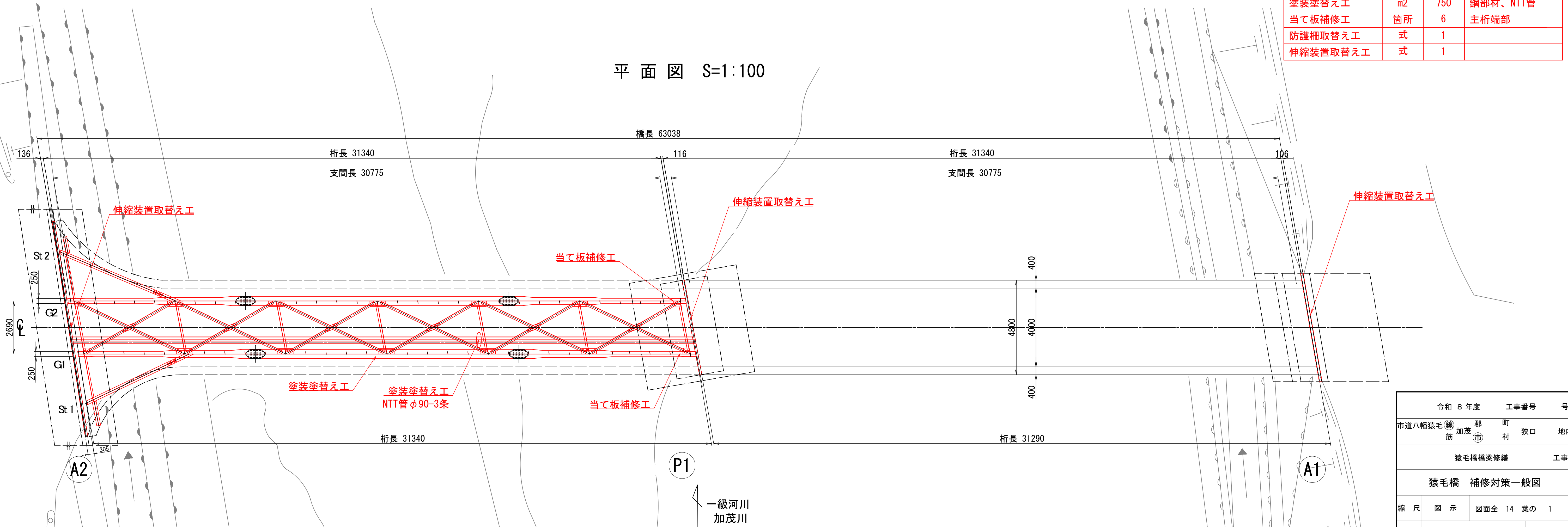
側面図 S=1:100



断面図 S=1:60



平面図 S=1:100



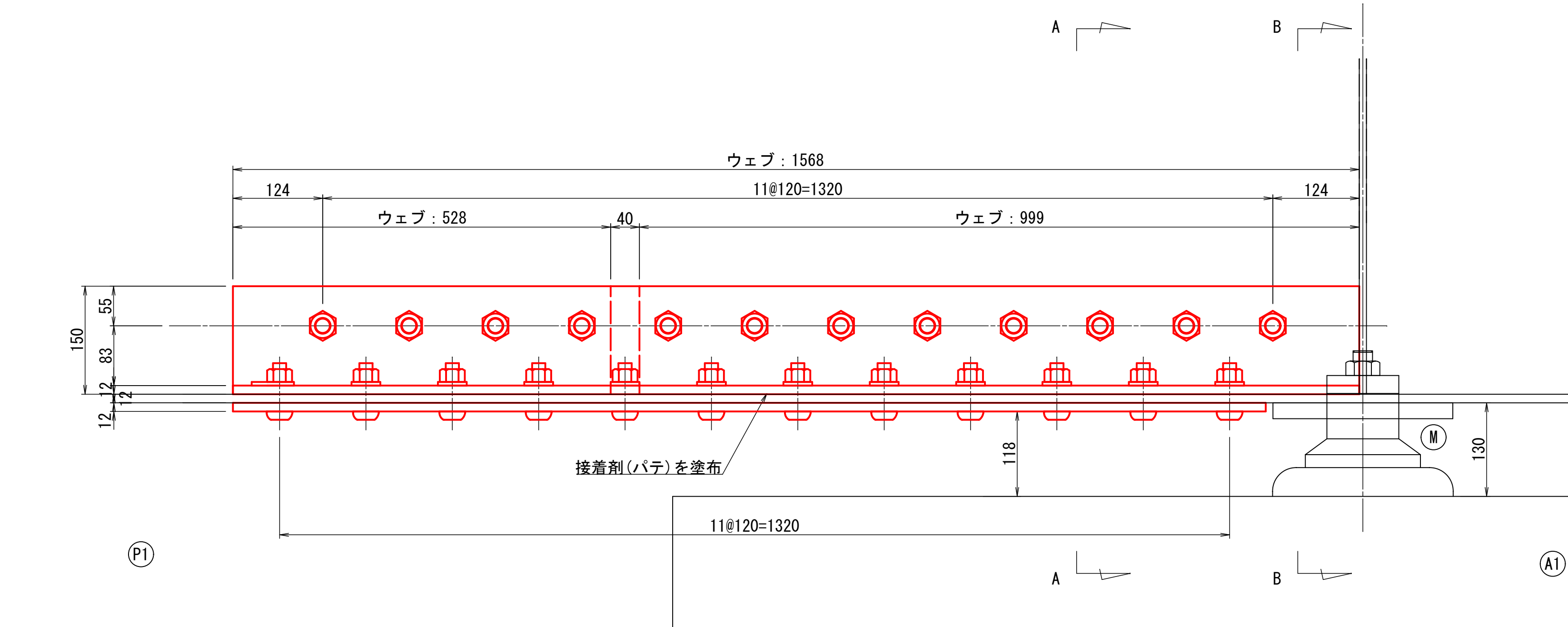
補修項目			
工 種	単 位	数 量	備 考
塗装塗替え工	m2	750	鋼部材、NTT管
当て板補修工	箇所	6	主桁端部
防護柵取替え工	式	1	
伸縮装置取替え工	式	1	

【 特記 】
1. 本図面は簡易計測を基に作成したもので、河川横断面図は上流側の地覆側面と防護柵支柱部で計測を実施した。
2. H W L及び計画河床高は、「 災害復旧助成工事 猿毛一般図、S46 」を基にした。

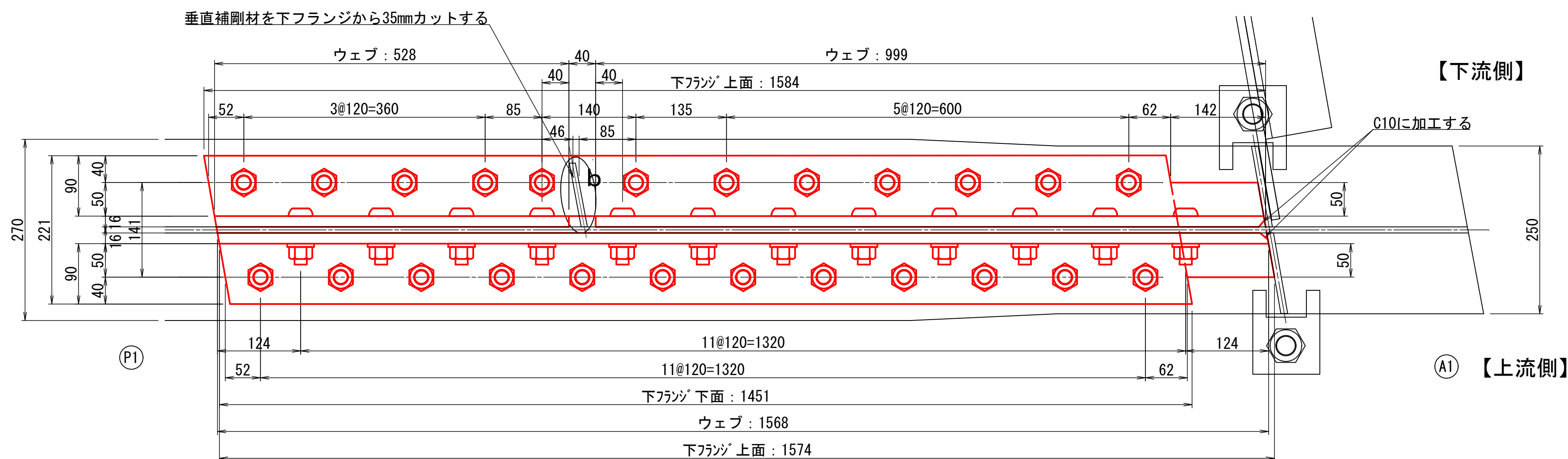
令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛(緑)加茂郡		町	狹口	地内
筋		(市)村		
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋 補修対策一般図				
縮 尺	図 示		図面全 14 葉の 1	
測 量				年 月
設 計	エヌシーイー株式会社			R6年 月
加茂市 建設課				

猿毛橋 当て板補修図(1)
第1径間 A1G1桁

側 面 図 S=1:5



平面图 S=1:5



(1 箇所当り)

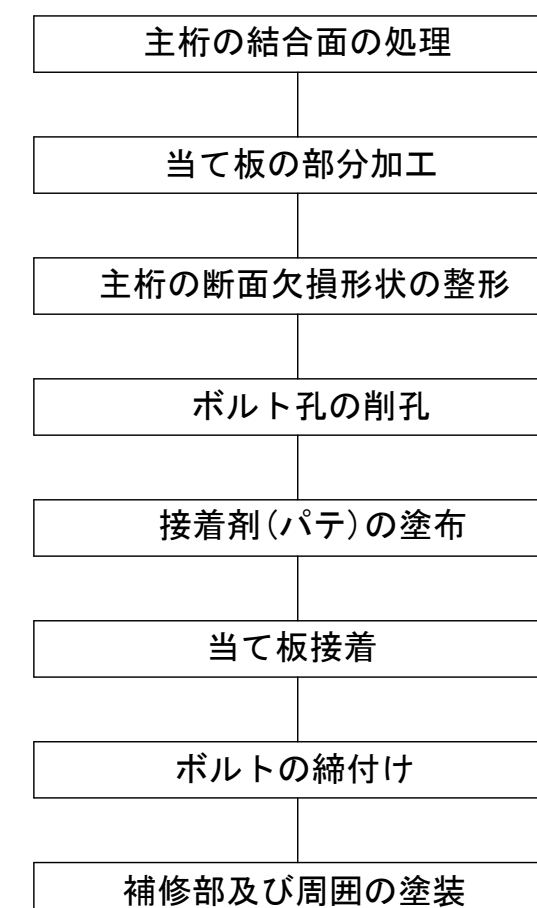
工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×1568	29.5kg	Web
		PL 150×16×999	18.8kg	Web
		PL 150×16×528	9.9kg	Web
		PL 90×12×1574	12.8kg	L-Flg 上面 (NET率 96%)
		PL 90×12×1584	12.7kg	L-Flg 上面 (NET率 95%)
		PL 221×12×1451	30.2kg	L-Flg 下面
ボルト孔 削孔	－	φ24.5mm 孔	36箇所	
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	12箇所	Web
		TCB M22×75	24箇所	L-Flg
ガス切断切削仕上	－	95×35	0.13m	Stiff t=9mm

※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
 ※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
 ※3) TCB M22×80(S10T)使用 (16+9+16+35=76mm)
 ※4) TCB M22×75(S10T)使用 (12+12+12+35=71mm)
 下フランジボルト挿入必要空間 75+14+19=108 < 118mm

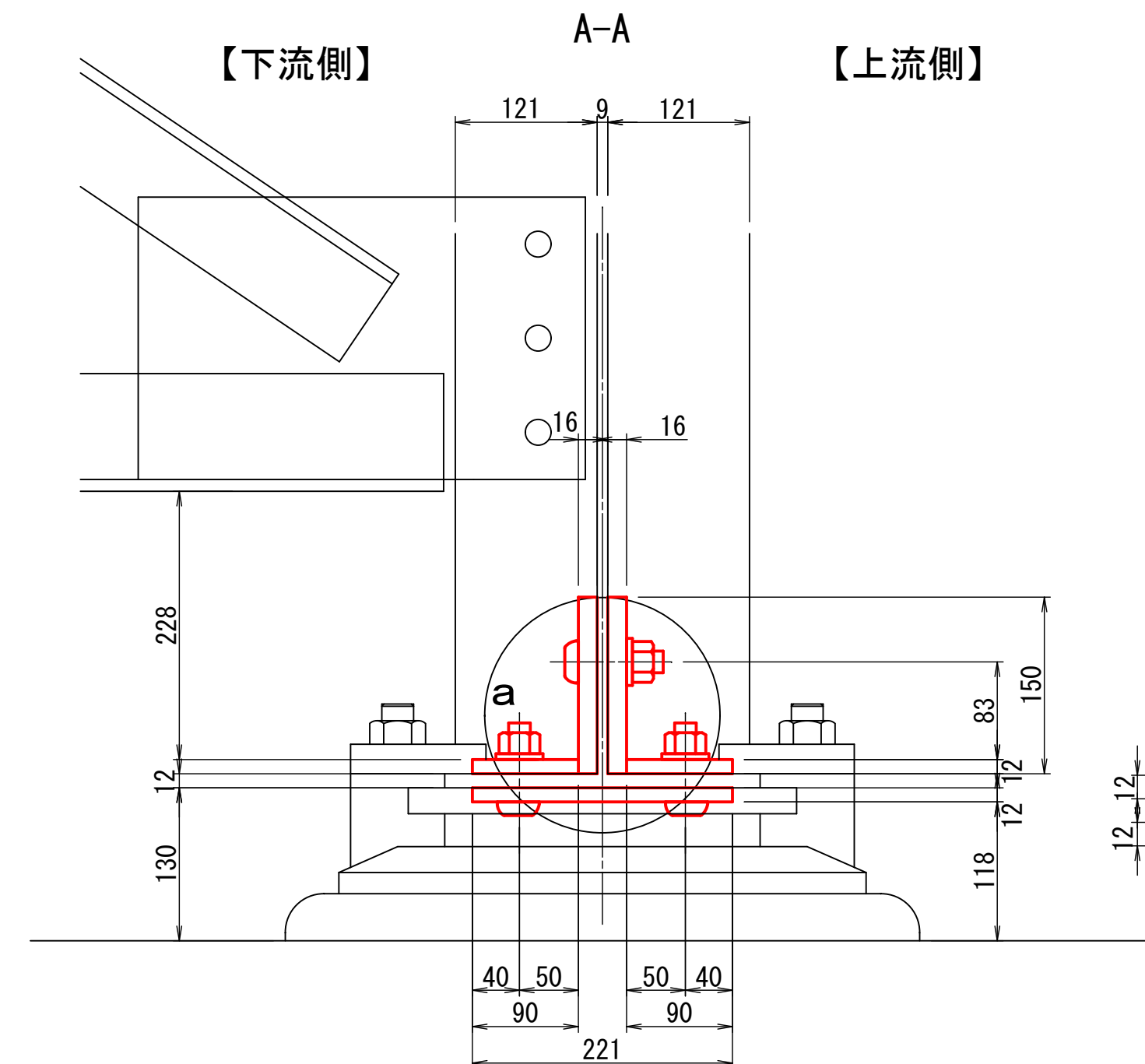
特記)

1. 現地計測により、支承ピンプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b 部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあける。
3. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

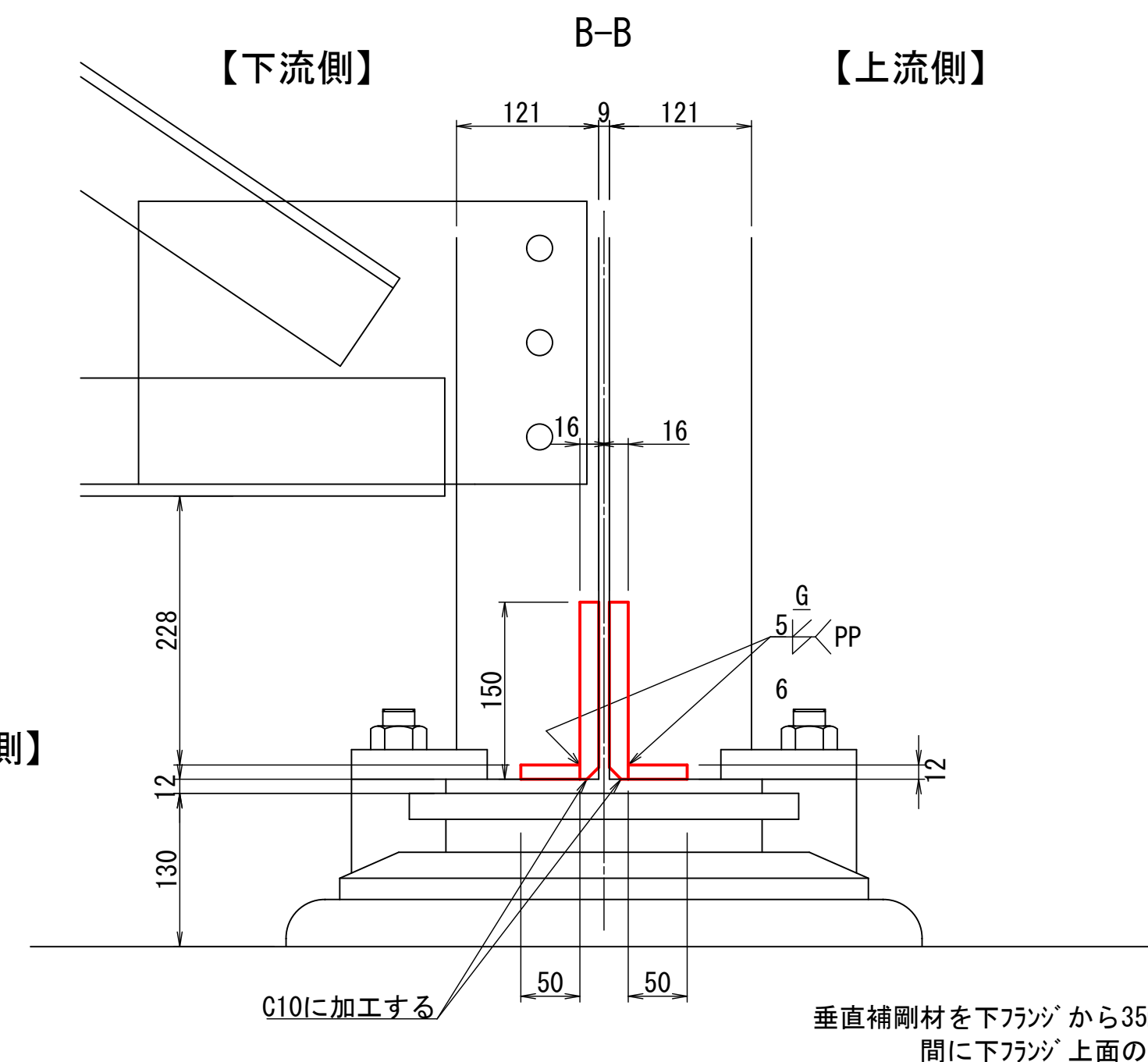
施工フロー



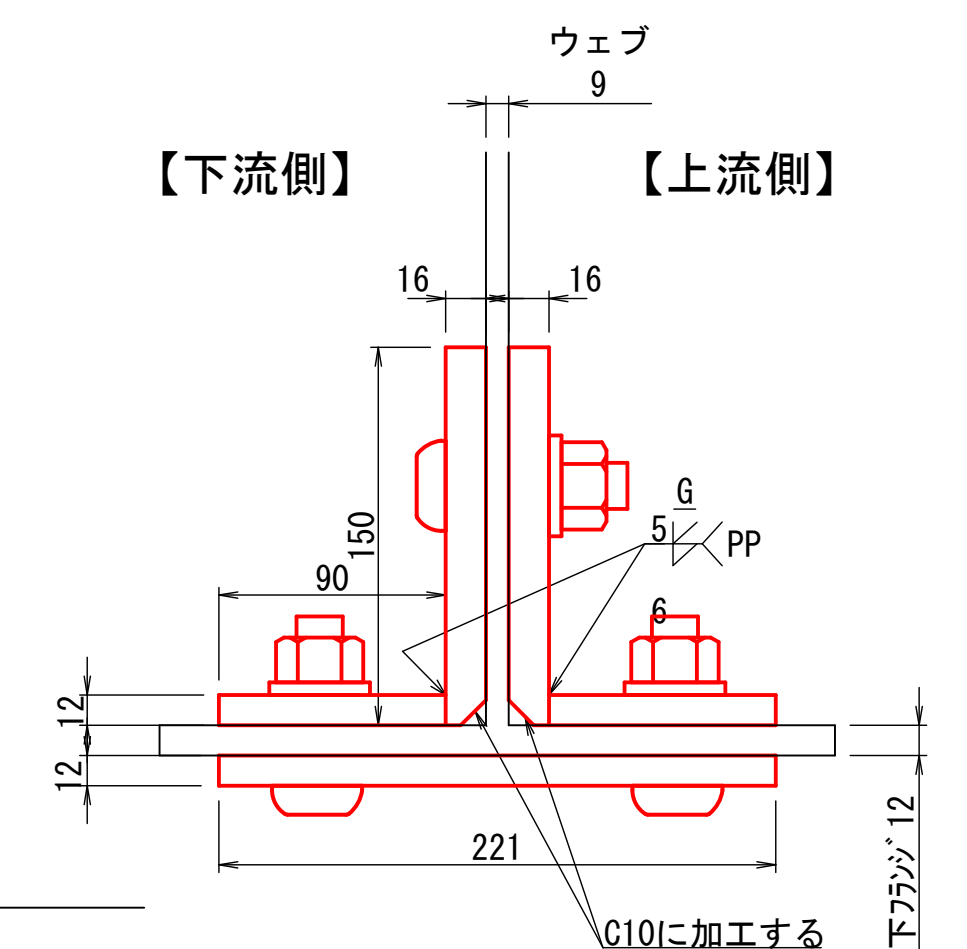
断面図 S=1:5



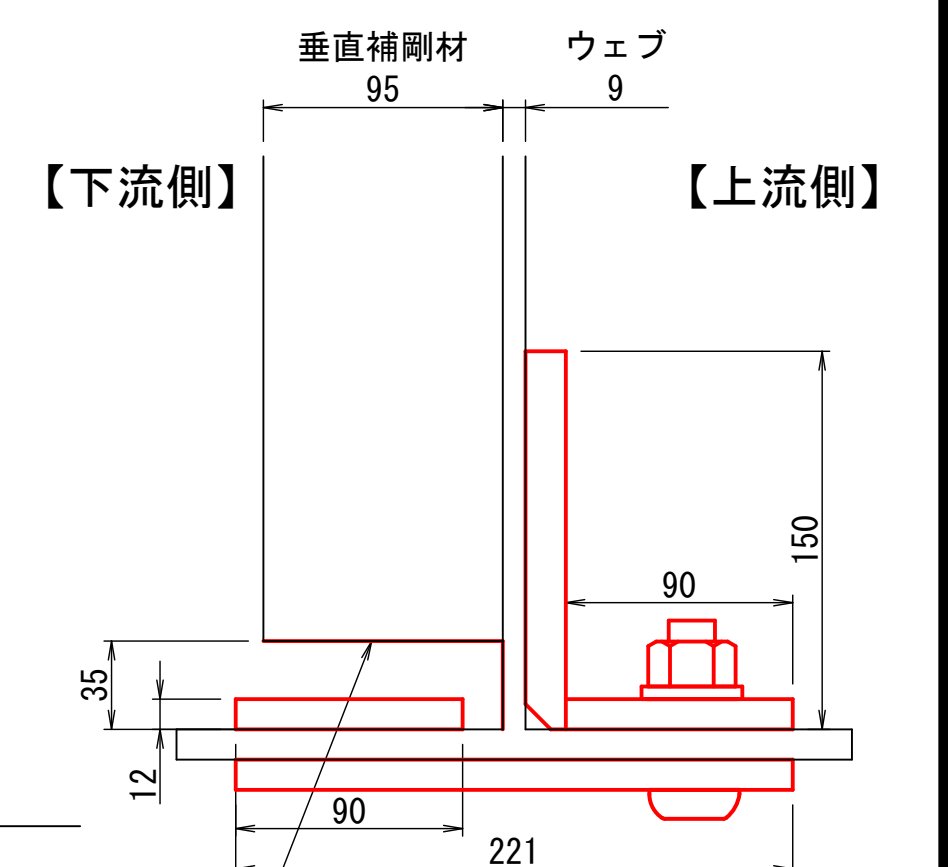
断面図 S=1:5



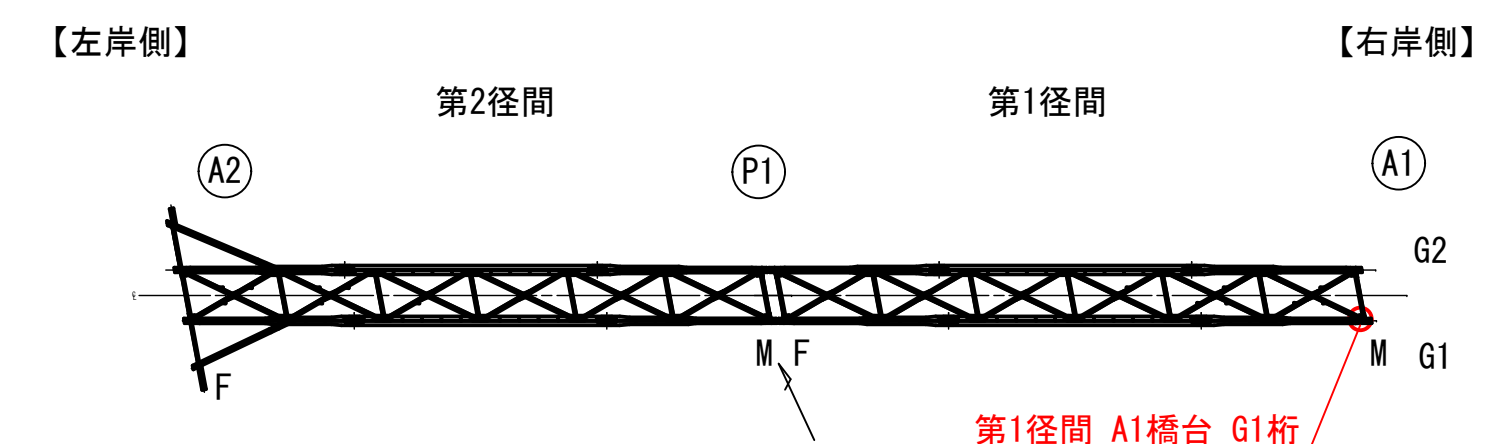
a 部詳細図 S=1:3



b 部詳細図 S=1:3

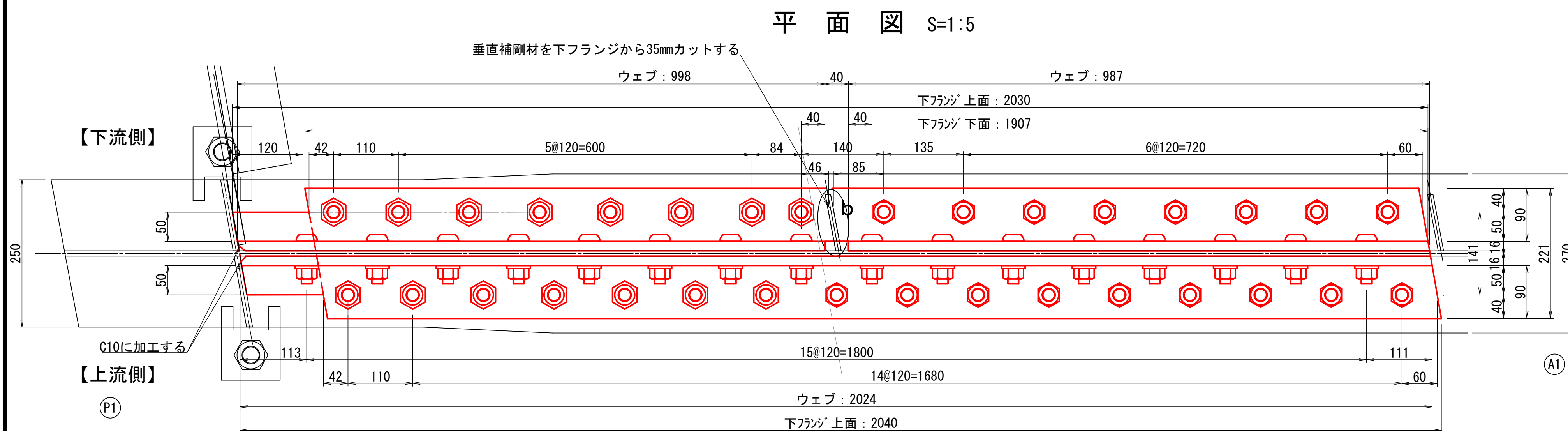
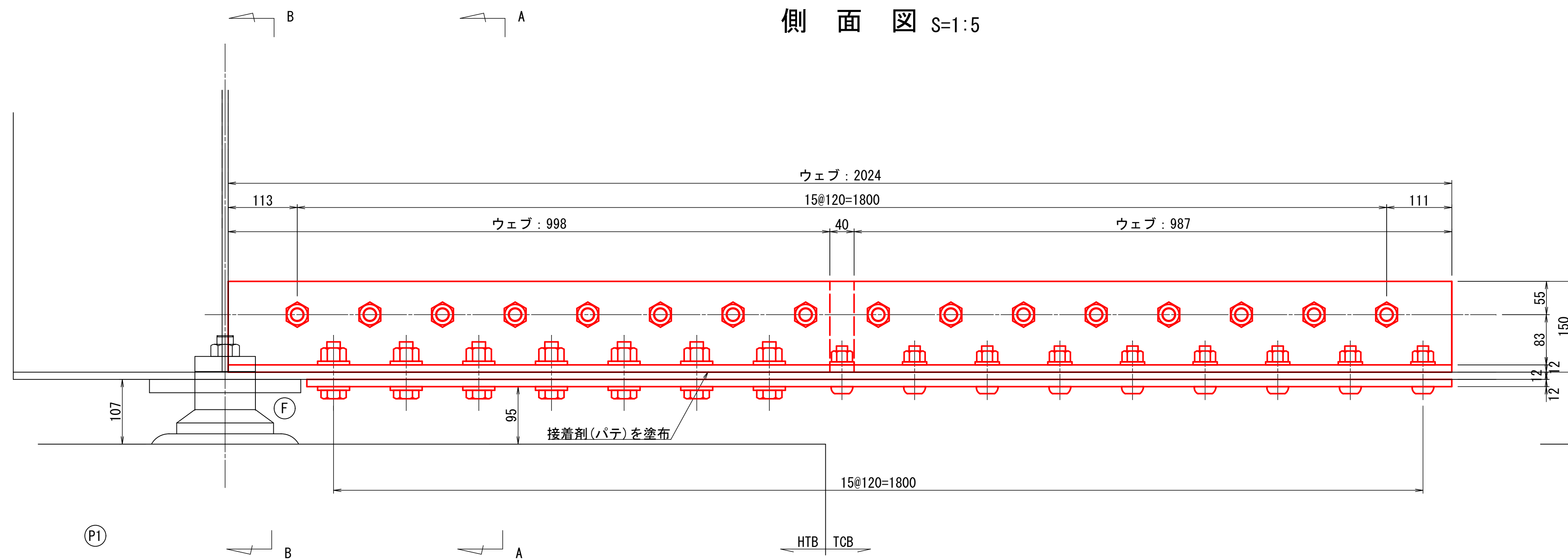


当て板補修位置図



令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛		筋	加茂郡 (市)	町 村 狭口 地内
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋 当て板補修図 (1)				
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 2		
測 量				
設 計	エヌシーイー株式会社		R6年 3月	
加茂市 建設課				

猿毛橋 当て板補修図(2)
第1径間 P1G1桁

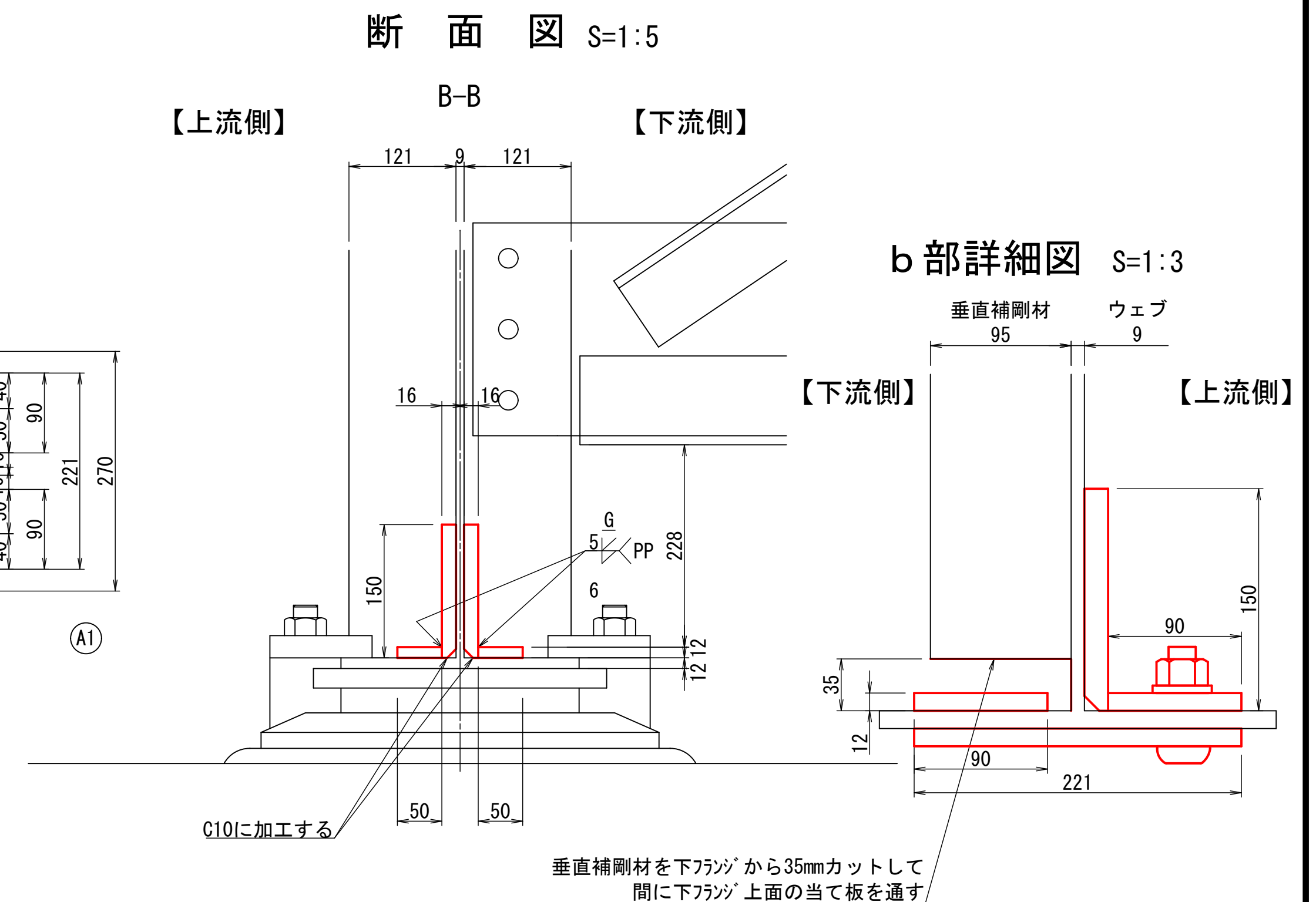
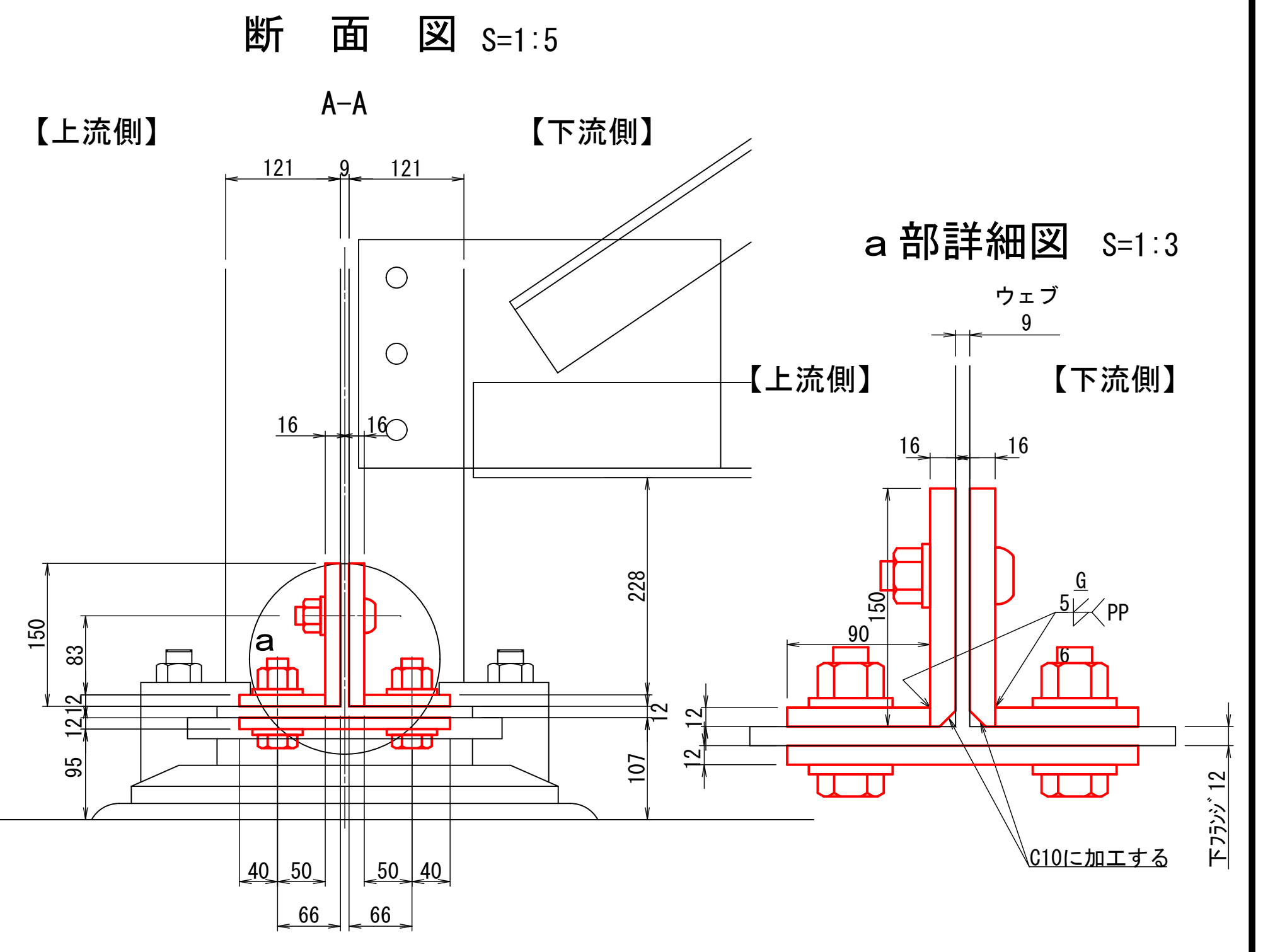
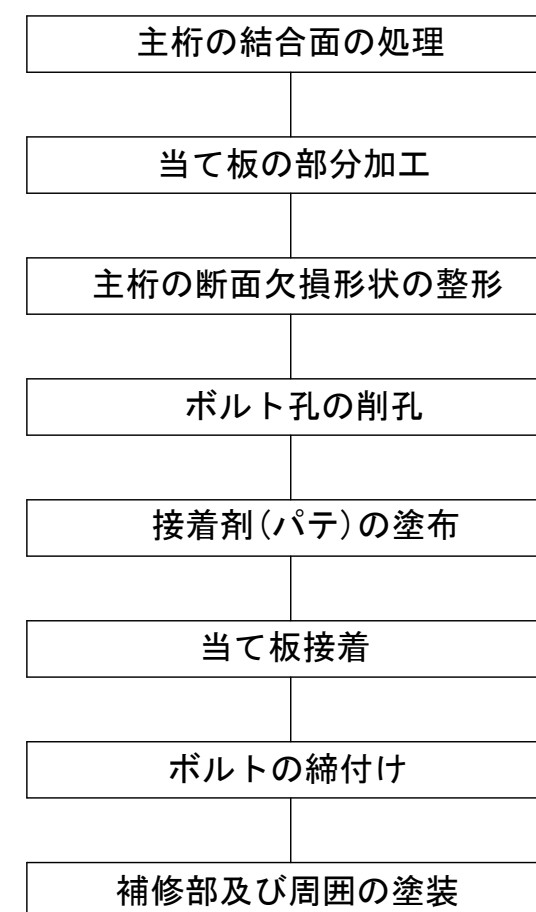


工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×2024	38.1kg	Web
		PL 150×16×987	18.6kg	Web
		PL 150×16×998	18.8kg	Web
		PL 90×12×2040	16.6kg	L-Flg 上面 (NET率 96%)
		PL 90×12×2030	16.7kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 221×12×1907	39.7kg	L-Flg 下面
ボルト孔 削孔	－	φ24.5mm 孔	48箇所	
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	16箇所	Web
		TCB M22×75	17箇所	L-Flg
	F10T	HTB M22×80	15箇所	L-Flg
ガス切断削削仕上	－	95×35	0.13m	Stiff t=9mm

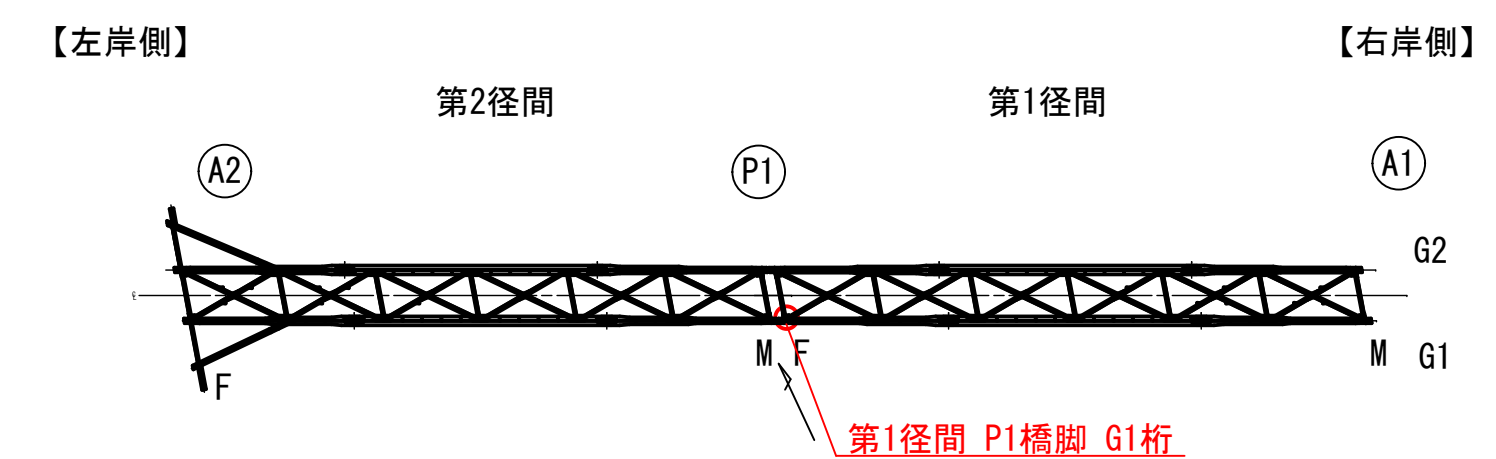
※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
 ※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
 ※3) TCB M22×80 (S10T) 使用 (16+9+16+35=76mm)
 ※4) TCB M22×75 (S10T) 使用 (12+12+12+35=71mm)
 ※5) HTB M22×80 (F10T) 使用 (12+12+12+40=76mm)
 下フランジボルト挿入必要空間 80+14=94 < 95mm
 特記

1. 現地計測により、支承ピンチプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあける。
3. 下フランジと橋座の間隔が狭くボルトが挿入できないため、高力六角ボルトを使用する。下から挿入が困難な場合は上から挿入して、でき手動式トルクレンチを使用して締める。
4. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

施工フロー



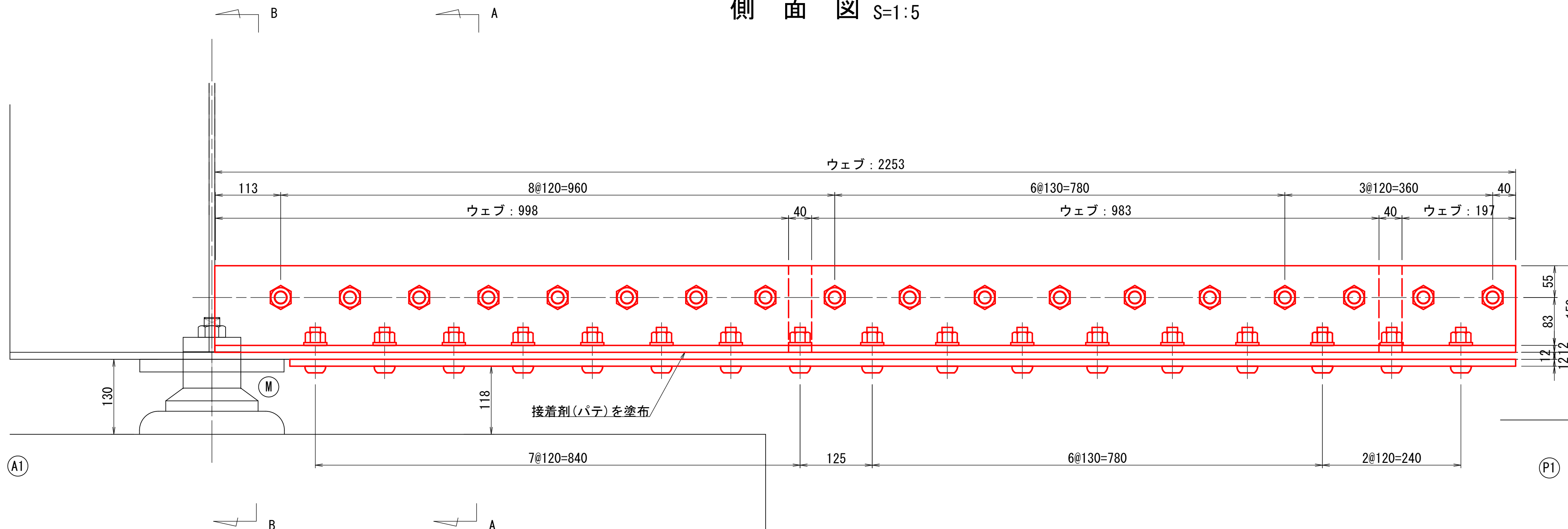
当て板補修位置図



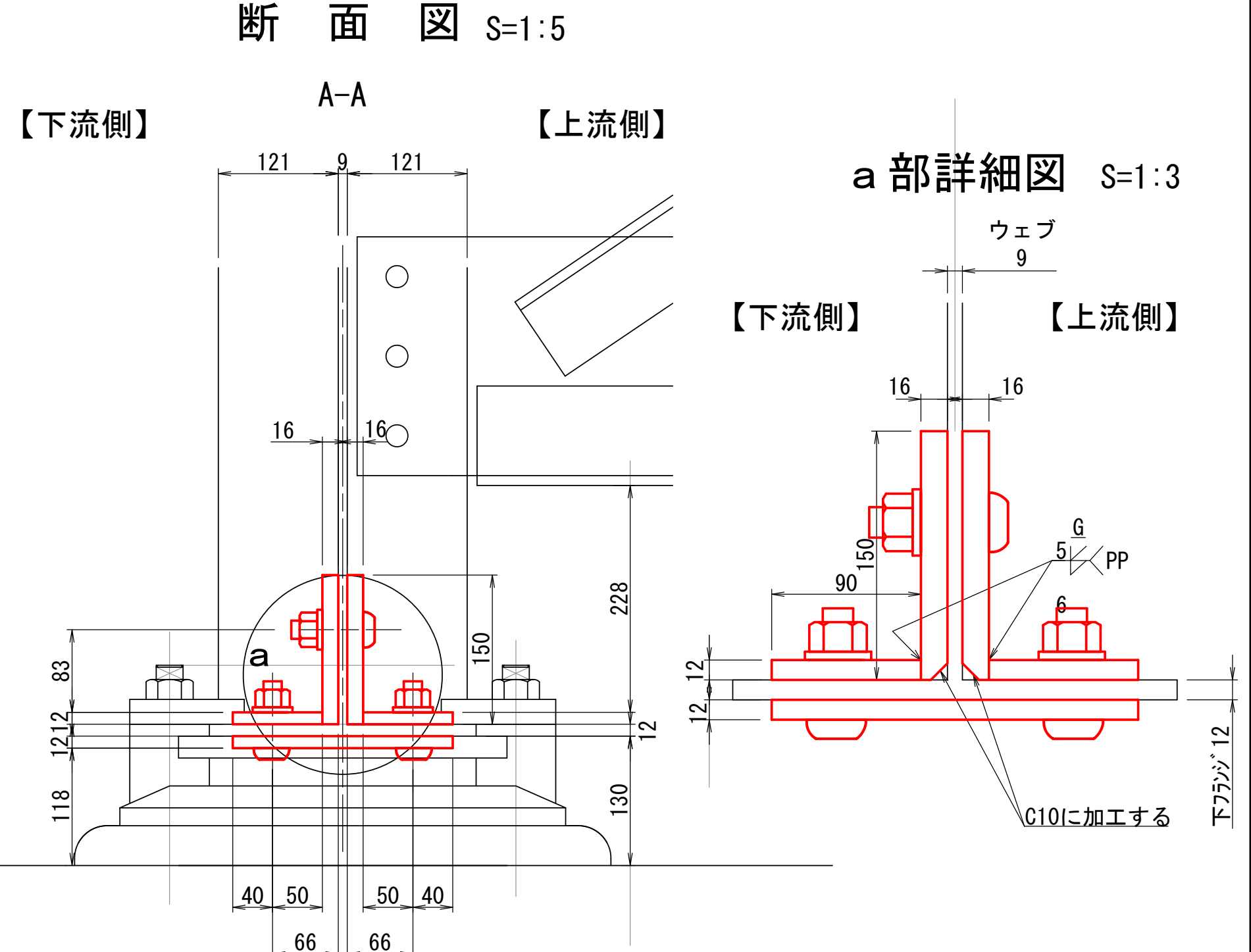
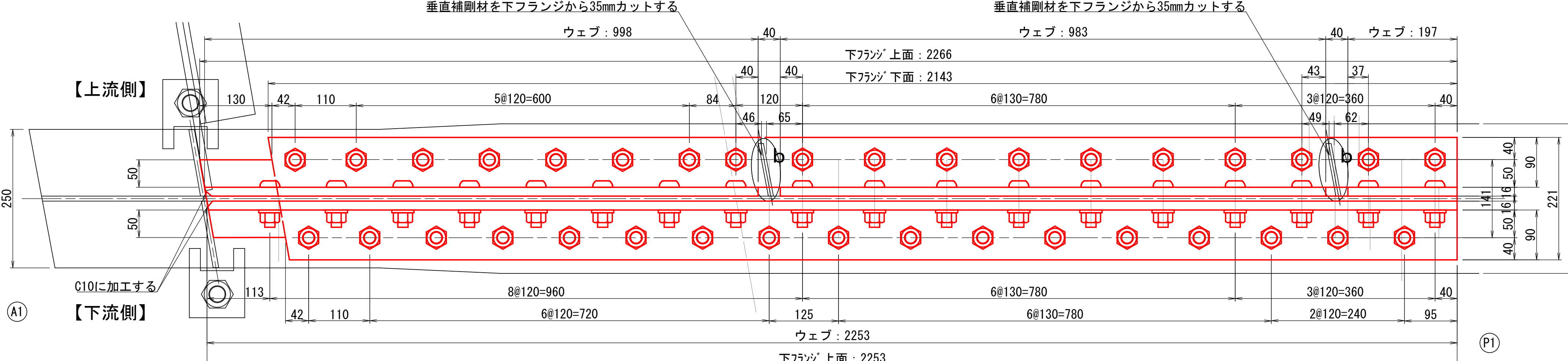
令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛		 郡 加茂 市	町 村	狭口 地内
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋 当て板補修図 (2)				
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 3		
測 量				
設 計	エヌシーエー株式会社		R6年 3月	
加茂市 建設課				

猿毛橋 当て板補修図(3)

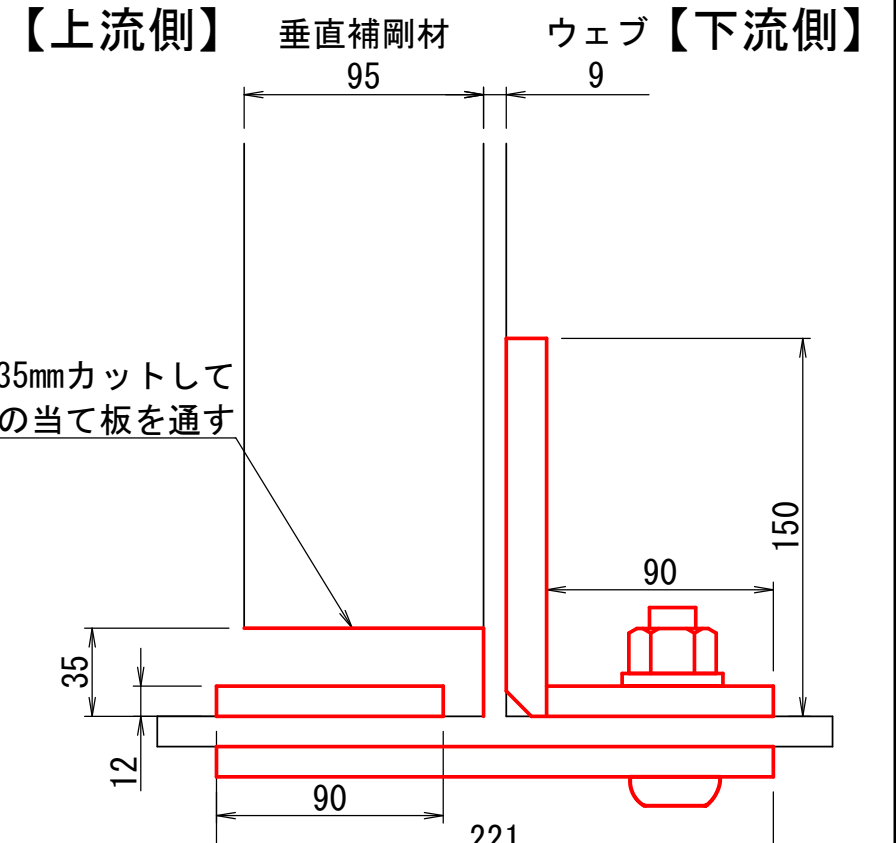
第1径間 A1G2桁



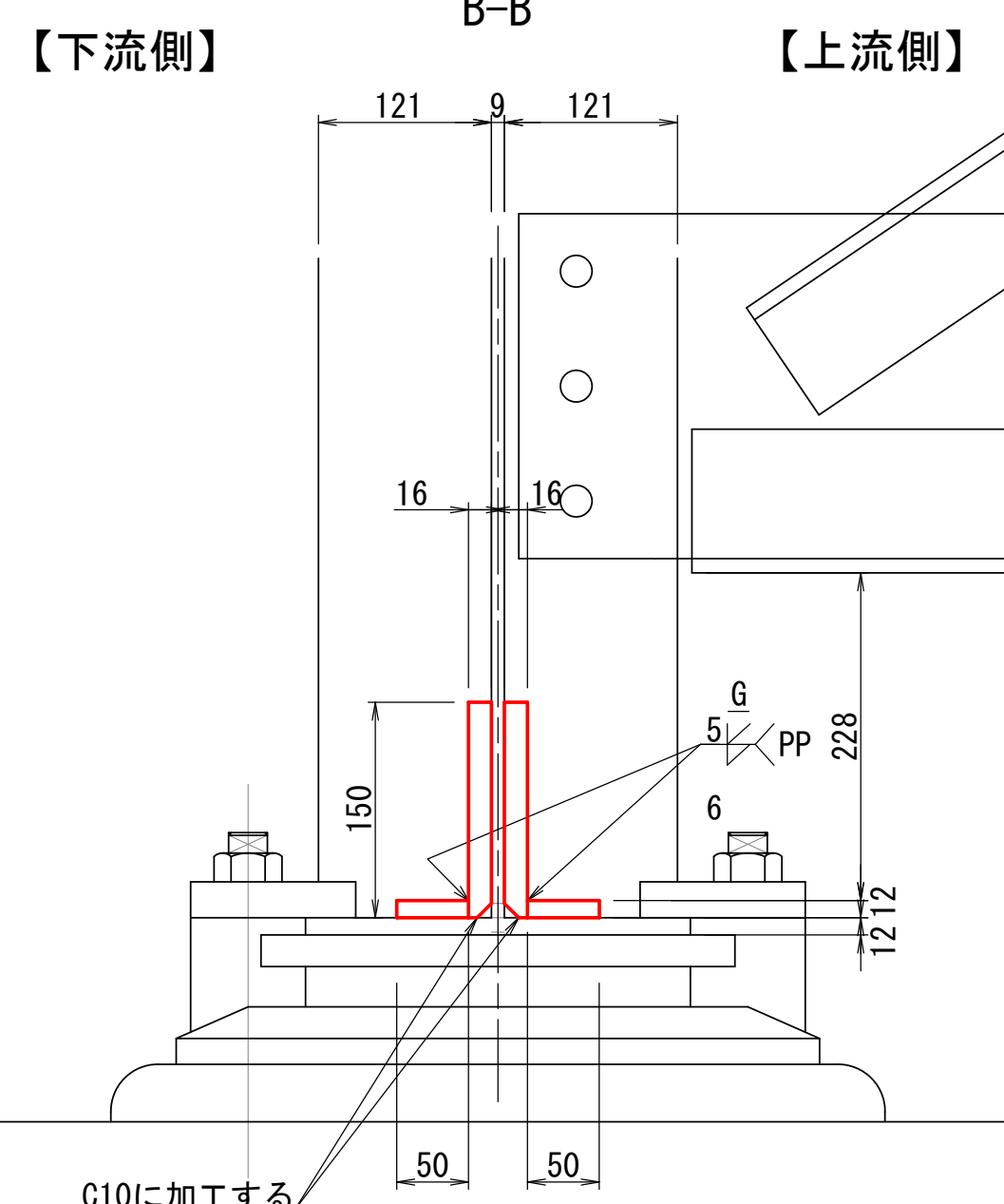
平面图 S=1:5



b 部詳細図 S=1:3



断面図 S=1:5



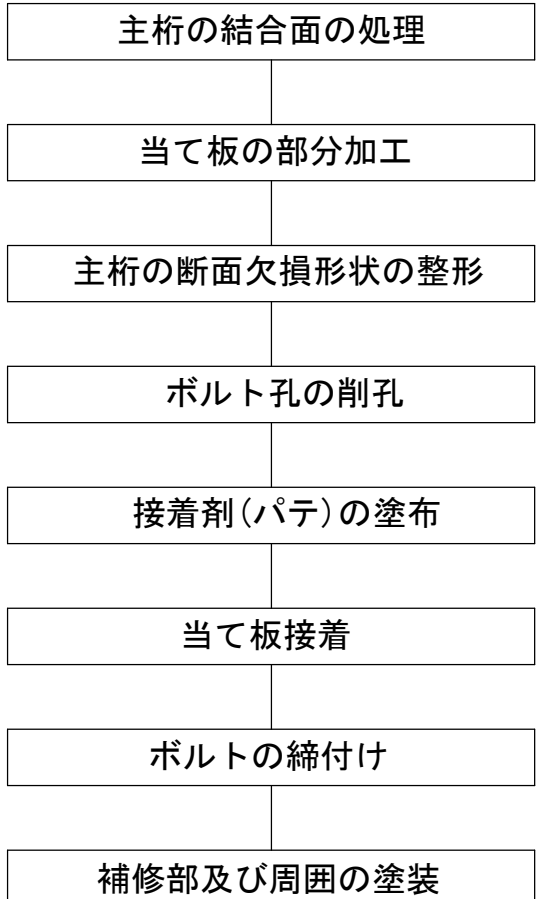
(1 箇所当り)				
工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×2253	42.4kg	Web
		PL 150×16×998	18.8kg	Web
		PL 150×16×983	18.5kg	Web
		PL 150×16×197	3.7kg	Web
		PL 90×12×2253	18.5kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 90×12×2266	18.6kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 221×12×2143	44.6kg	L-Flg 下面
ボルト孔 削孔	－	φ24.5mm 孔	53箇所	
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	18箇所	Web
		TCB M22×75	35箇所	L-Flg
ガス切断切削仕上	－	95×35 2箇所	0.26m	Stiff t=9mm

※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
 ※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
 ※3) TCB M22×80(S10T)使用 (16+9+16+35=76mm)
 ※4) TCB M22×75(S10T)使用 (12+12+12+35=71mm)
 下フランジボルト挿入必要空間 75+14+19=108 < 118mm

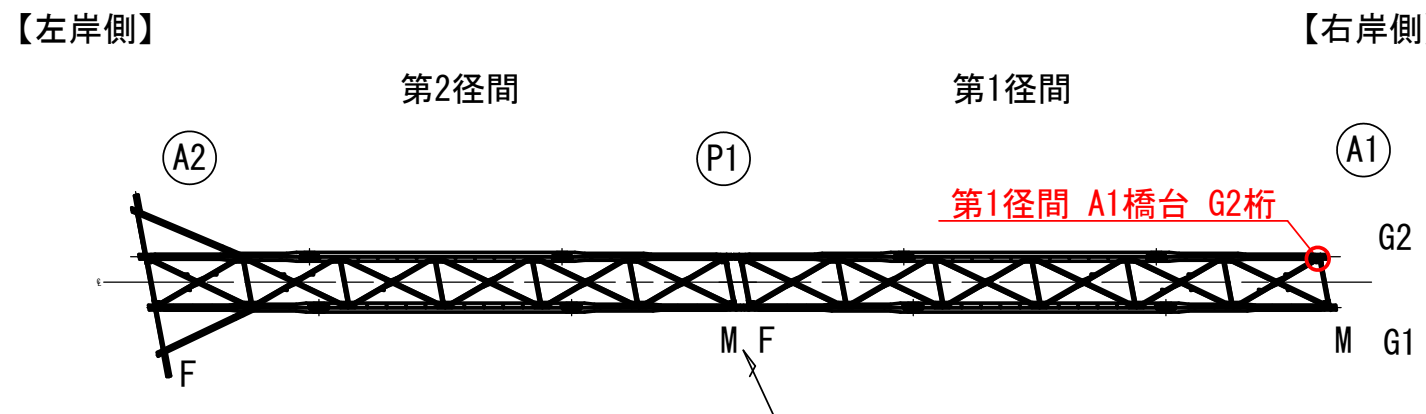
特記)

1. 現地計測により、支承ピンチプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあける。
3. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

施工フロー



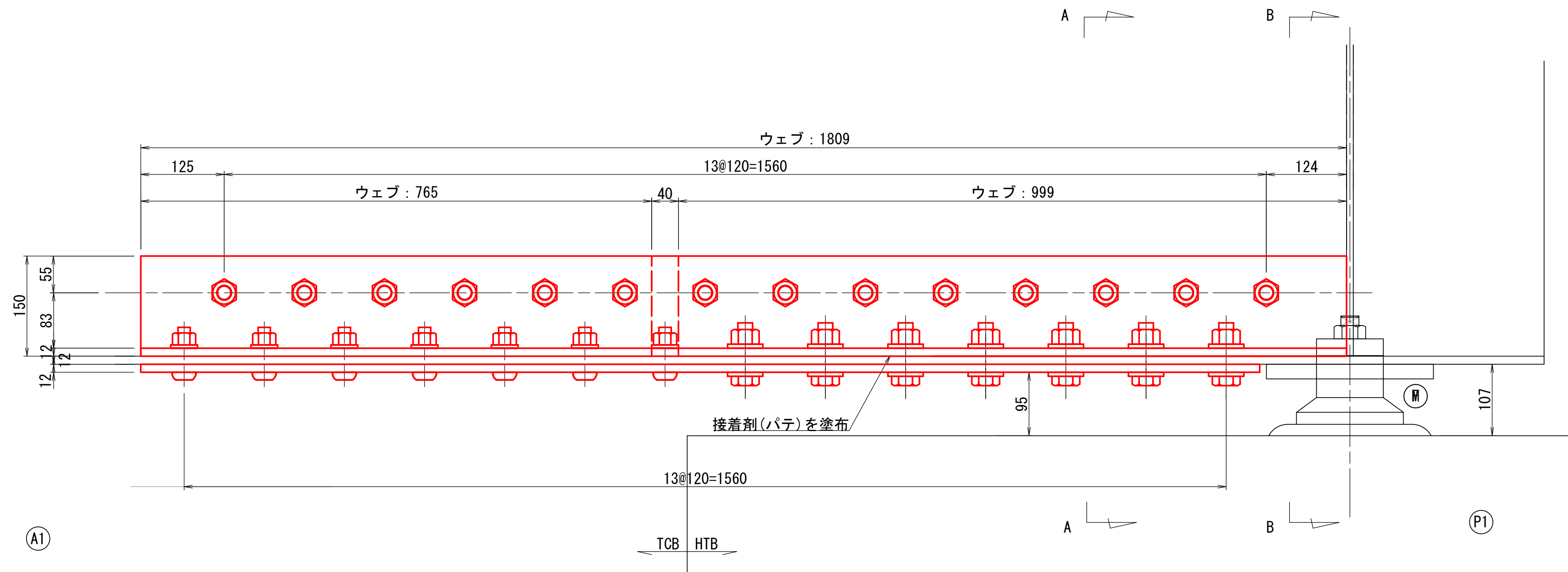
当て板補修位置図



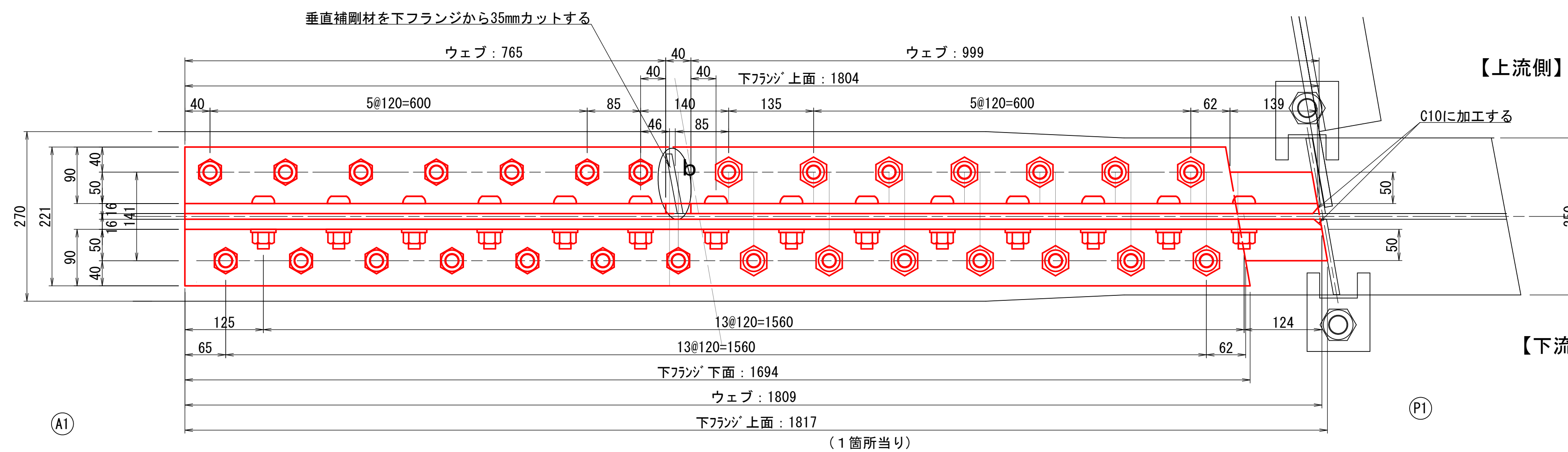
令和 8 年度		工事番号		号	
市道八幡猿毛		(緑 筋)	郡 加茂 (市)	町 狹口	地内
猿毛橋橋梁修繕				工事	
猿毛橋 当て板補修図(3)					
縮 尺	図 示		図面全 14 葉の 4		
測 量	—				
設 計	エヌシーイー株式会社			R6年 3月	
加茂市 建設課					

猿毛橋 当て板補修図(4)
第1径間 P1G2桁

側 面 図 S=1:5



平面图 S=1:5



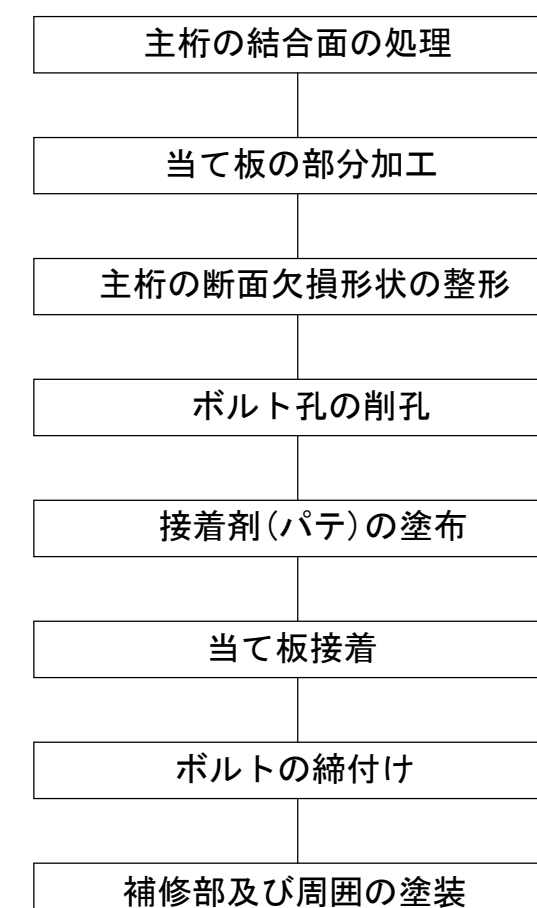
工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×1809	34. 1kg	Web
		PL 150×16×999	18. 8kg	Web
		PL 150×16×765	14. 4kg	Web
		PL 90×12×1817	14. 9kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 90×12×1804	14. 7kg	L-Flg 上面 (NET率 96%)
		PL 221×12×1694	35. 3kg	L-Flg 下面
ボルト孔 削孔	－	φ 24. 5mm 孔	42箇所	
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	14箇所	Web
		TCB M22×75	14箇所	L-Flg
	F10T	HTB M22×80	14箇所	L-Flg
ガス切断削削仕上	－	95×35	0. 13m	Stiff t=9mm

※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
※3) TCB M22×80 (S10T) 使用 (16+9+16+35=76mm)
※4) TCB M22×75 (S10T) 使用 (12+12+12+35=71mm)
※5) HTB M22×80 (F10T) 使用 (12+12+16+40=80mm)
下フランジボルト挿入必要空間 80+14=94 < 95mm

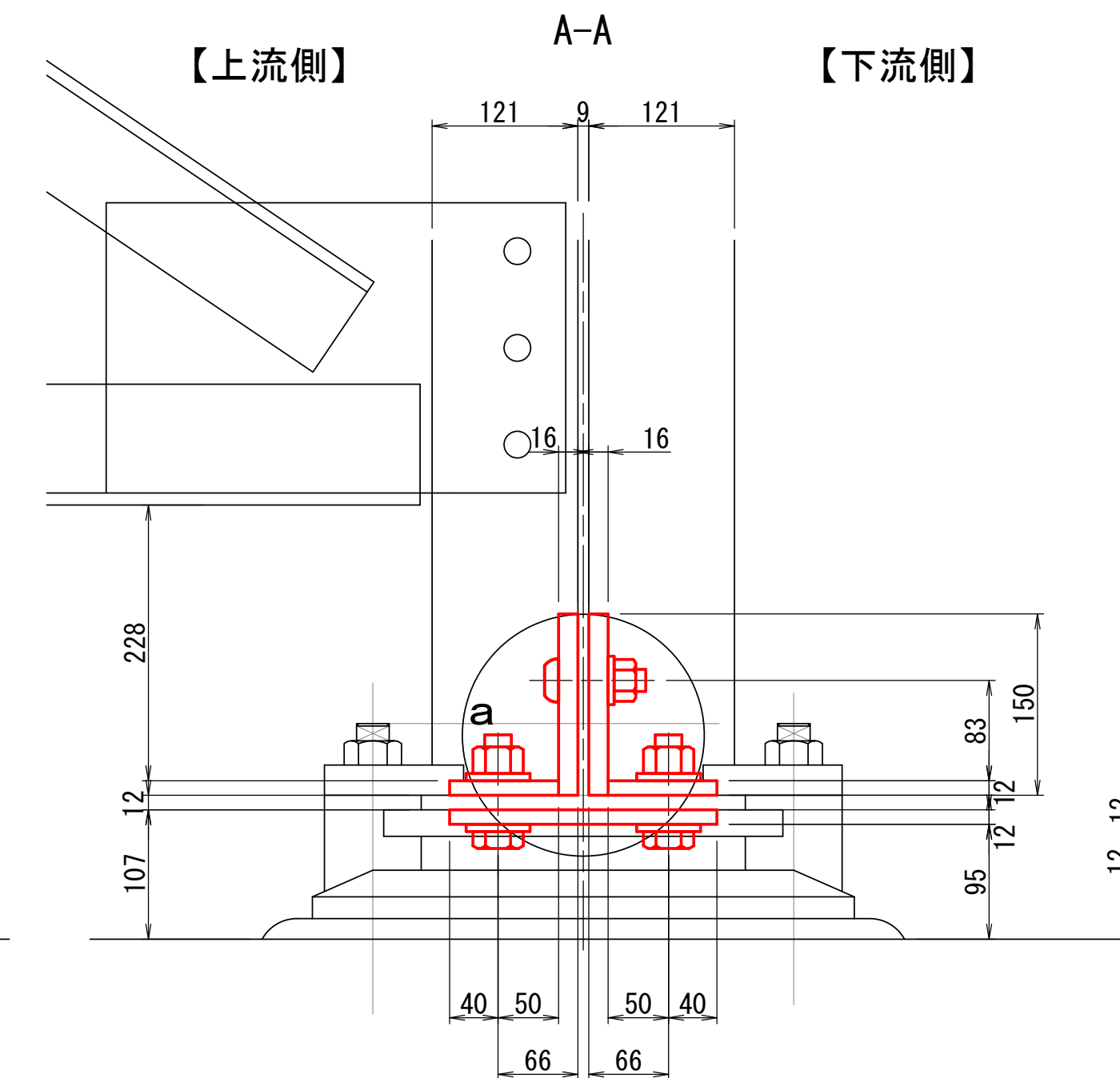
(特記)

1. 現地計測により、支承ピンプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあげる。
3. 下フランジと橋座の間隔が狭くボルトが挿入できないため、高力六角ボルトを使用する。
下から挿入が困難な場合は上から挿入して、下で手動式トルクレンチを使用して締める。
4. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

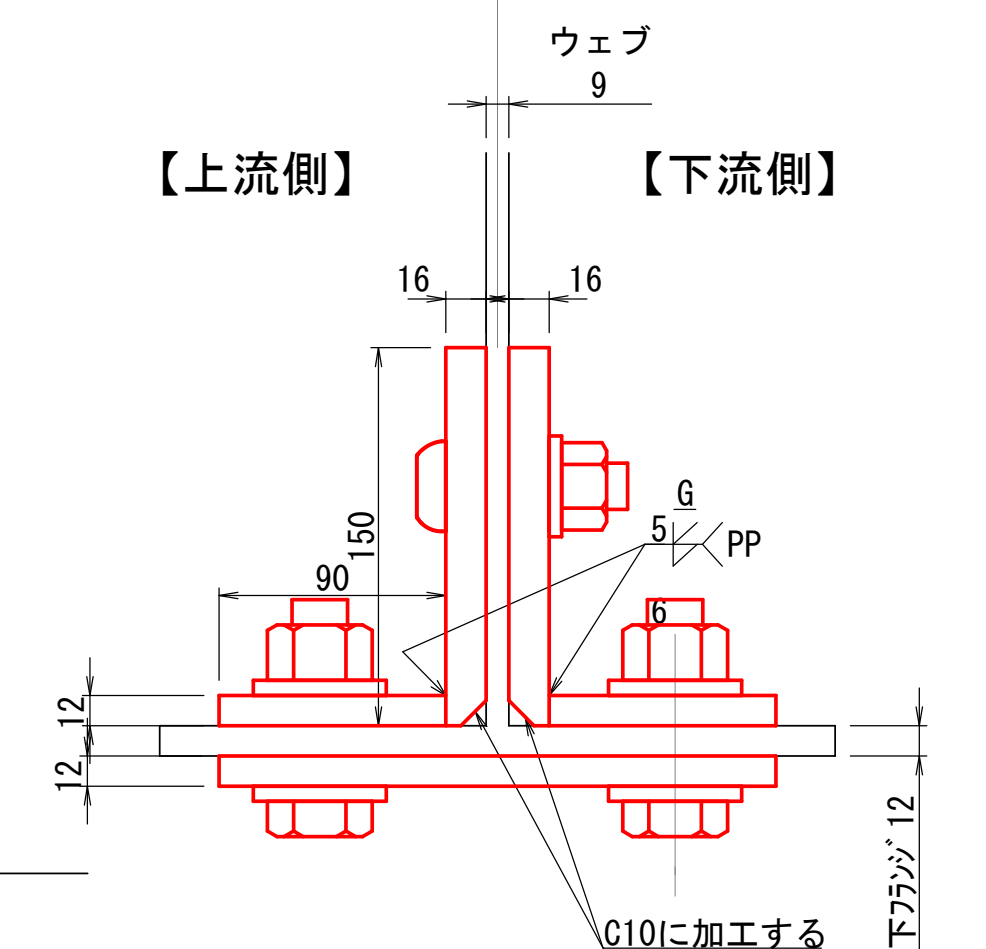
施工フロー



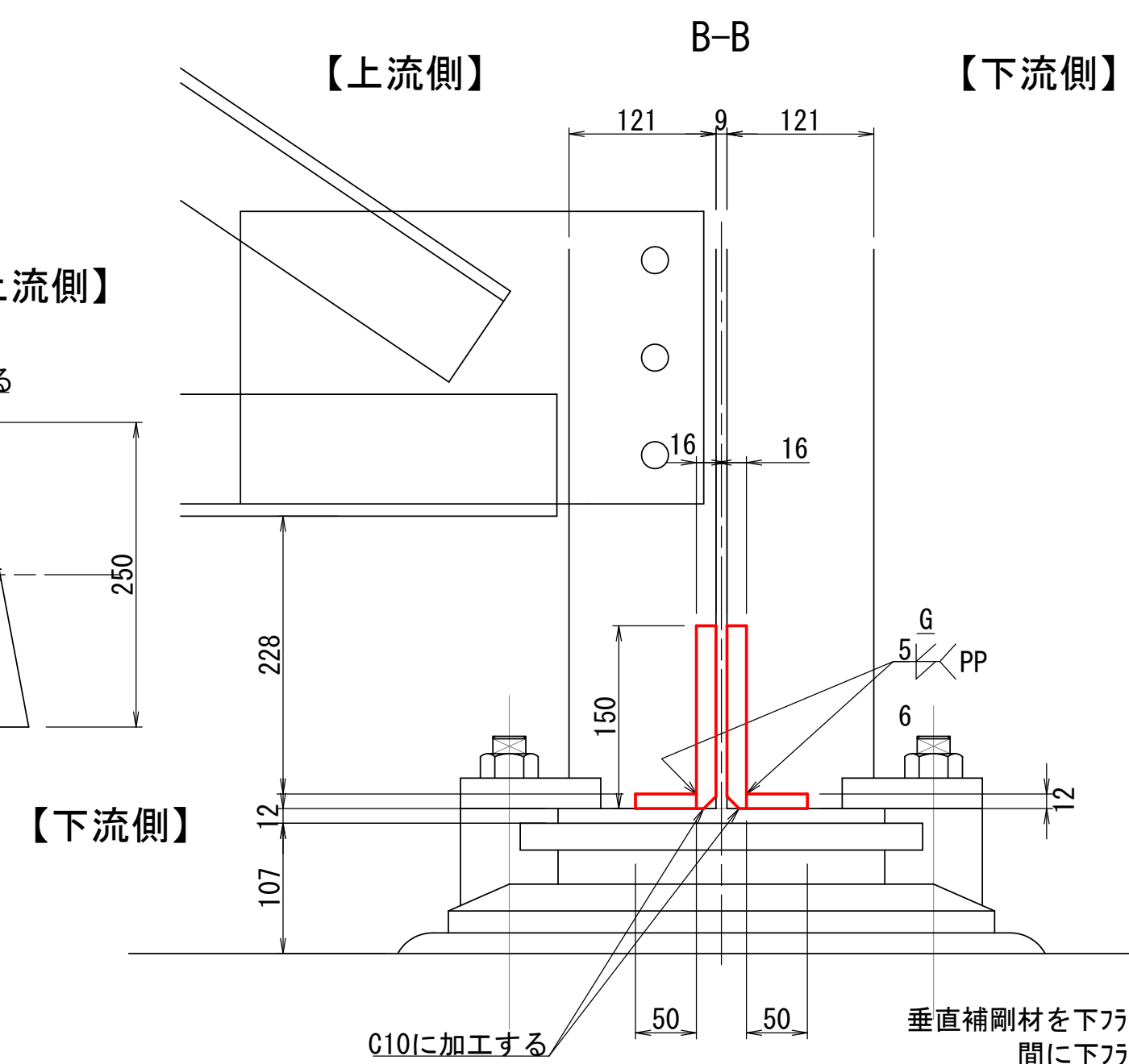
断面図 S=1:5



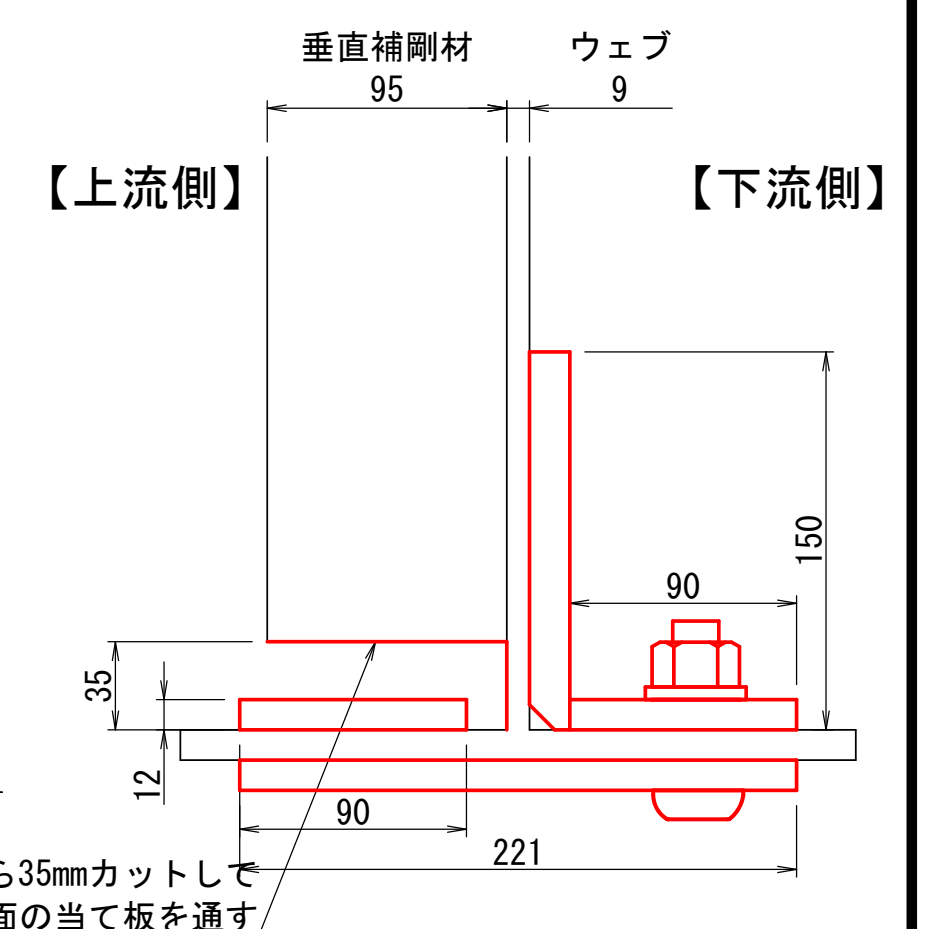
a 部詳細図 S=1:3



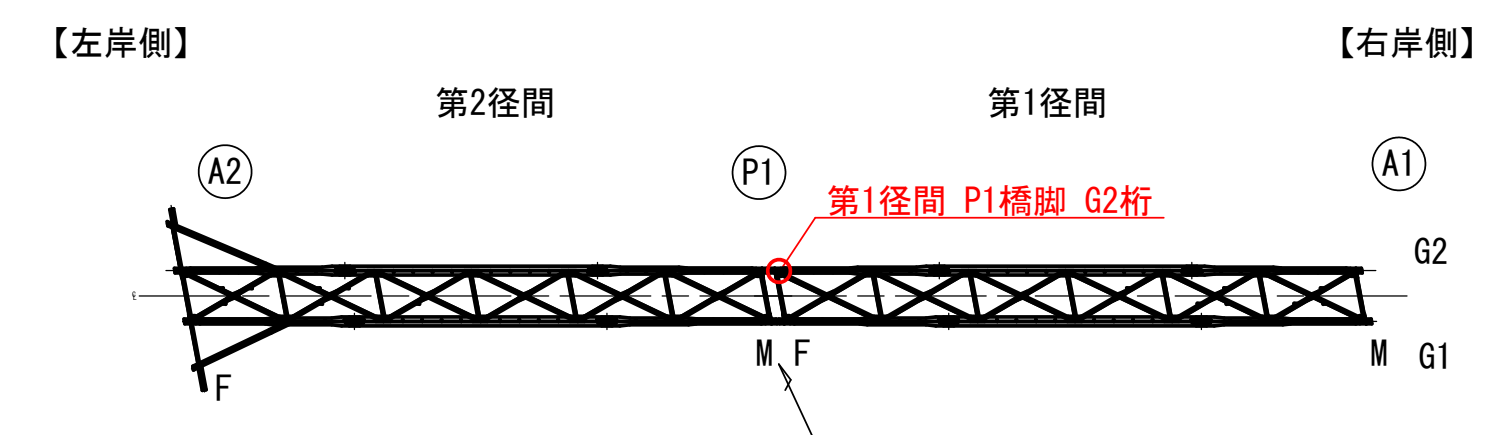
断面図 S=1:5



b 部詳細図 S=1:3



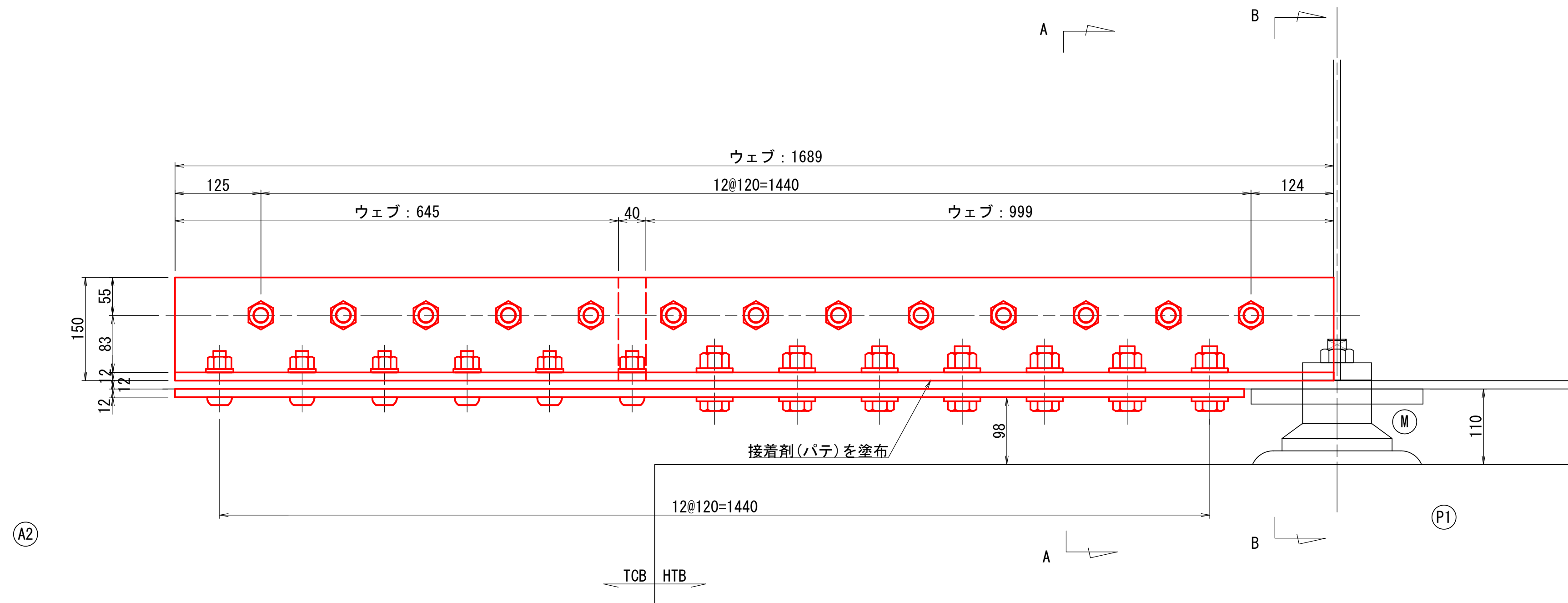
当て板補修位置図



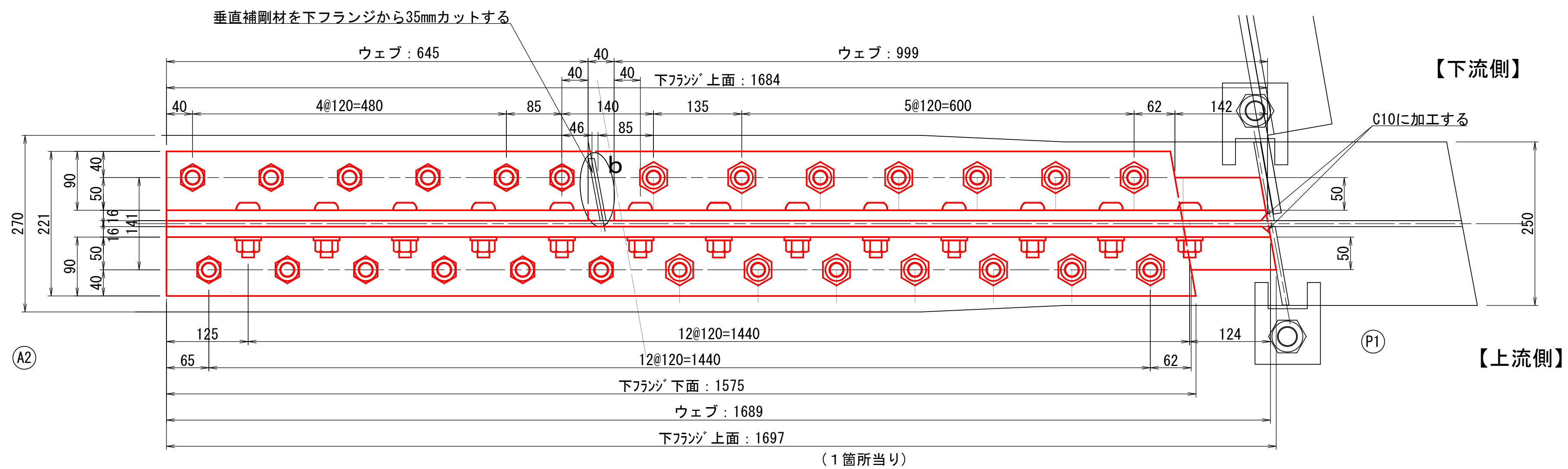
令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛	筋 加茂	郡 (市)	町 狹口	市内
猿毛橋樑修繕			工事	
猿毛橋 当て板補修図 (4)				
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 5		
測 量				
設 計	エヌシーイー株式会社		R6年 3月	
加茂市 建設課				

猿毛橋 当て板補修図(5)
第2径間 P1G1桁

側 面 図 S=1:5



平面图 S=1:5

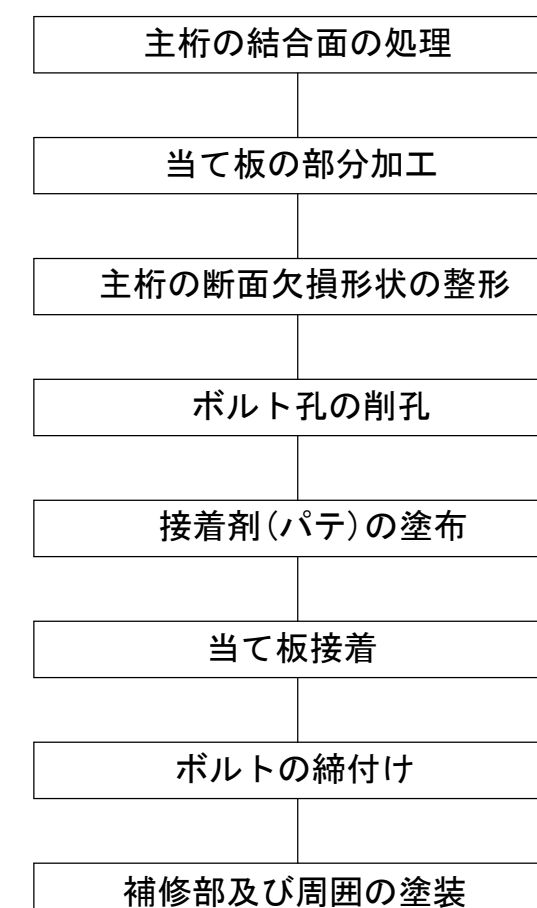


工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×1689	31.8kg	Web
		PL 150×16×999	18.8kg	Web
		PL 150×16×645	12.2kg	Web
		PL 90×12×1697	14.0kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 90×12×1684	13.7kg	L-Flg 上面 (NET率 96%)
		PL 221×12×1575	32.8kg	L-Flg 下面
ボルト孔 削孔	－	φ 24.5mm 孔	39箇所	
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	13箇所	Web
		TCB M22×75	12箇所	L-Flg
	F10T	HTB M22×80	14箇所	L-Flg
ガス切断断削仕上	－	95×35	0.13m	Stiff t=9mm

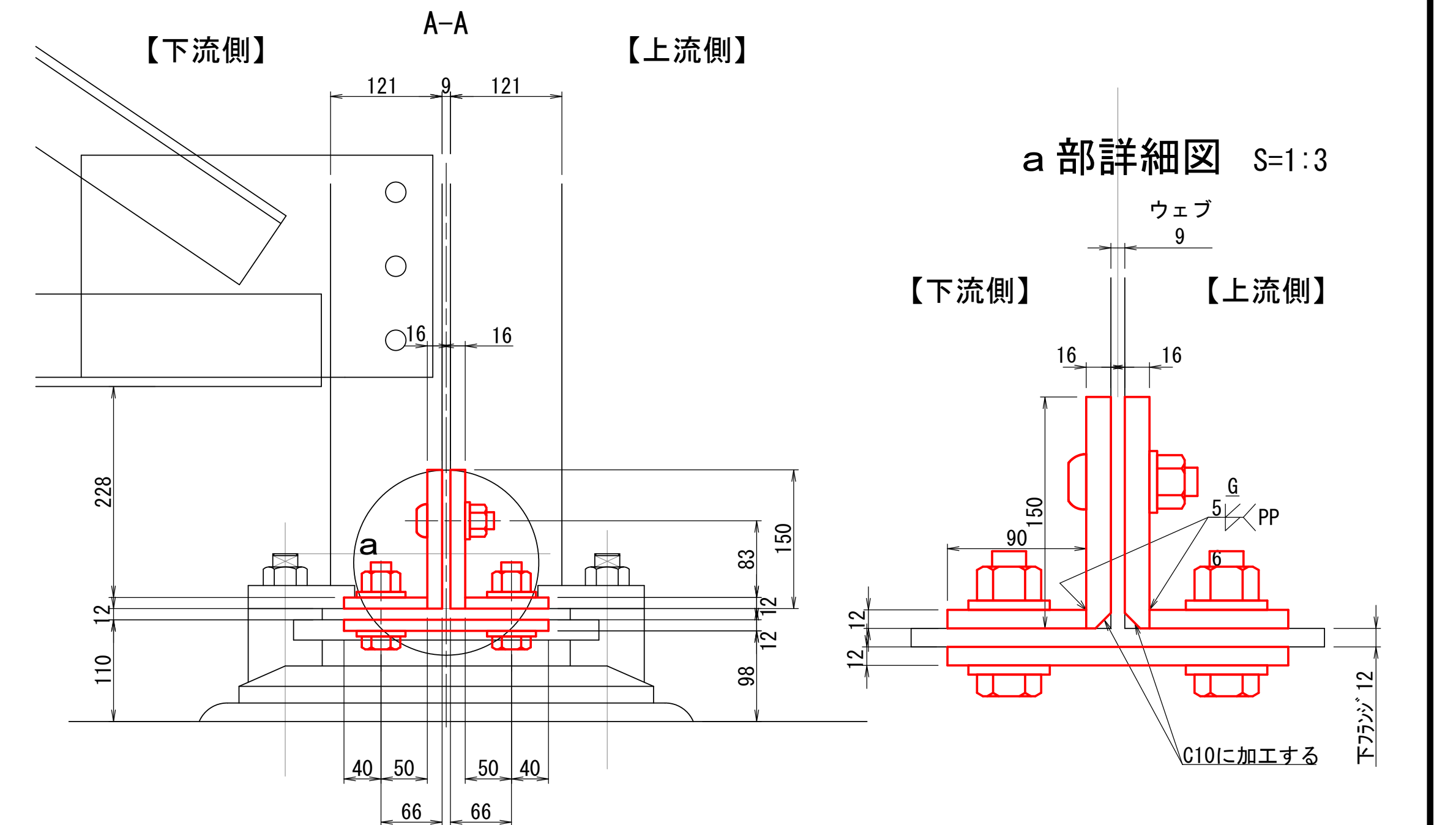
※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
※3) TCB M22×80 (S10T) 使用 (16+9+16+35=76mm)
※4) TCB M22×75 (S10T) 使用 (12+12+12+35=71mm)
※5) HTB M22×80 (F10T) 使用 (12+12+16+40=80mm) 下フランジボルト挿入必要空間 80+14=94 < 98mm
(特記)

1. 現地計測により、支承ピンチプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあける。
3. 下フランジと橋座の間隔が狭くボルトが挿入できないため、高力六角ボルトを使用する。
下から挿入が困難な場合は上から挿入して、下で手動式トルクレンチを使用して締める。
4. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

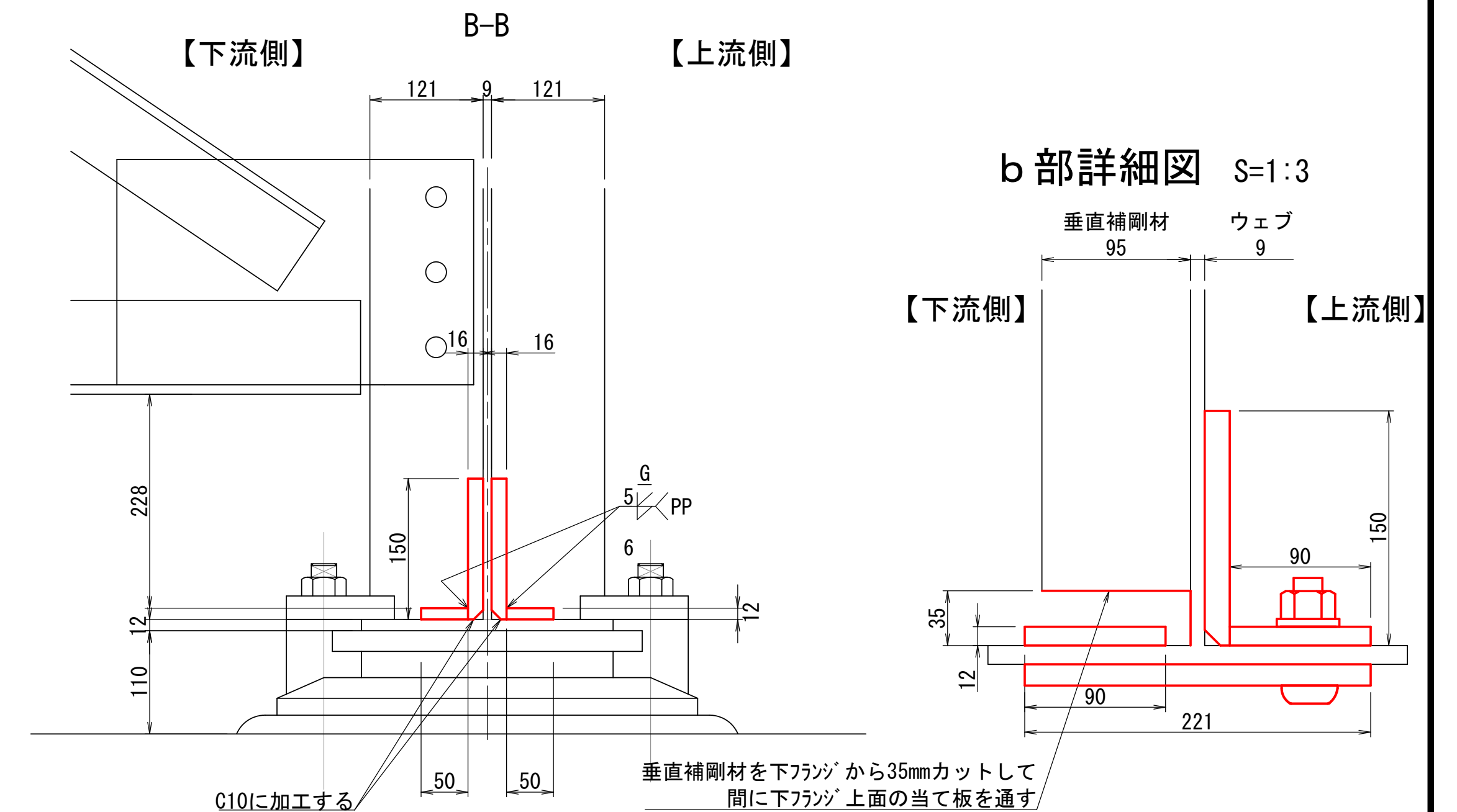
施工フロー



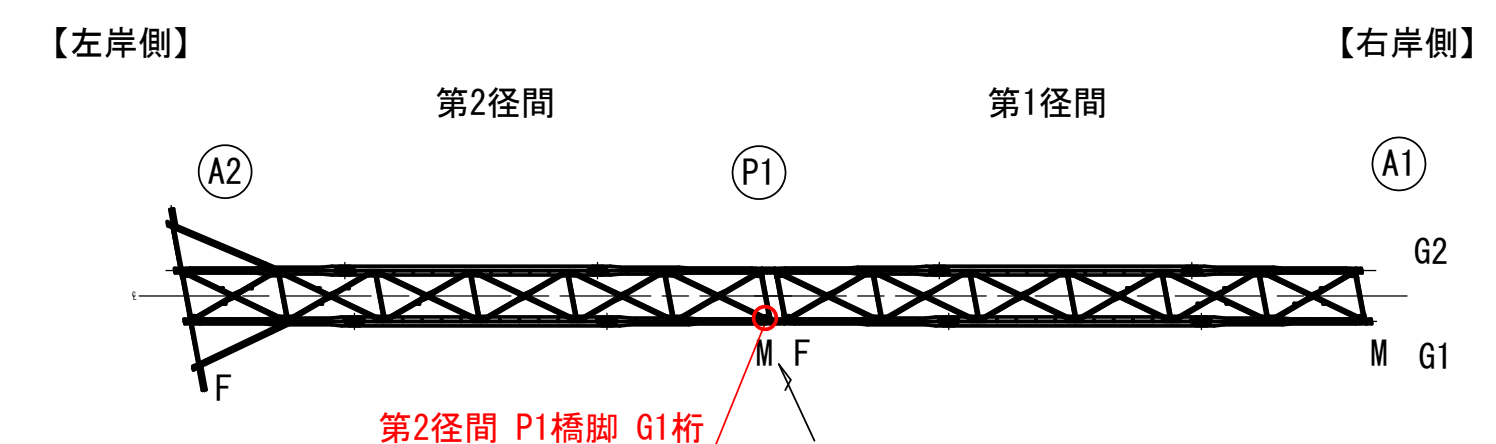
断面図 S=1:5



断面図 S=1:5

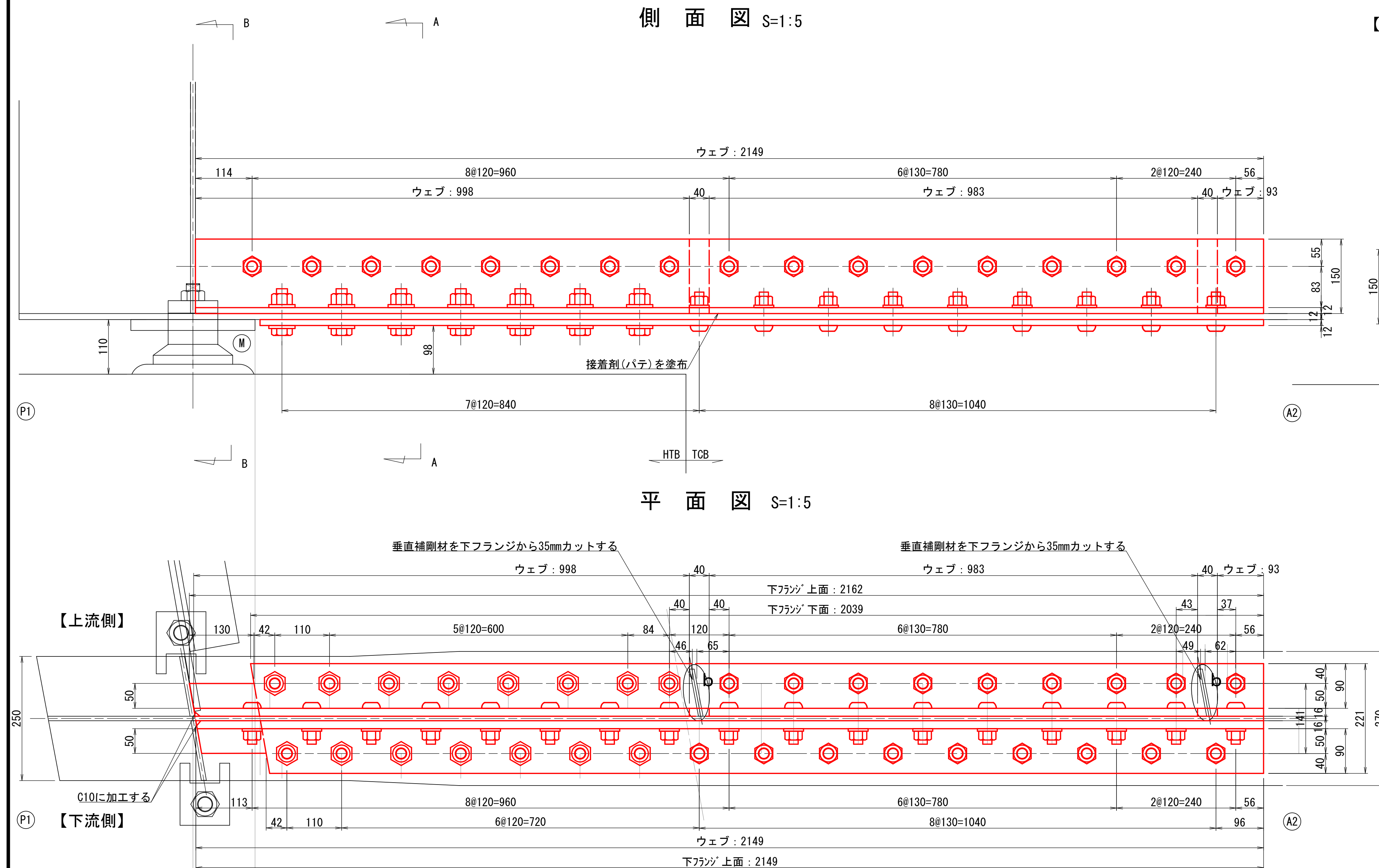


当て板補修位置図



令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡橋毛	緑 筋	郡 加茂 市	町 狹口	地内
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋 当て板補修図(5)				
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 6		
測 量				
設 計	エヌシーイー株式会社			R6年 3月
加茂市 建設課				

猿毛橋 当て板補修図(6)
第2径間 P1G2桁

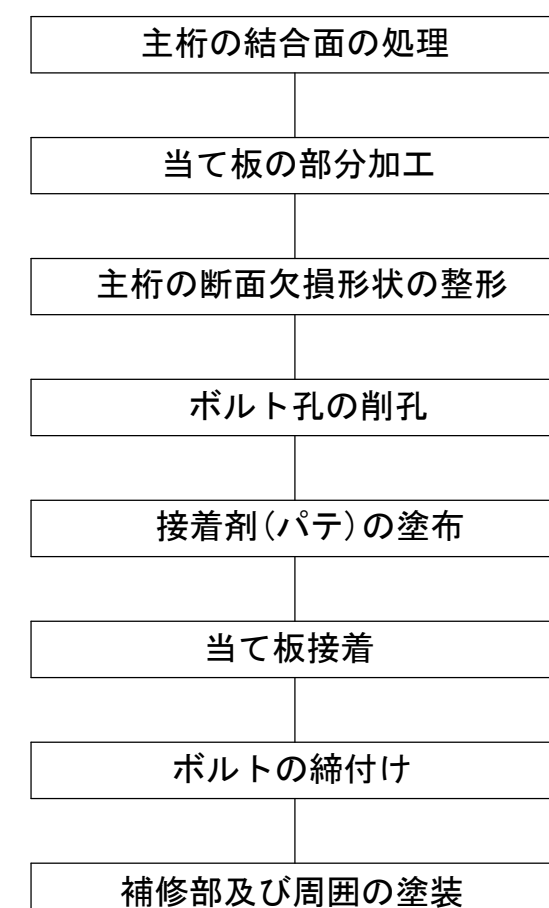


工 種	材質	サイズ	数 量	備 考
工場製作	SM490YA	PL 150×16×2149	40.5kg	Web
		PL 150×16×998	18.8kg	Web
		PL 150×16×983	18.5kg	Web
		PL 150×16×93	1.8kg	Web
		PL 90×12×2149	17.7kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
		PL 90×12×2162	17.8kg	L-Flg 上面 (NET率 97%)
ボルト孔 削孔	－	PL 221×12×2039 φ24.5mm 孔	42.4kg	L-Flg 下面 50箇所
ボルト取付	S10T	TCB M22×80	17箇所	Web
		TCB M22×75	18箇所	L-Flg
	F10T	HTB M22×80	15箇所	L-Flg
ガス切断削削仕上	－	95×35 2箇所	0.26m	Stiff t=9mm

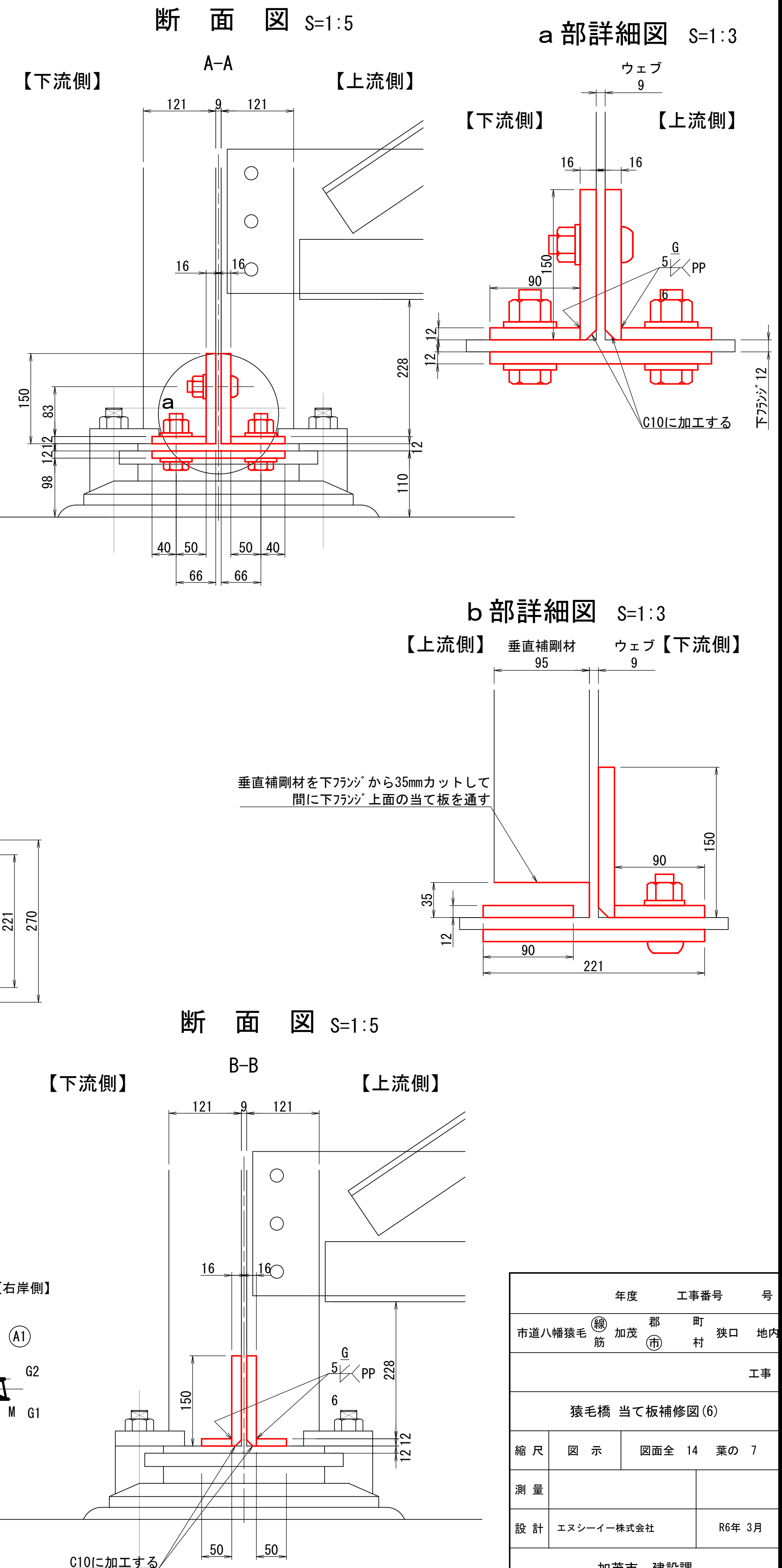
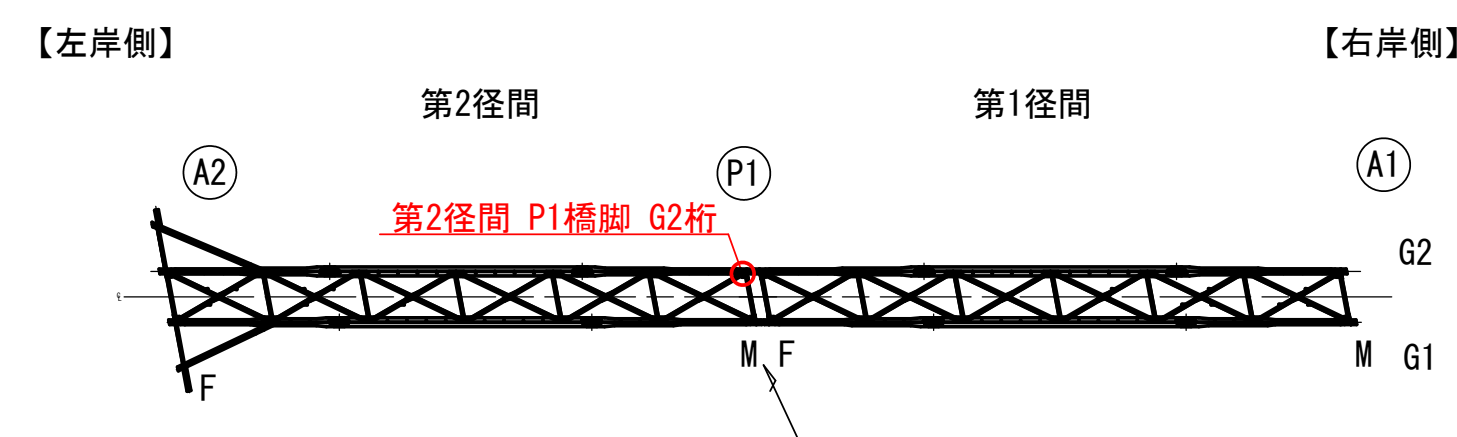
※1) PLは工場製作とし現地で微調整する
※2) ウェブと下フランジは工場で溶接する
※3) TCB M22×80 (S10T) 使用 (16+9+16+35=76mm)
※4) TCB M22×75 (S10T) 使用 (12+12+12+35=71mm)
※5) HTB M22×80 (F10T) 使用 (12+12+16+40=80mm) 下フランジボルト挿入必要空間 80+14=94 < 98mm
特記)

1. 現地計測により、支承ピンプレート及び垂直補剛材の位置を確認し工事に反映させる。
2. b部垂直補剛材は下フランジから35mmの位置でカットして間隔をあける。
3. 下フランジと橋座の間隔が狭くボルトが挿入できないため、高力六角ボルトを使用する。
下から挿入が困難な場合は上から挿入して、下で手動式トルクレンチを使用して締める。
4. ボルトの締め付けは、下フランジウェブの順番で行う。

施工フロー



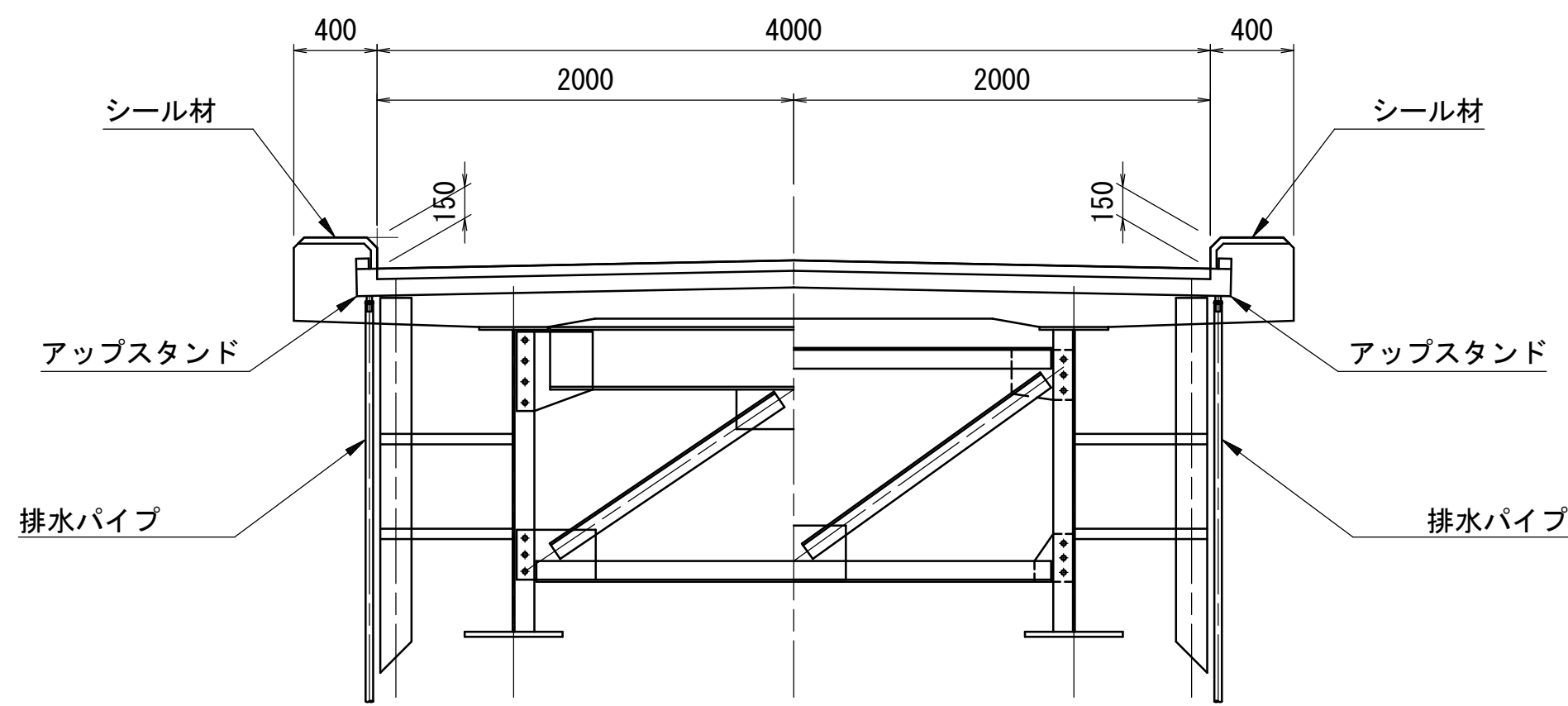
当て板補修位置図



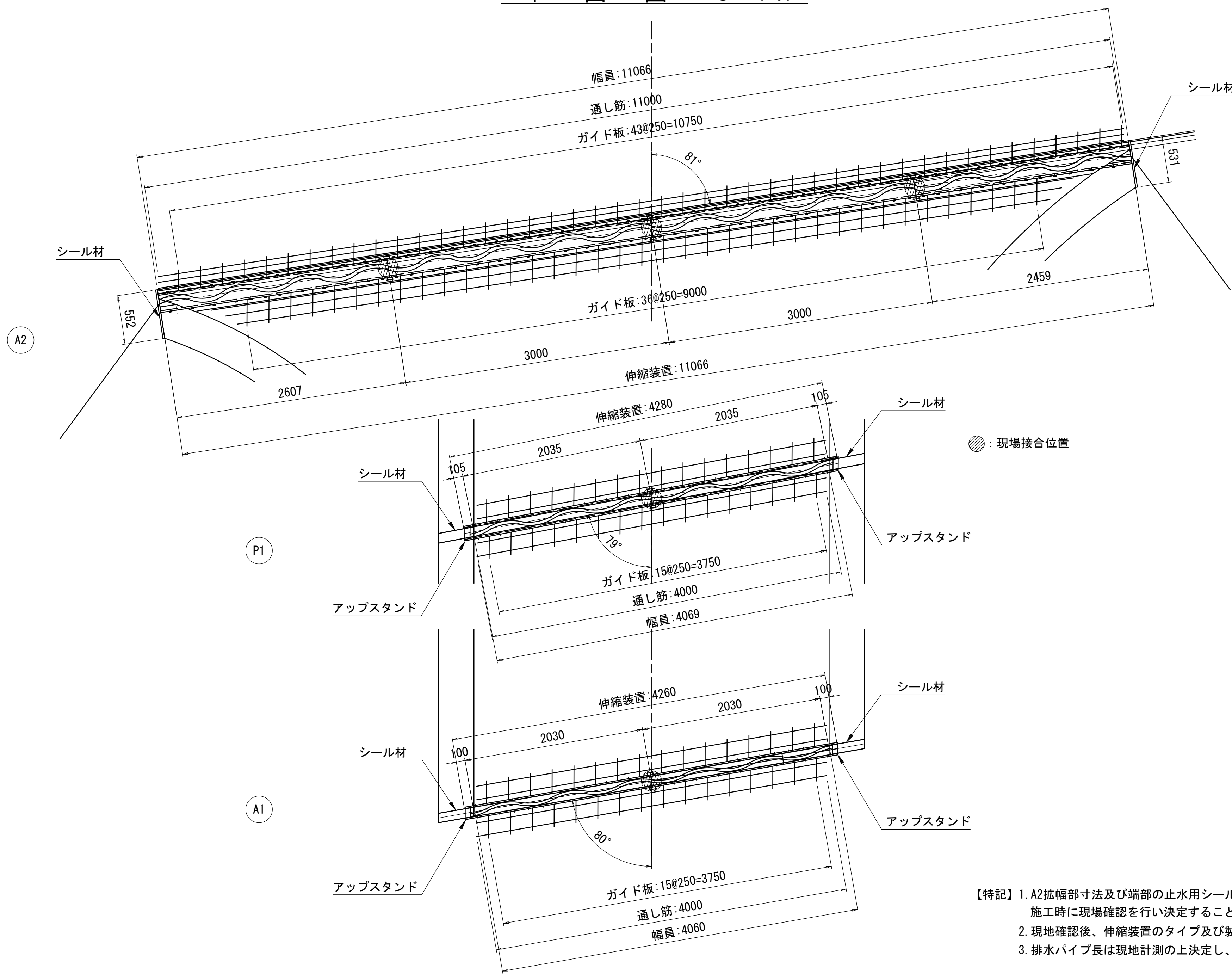
年度		工事番号		号
市道八幡猿毛	(緑筋)	加茂市	町村	狭口 地内
				工事
猿毛橋 当て板補修図 (6)				
縮尺	図示	図面全 14 葉の 7		
測量				
設計	エヌシーイー株式会社			R6年 3月
加茂市 建設課				

猿毛橋 伸縮装置詳細図(1)

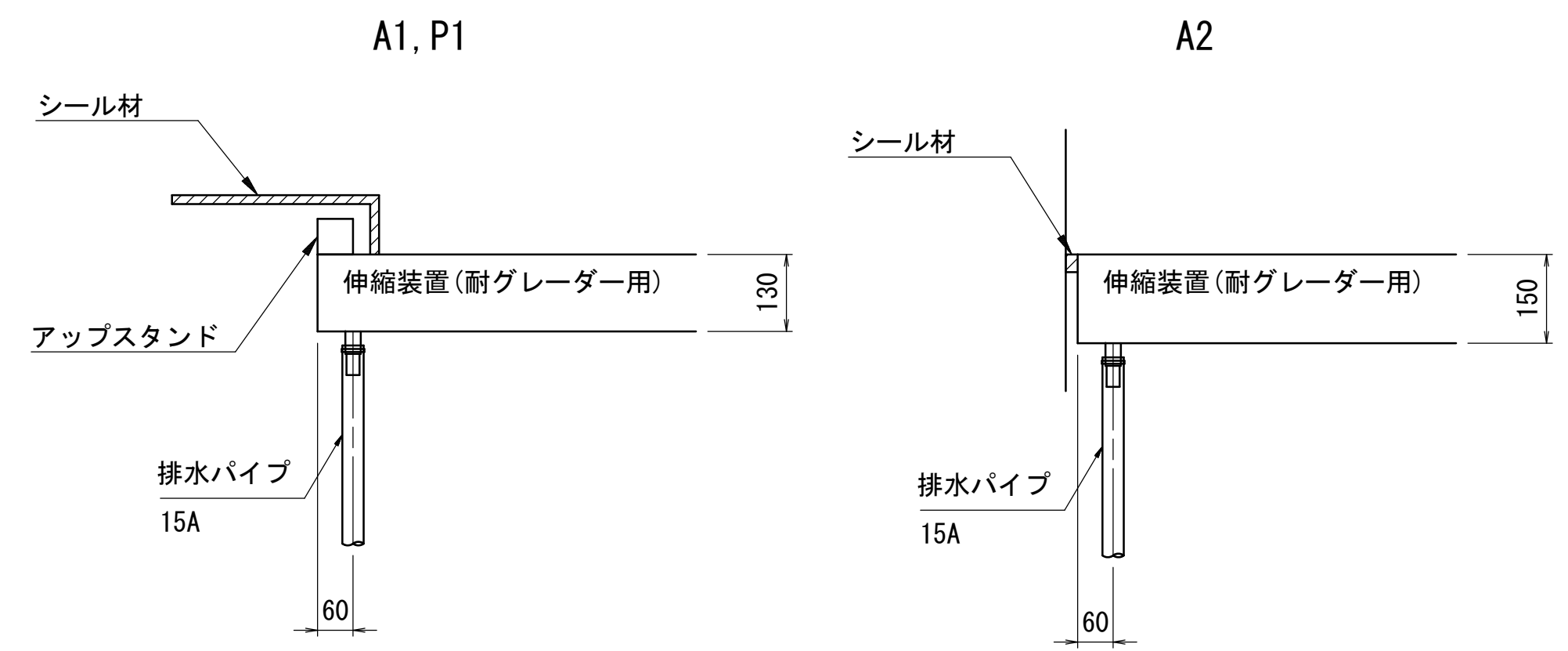
断面図 S = 1:30



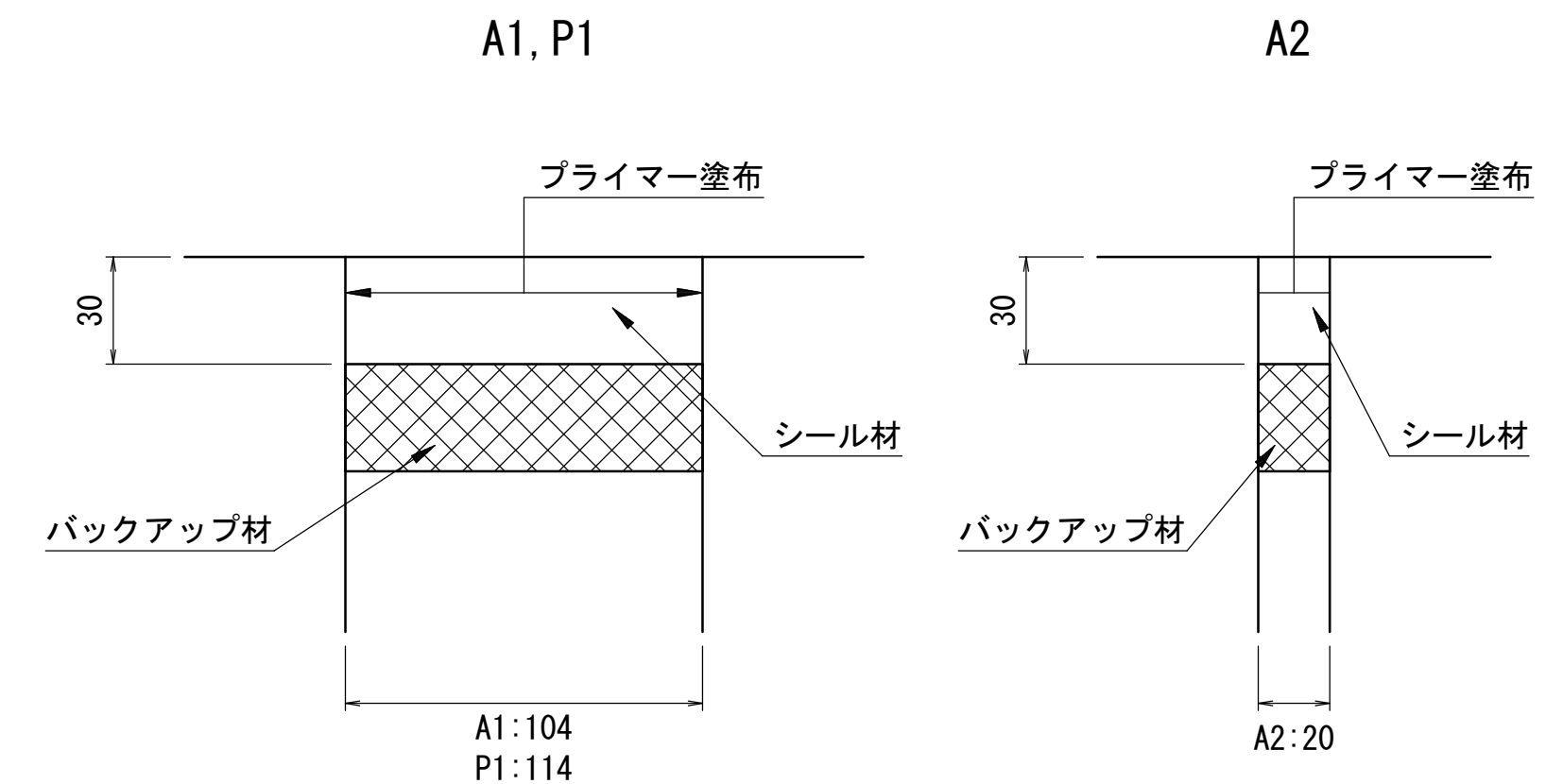
平面図 S = 1:30



止水処理図 S = 1:10

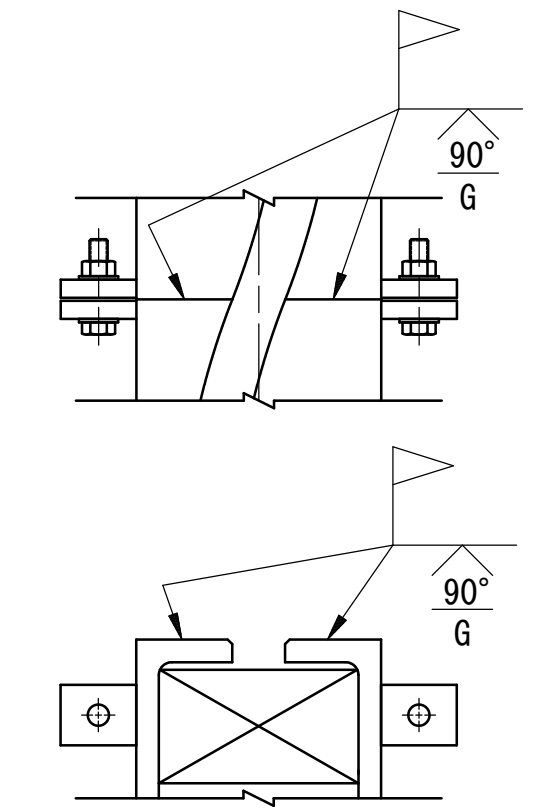


シール材充填図 S = 1:2



現場接合部詳細

ブロフジョイントCD x 型



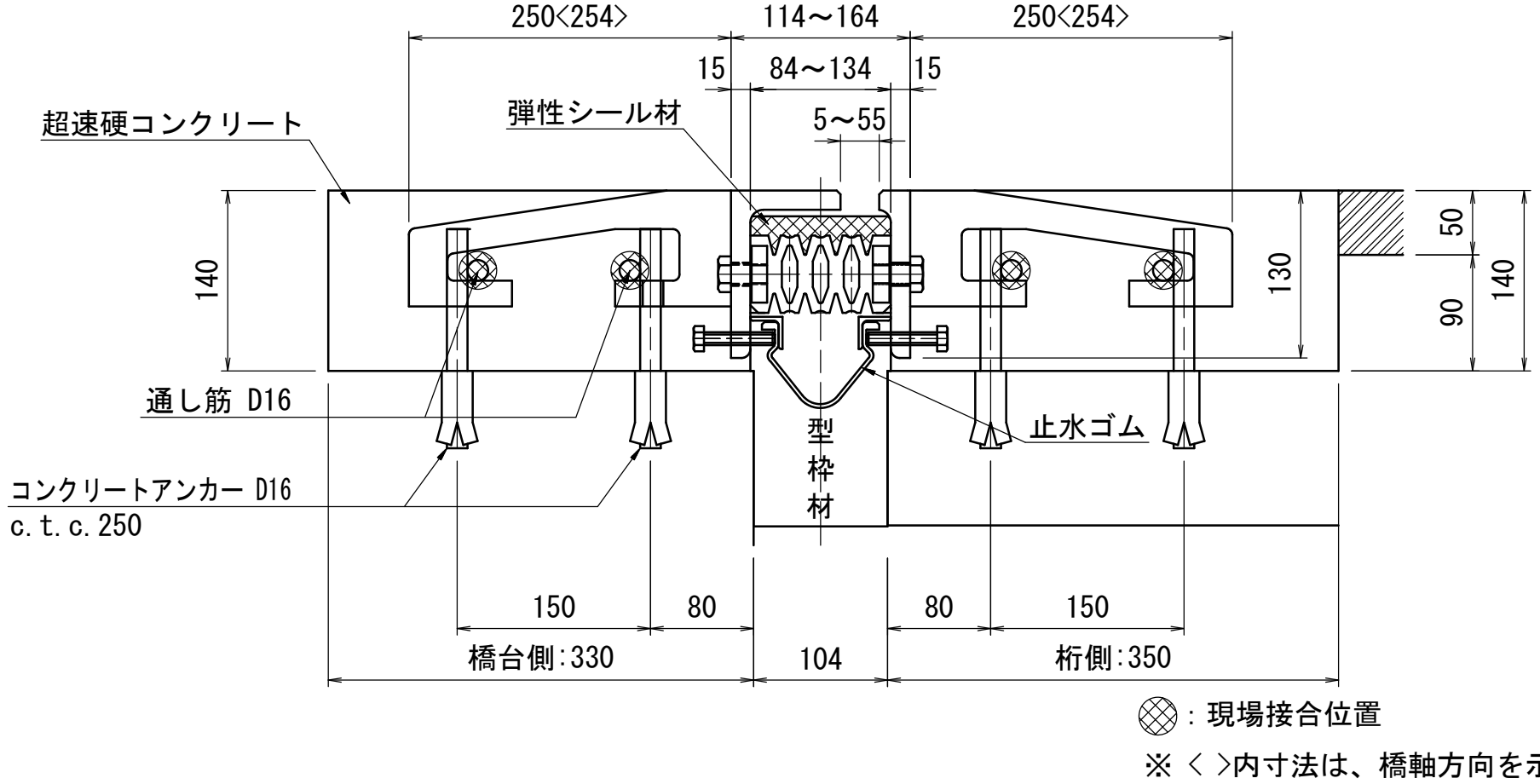
【特記】 1. A2拡幅部寸法及び端部の止水用シール処理については
施工時に現場確認を行い決定すること。
2. 現地確認後、伸縮装置のタイプ及び製作長などを決定すること。
3. 排水パイプ長は現地計測の上決定し、下部工等に固定すること。

令和 8 年度	工事番号	号
市道八幡猿毛(筋加茂市)村狭口	市内	
猿毛橋橋梁修繕	工事	
猿毛橋 伸縮装置詳細図(1)		
縮尺	図示	図面全 14 葉の 8
測量		年月
設計	エヌシーイー株式会社	R5年 月
加茂市 建設課		

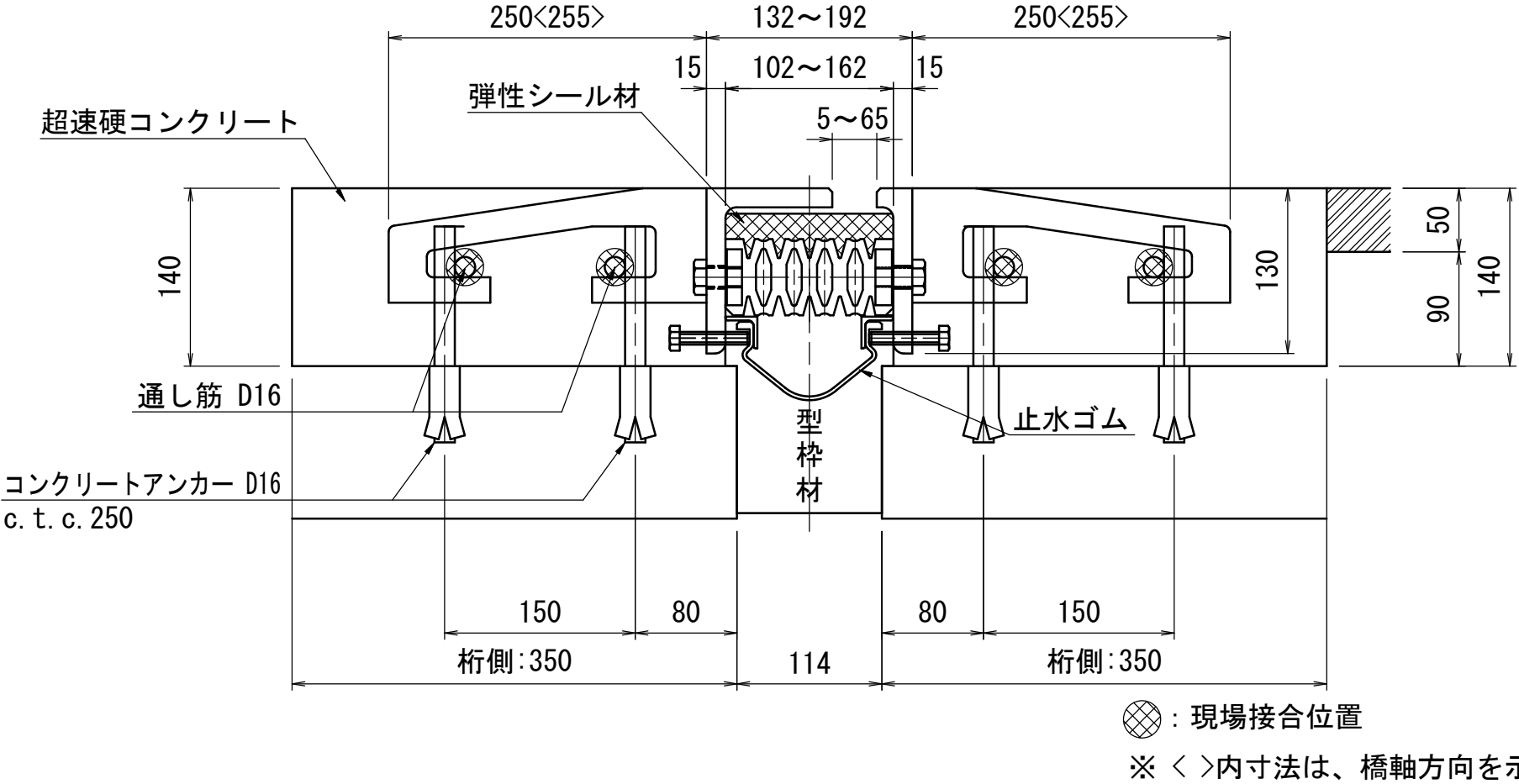
猿毛橋 伸縮装置詳細図(2)

伸縮裝置断面図 $S = 1:5$

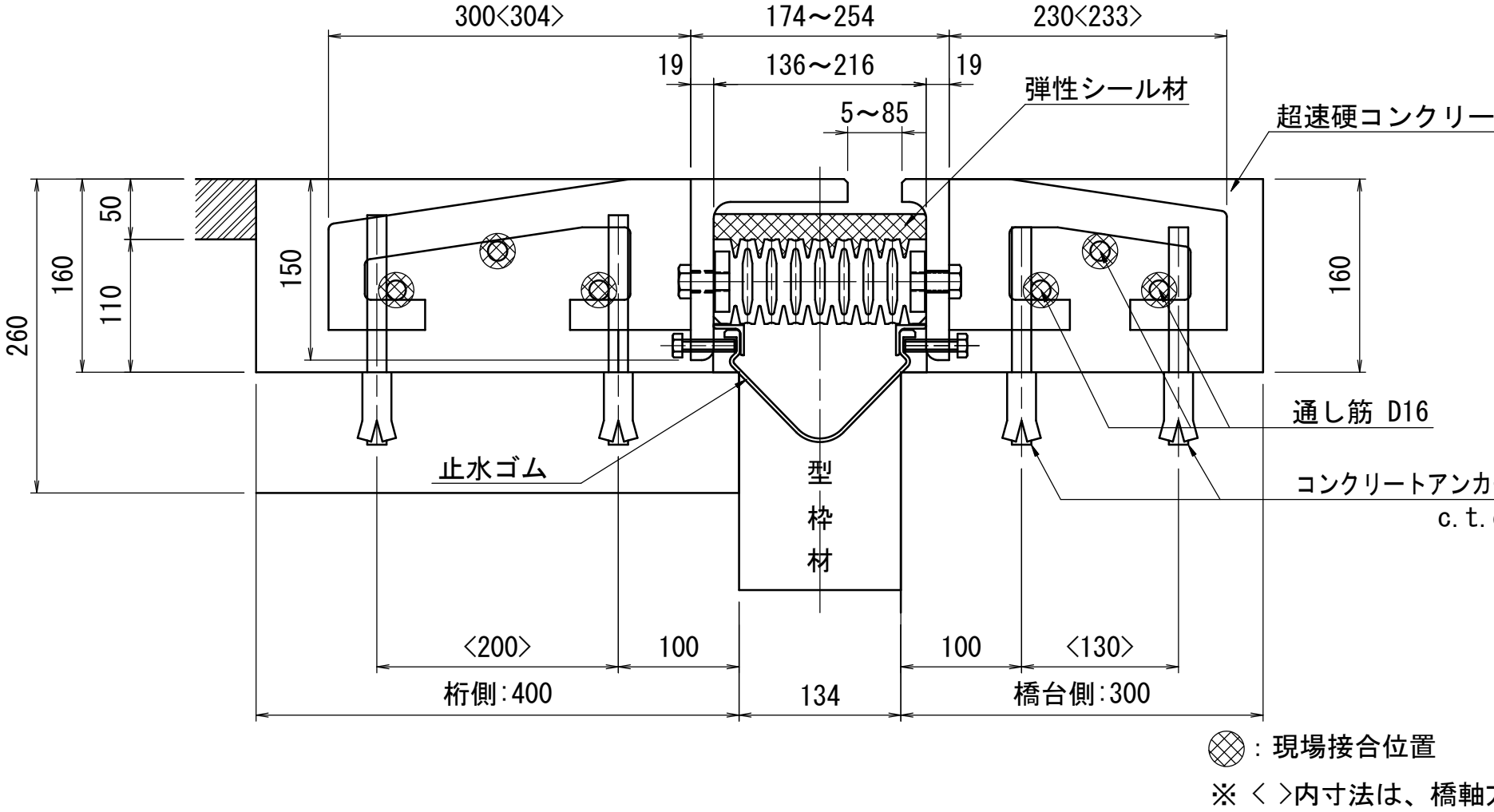
ブロフジョイントCDx型-50用樋付
A1 耐グレーダー用(改)



ブロフジョイントCDx型-60用樋付
P1 耐グレーダー用(改)

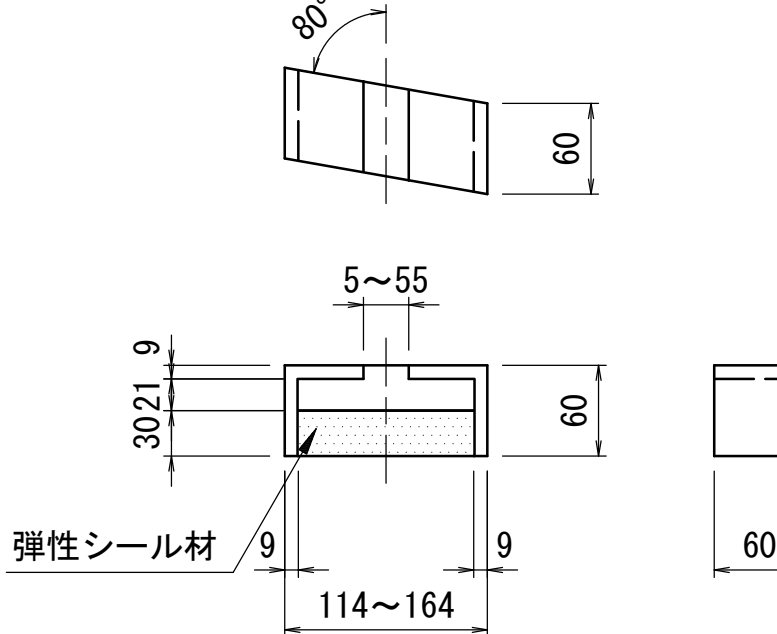


ブロフジョイントCDx型-80用樋付
A2 耐グレーダー用(改)

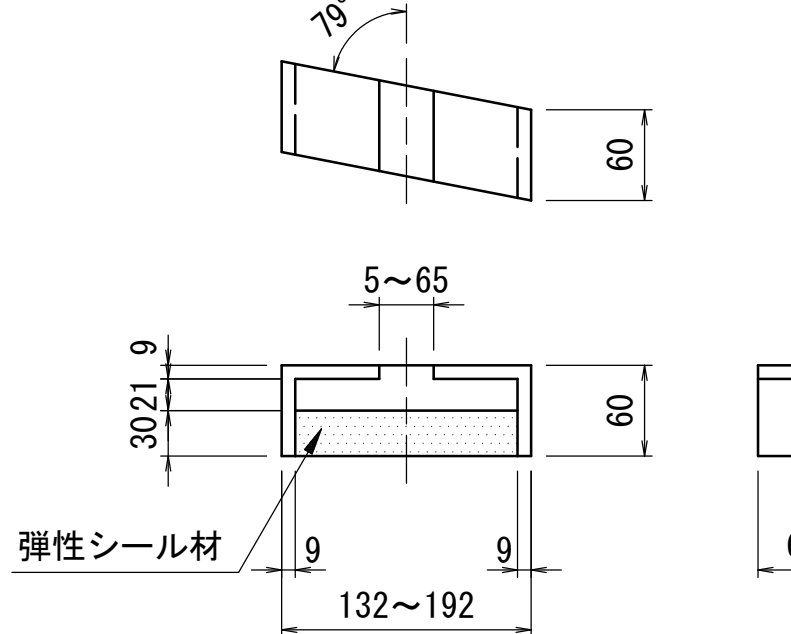


アップスタンド S = 1:1

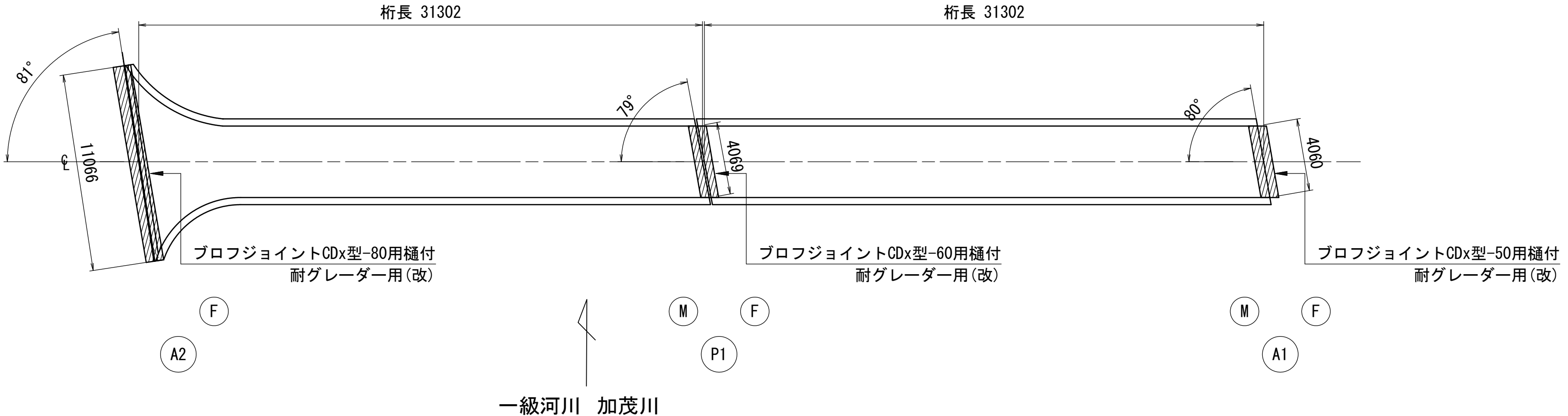
A1
 ブロフジョイントCDx型-50用



P1
 ブロフジョイントCDx型-60用



配置図 $S = 1:100$



伸縮裝置材料表

名 称	材 質	単位	A1 (F)	P1 (M)	A2 (M)	合計	備 考
プロフジョイントCDx型-50用樋付	SS400 合成ゴム 弾性シール材	m	4. 260			4. 260	耐グレーダー用(改)
プロフジョイントCDx型-60用樋付	SS400 合成ゴム 弾性シール材	m		4. 280		4. 280	耐グレーダー用(改)
プロフジョイントCDx型-80用樋付	SS400 合成ゴム 弾性シール材	m			11. 066	11. 066	耐グレーダー用(改)
シール材	シリコン系	リッター	3. 47	3. 81	0. 65	7. 93	
バックアップ材		m	1. 112	1. 114	1. 083	3. 309	A1, P1 : □200, A2 : □
超速硬コンクリート		m3	0. 406	0. 419	1. 239	2. 064	
通し筋	SD345	m	16. 000	16. 000	66. 000	98. 000	D16
アップスタンド	SS400 弾性シール材	箇所	2	2		4	
コンクリートアンカー	SD345	本	64	64	162	290	D16
排水パイプ	ステンレス	本	2	2	2	6	15Ax5000
サドルバンド	ステンレス	個	10	10	10	30	@1000
C D x型用接着剤		式	1	1	1	3	50用、60用、80用

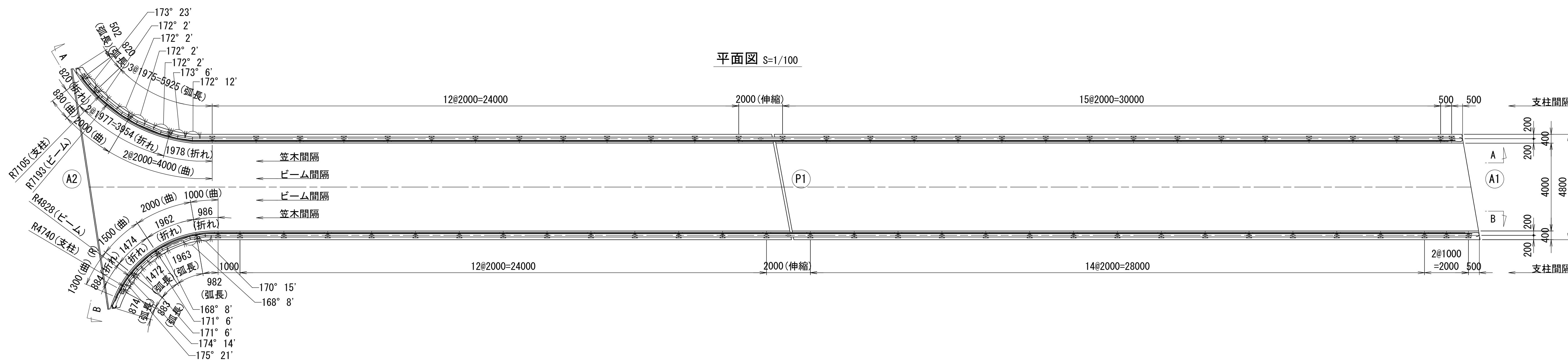
※1 カッター幅及びはつり深さは、現場確認の上、決定のこと。

※2 現地確認後、タイプ及び製作長など決定のこと。

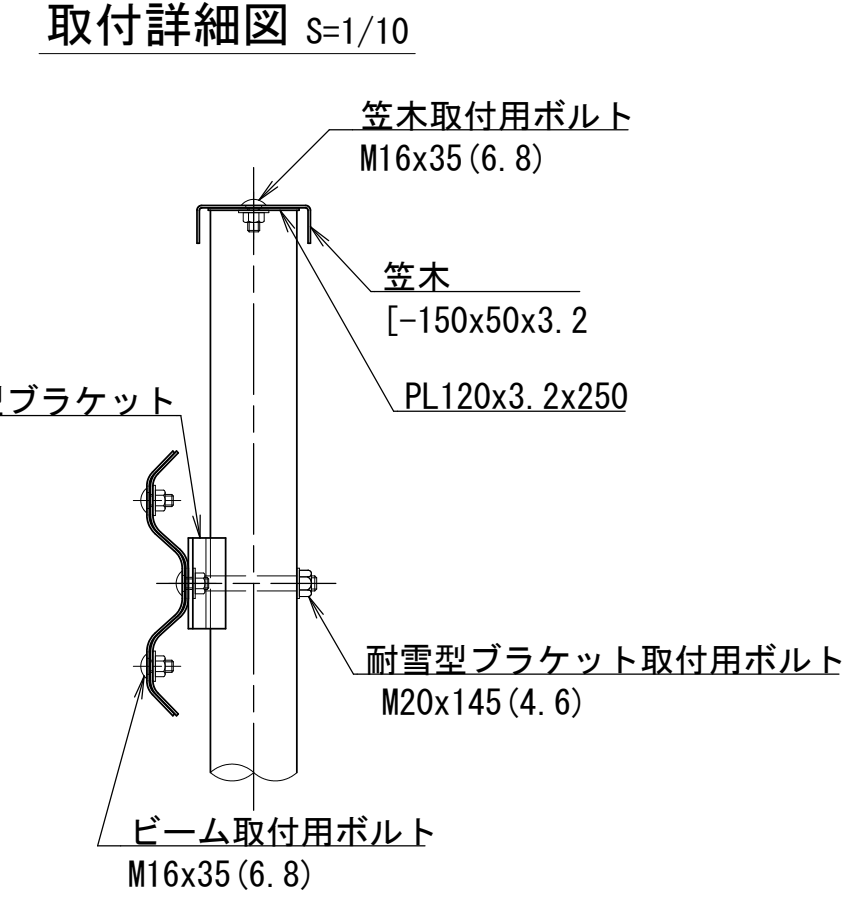
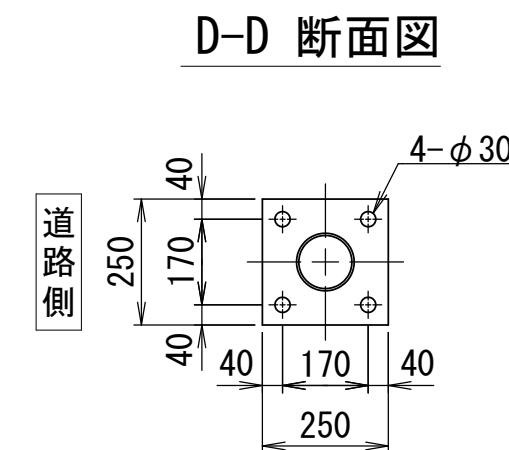
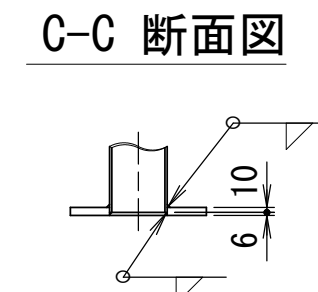
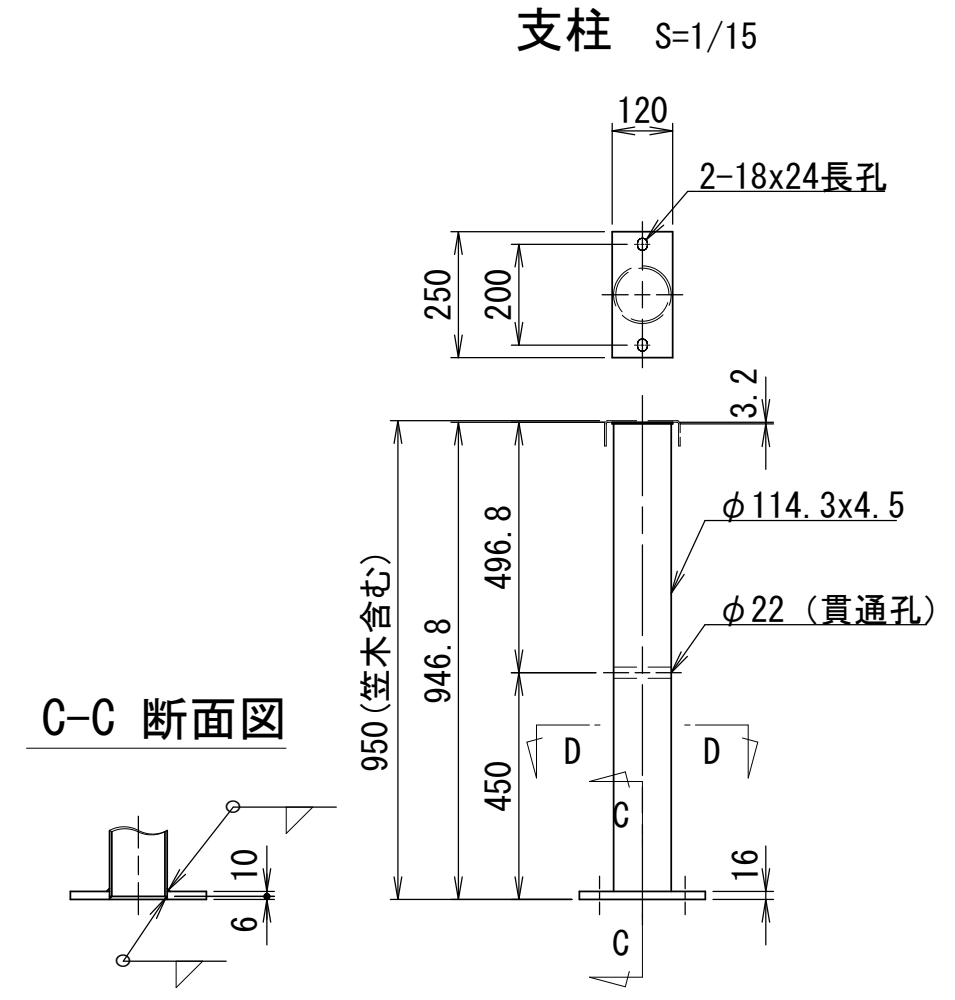
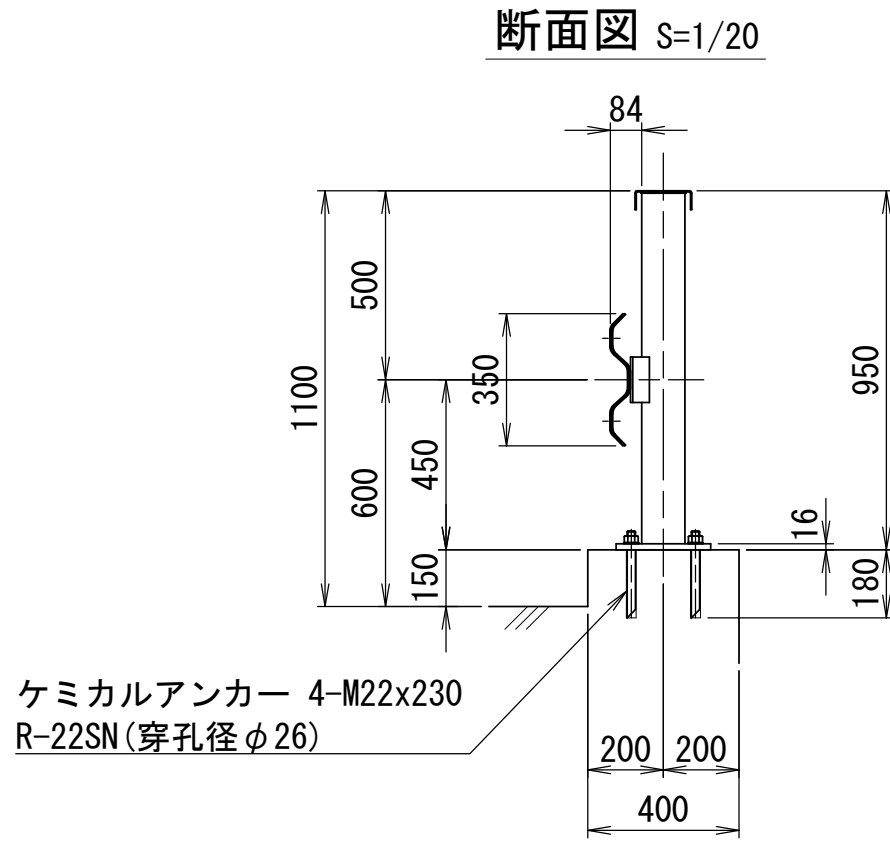
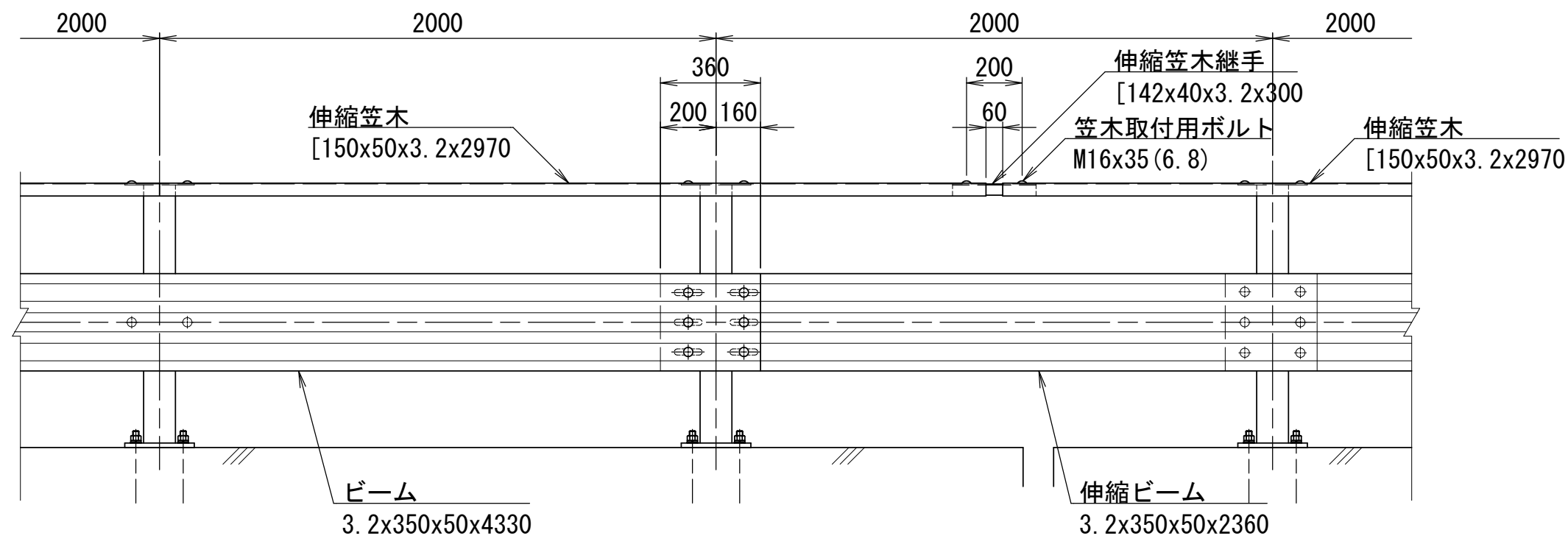
※3 排水パイプ長およびサドルバンド個数は、現地測量のうえ決定すること。

令和 8 年度	工事番号	号
市道八幡猿毛(緑筋)加茂郡(市)町村	狭口	地内
猿毛橋橋梁修繕		工事
猿毛橋 伸縮装置詳細図(2)		
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 9
測 量	年 月	
設 計	エヌシーイー株式会社	R6年 月
加茂市 建設課		

猿毛橋 ガードレール詳細図 (その1)

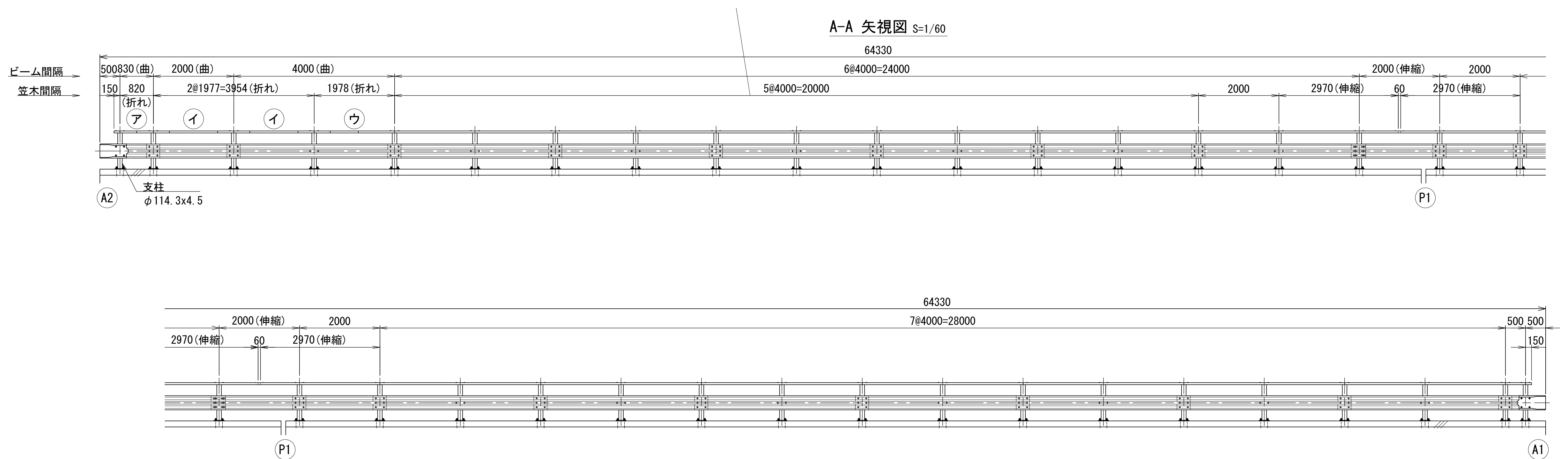


伸縮部詳細図 S=1/20

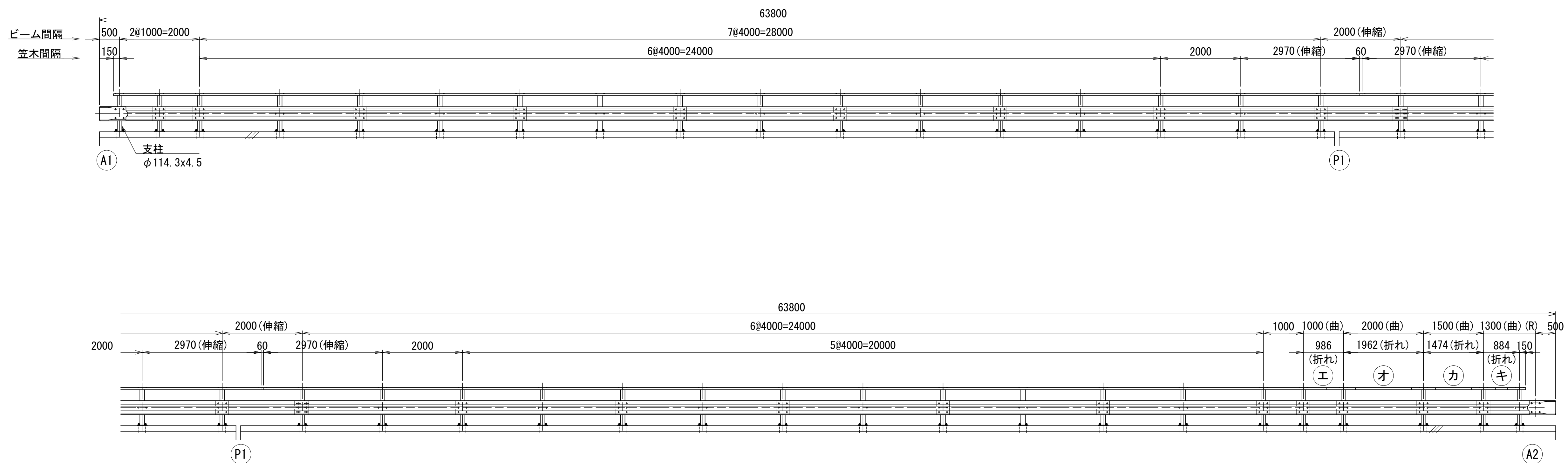


令和 8 年度	工事番号	号
市道八幡猿毛筋 (加茂市) 町 狭口 地内		
猿毛橋橋梁修繕		工事
猿毛橋 ガードレール詳細図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 10
測 量		年 月
設 計	エヌシーイー株式会社	R6年 3月
加茂市 建設課		

猿毛橋 ガードレール詳細図（その2）



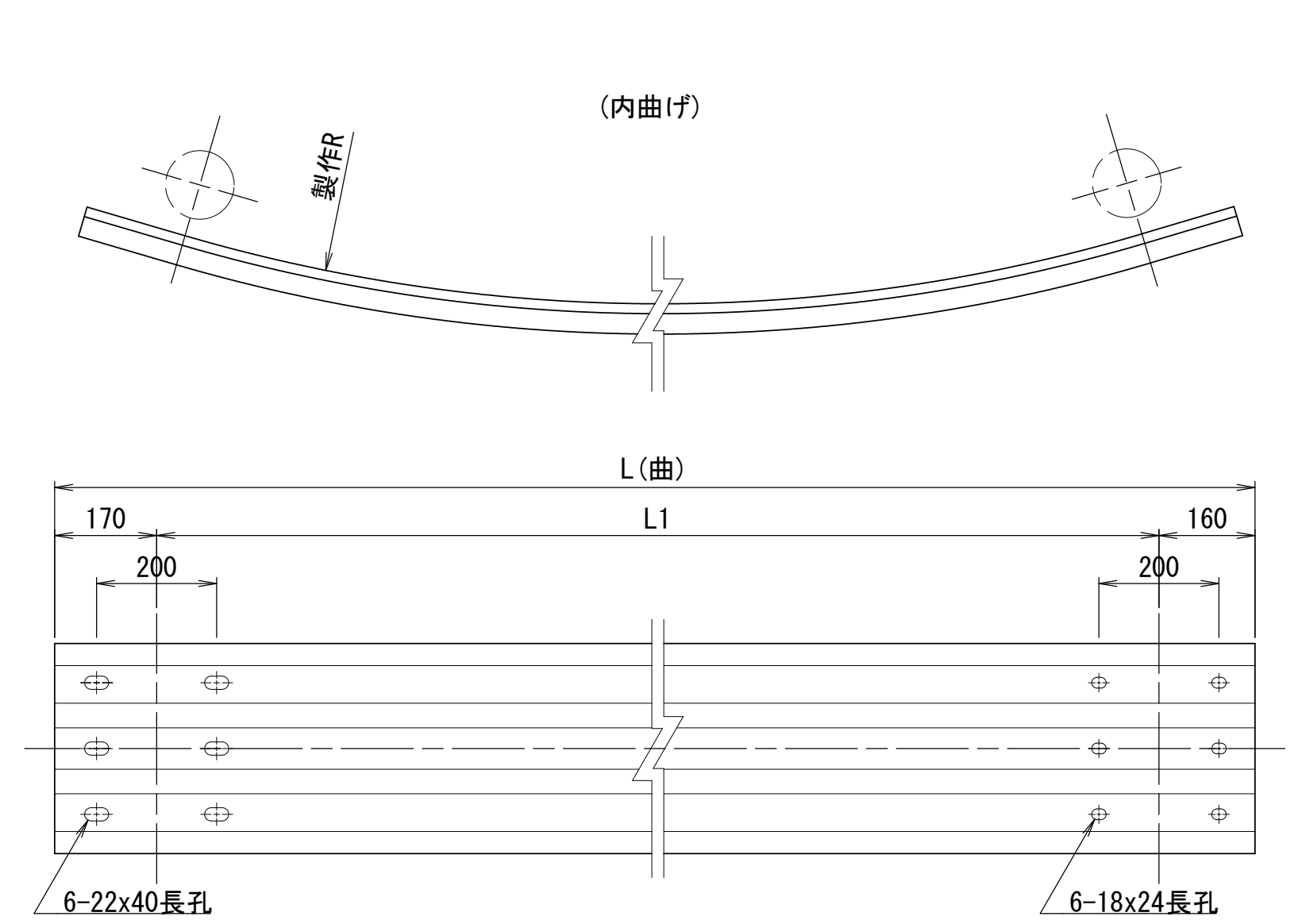
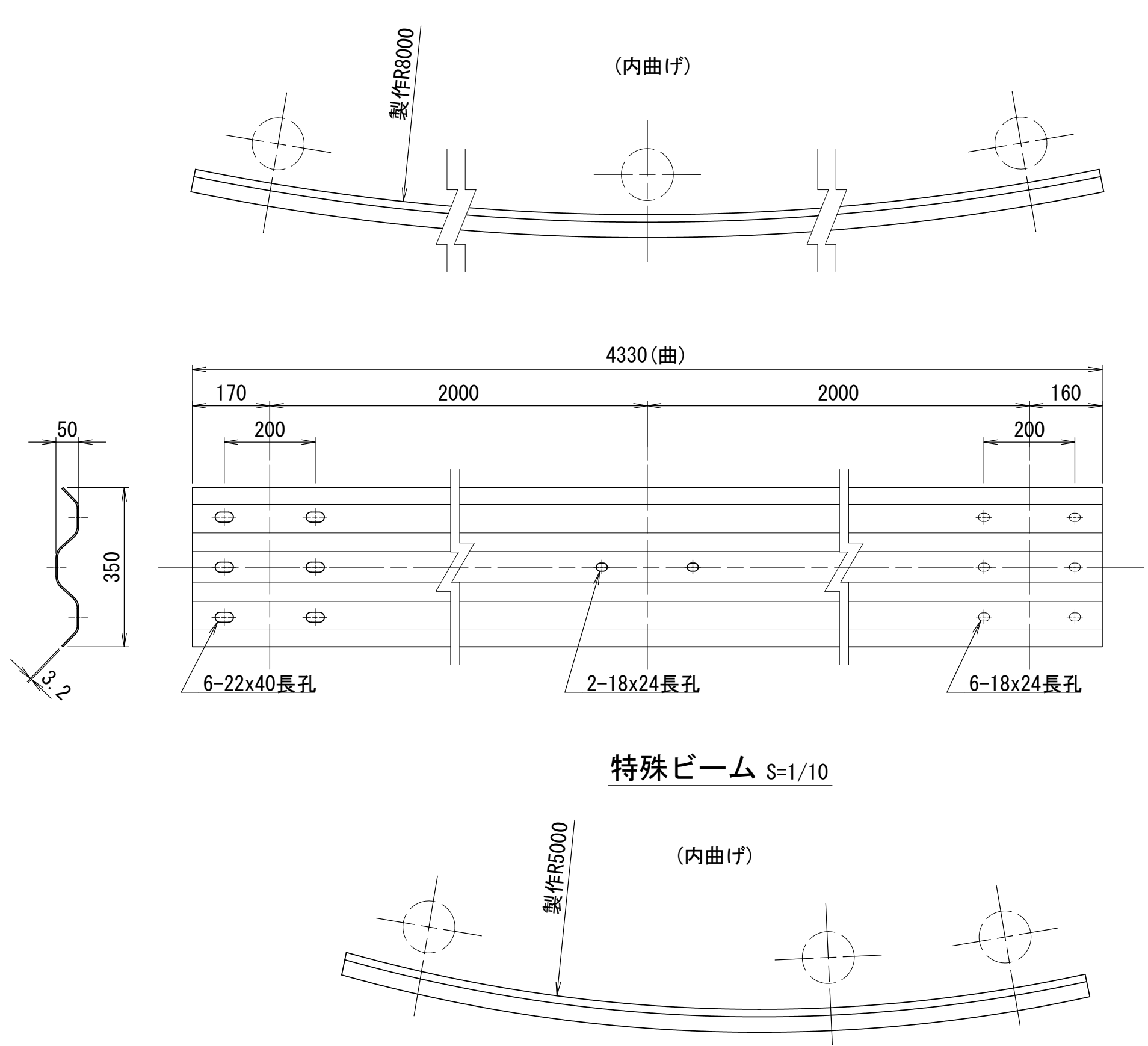
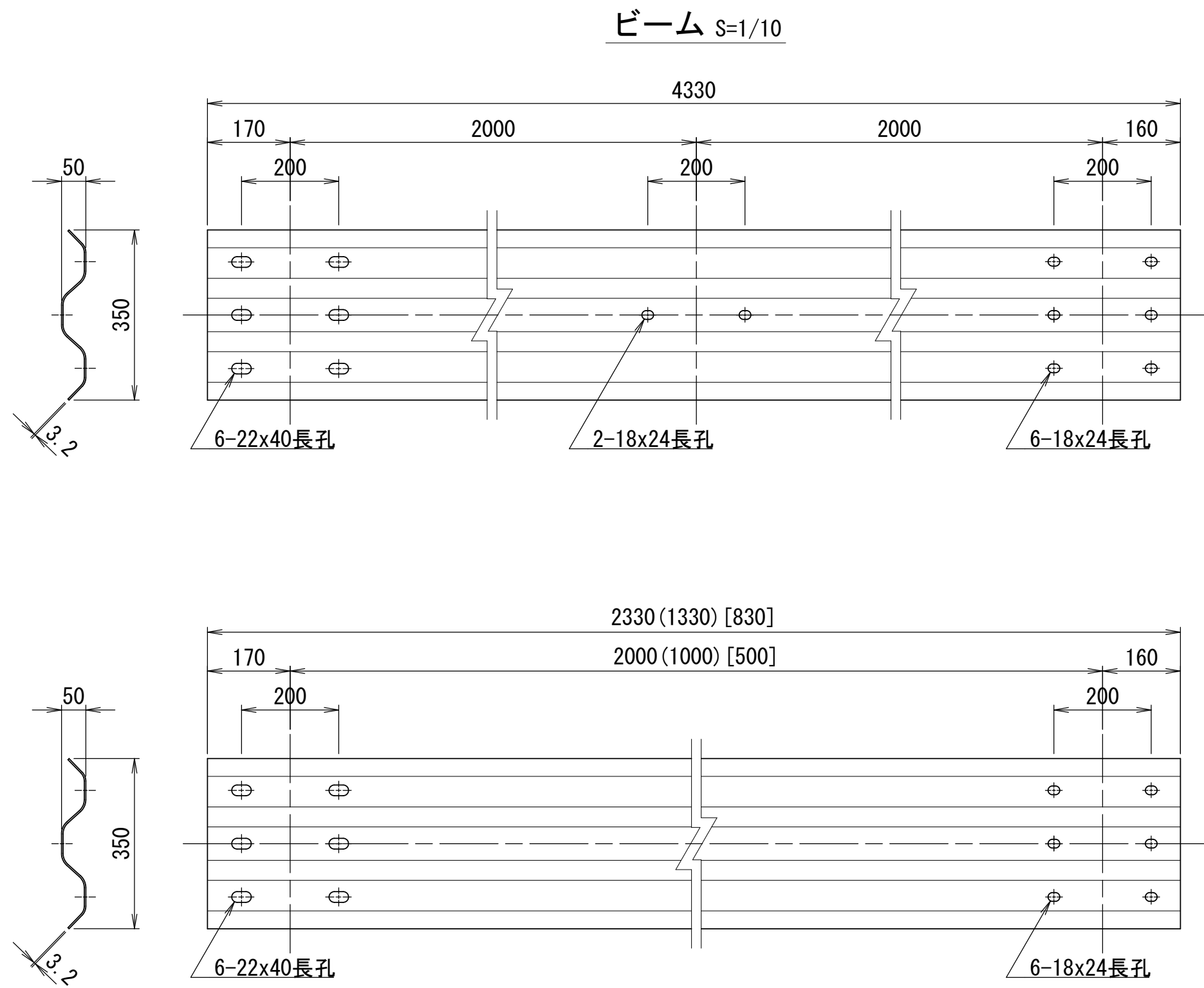
B-B矢視図 S=1/60



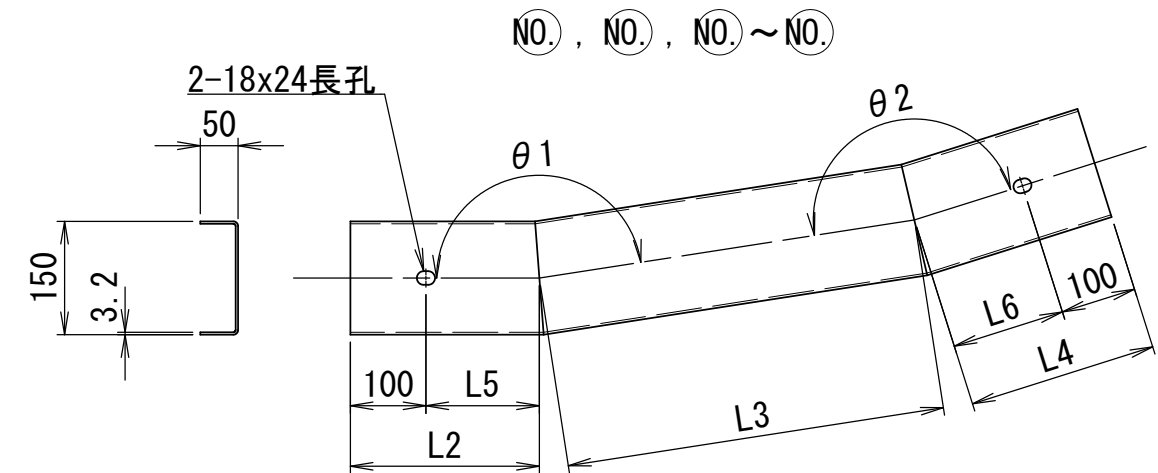
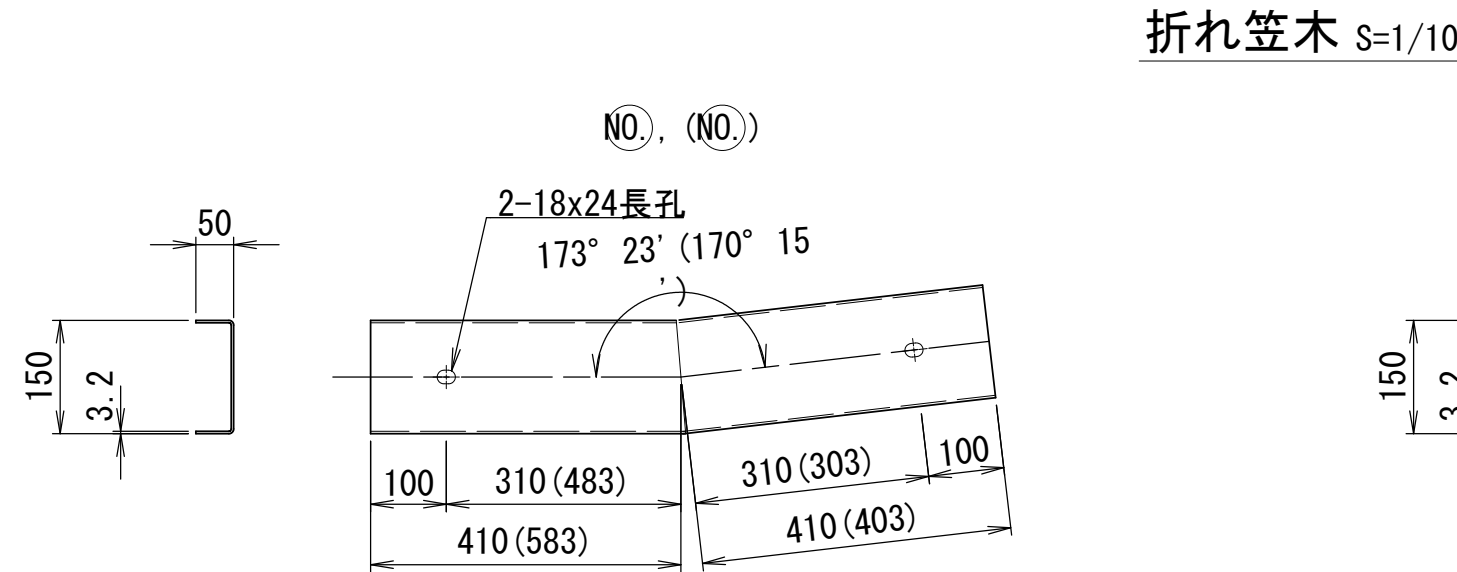
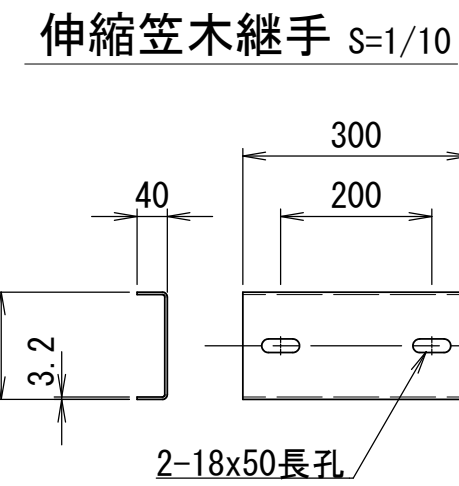
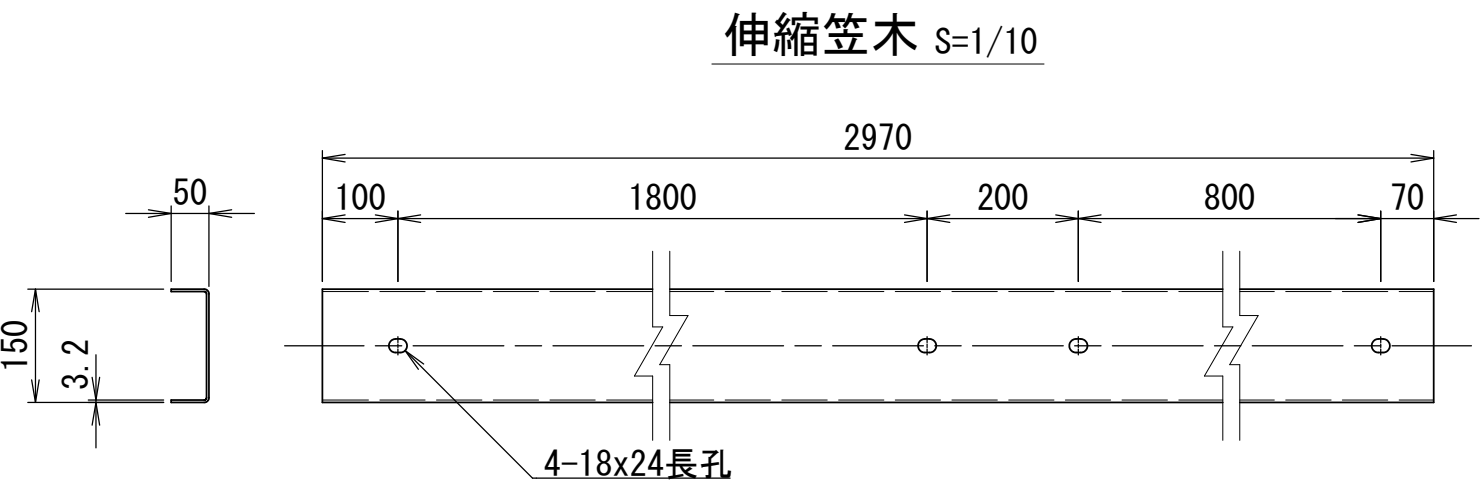
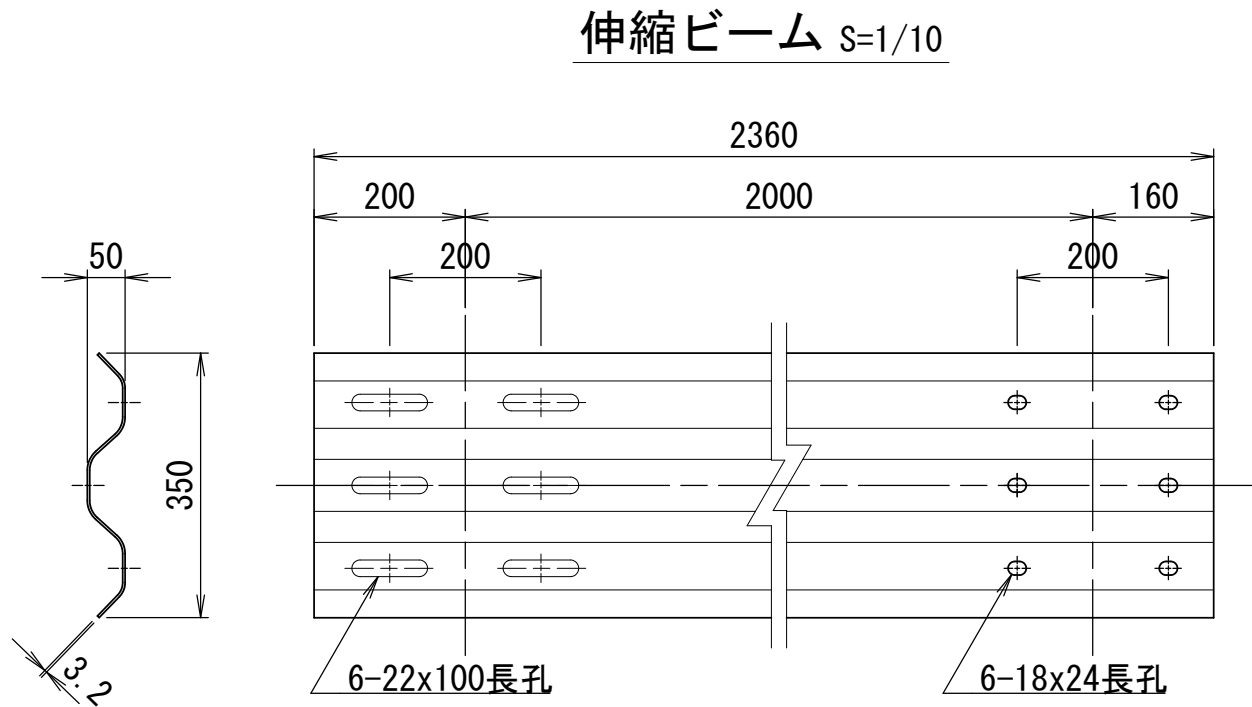
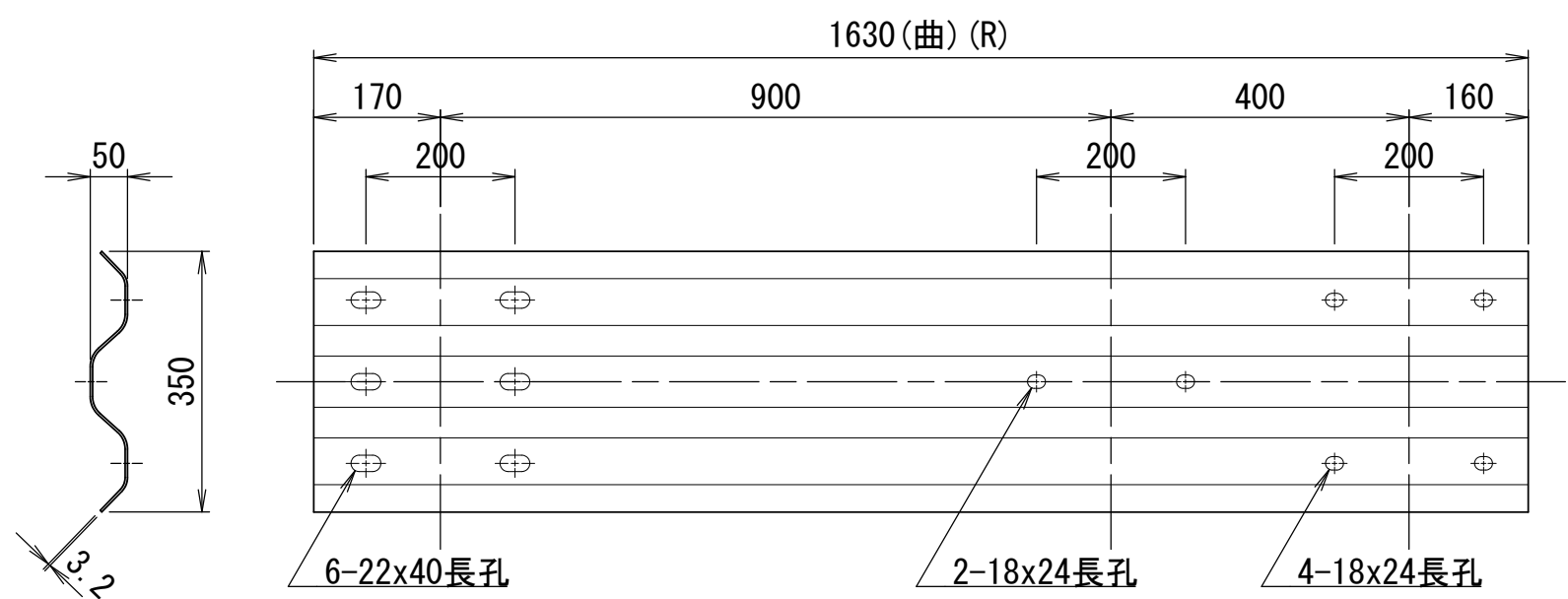
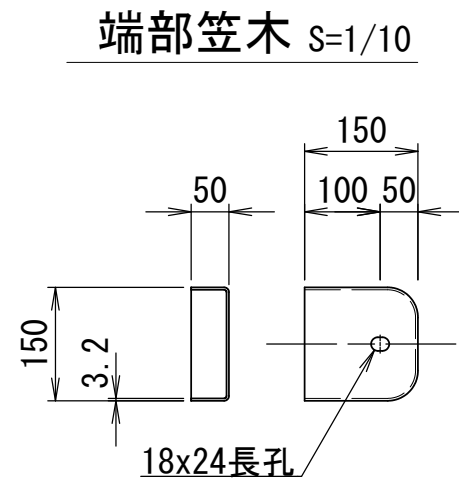
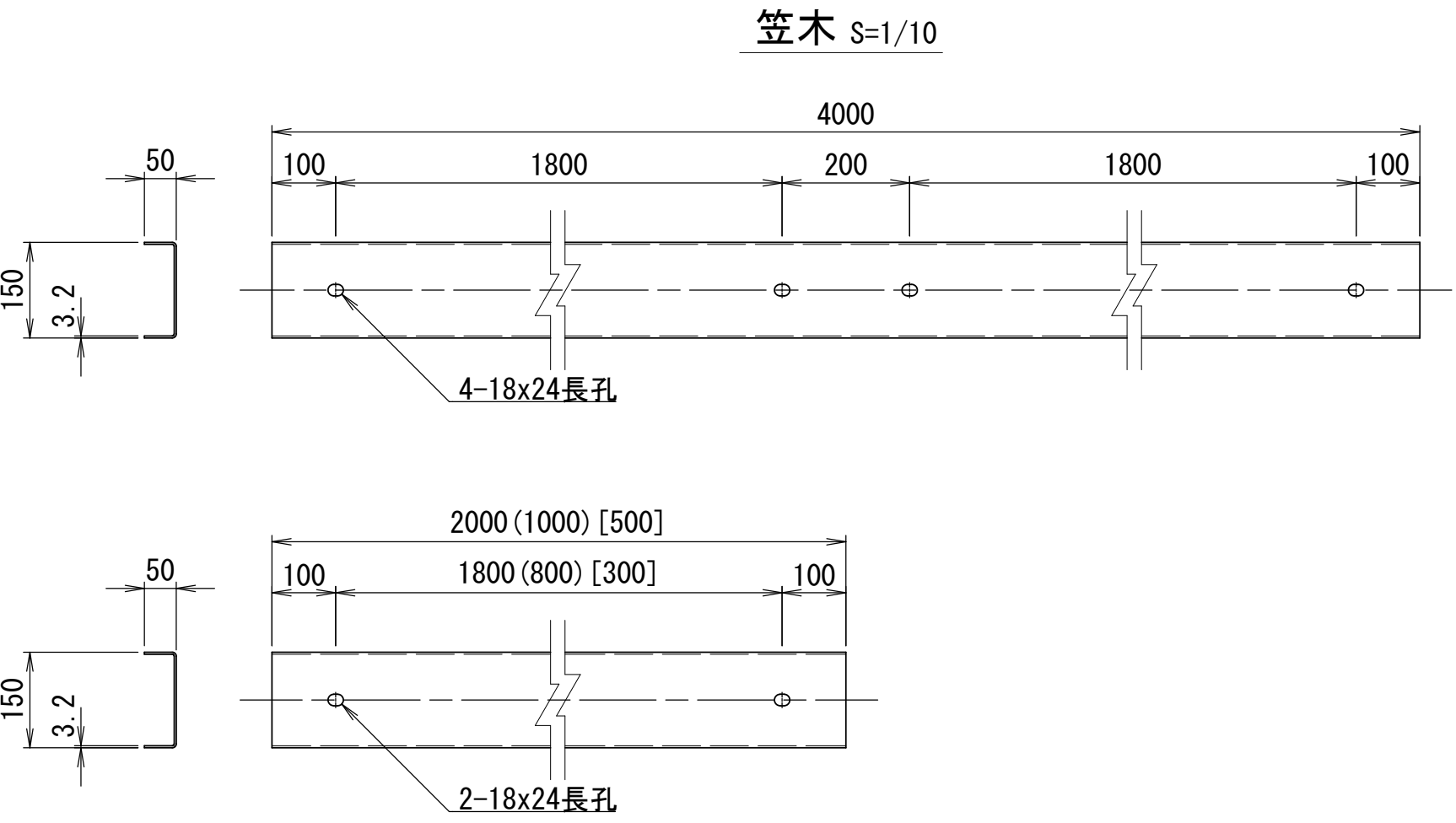
令和 8 年度		工事番号		号	
市道八幡狼毛 ^(縮) 筋 ^(市)		加茂 町 村		狭口 地内	
猿毛橋樑梁修繕				工事	
猿毛橋 ガードレール詳細図(その2)					
縮 尺		1:60		図面全 14 葉の 11	
測 量					年 月
設 計		エヌシーイー株式会社			R6年 3月
加茂市 建設課					

猿毛橋 ガードレール詳細図（その3）

曲げビーム S=1/10



曲げビーム加工表				
ビーム間隔	L	L1	設置R	製作R
2000	2330	2000	7193	8000
830	1160	830		
2000	2330	2000	4828	5000
1500	1830	1500		
1000	1330	1000		

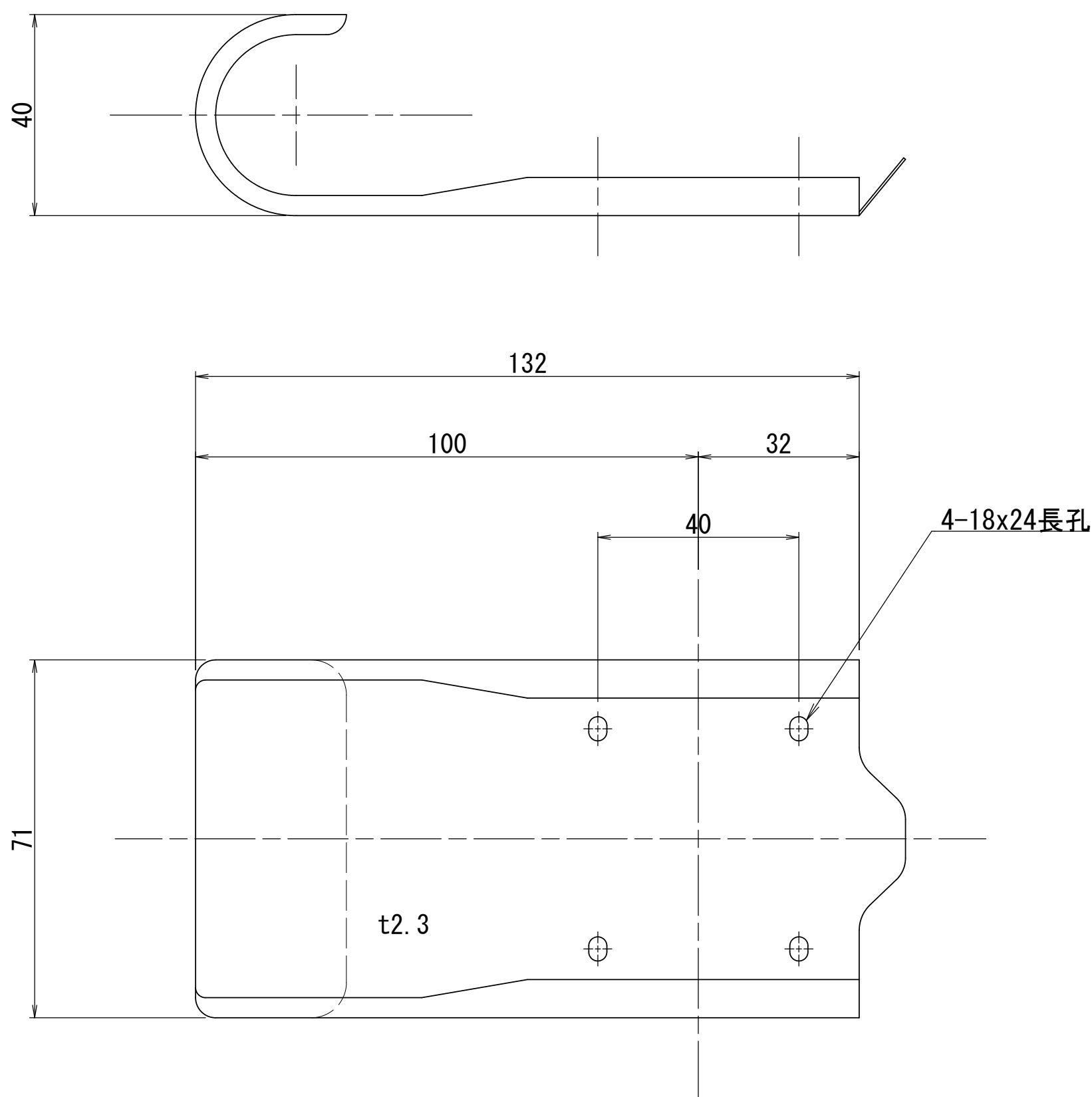


折れ笠木加工表							
記号	L2	L3	L4	L5	L6	θ 1	θ 2
イ	400	1177	400	300	300	172° 2'	172° 2'
ウ	400	678	900	300	800	173° 6'	172° 12'
オ	300	1362	300	200	200	168° 8'	168° 8'
カ	300	874	300	200	200	171° 6'	171° 6'
キ	300	284	300	200	200	174° 14'	175° 21'

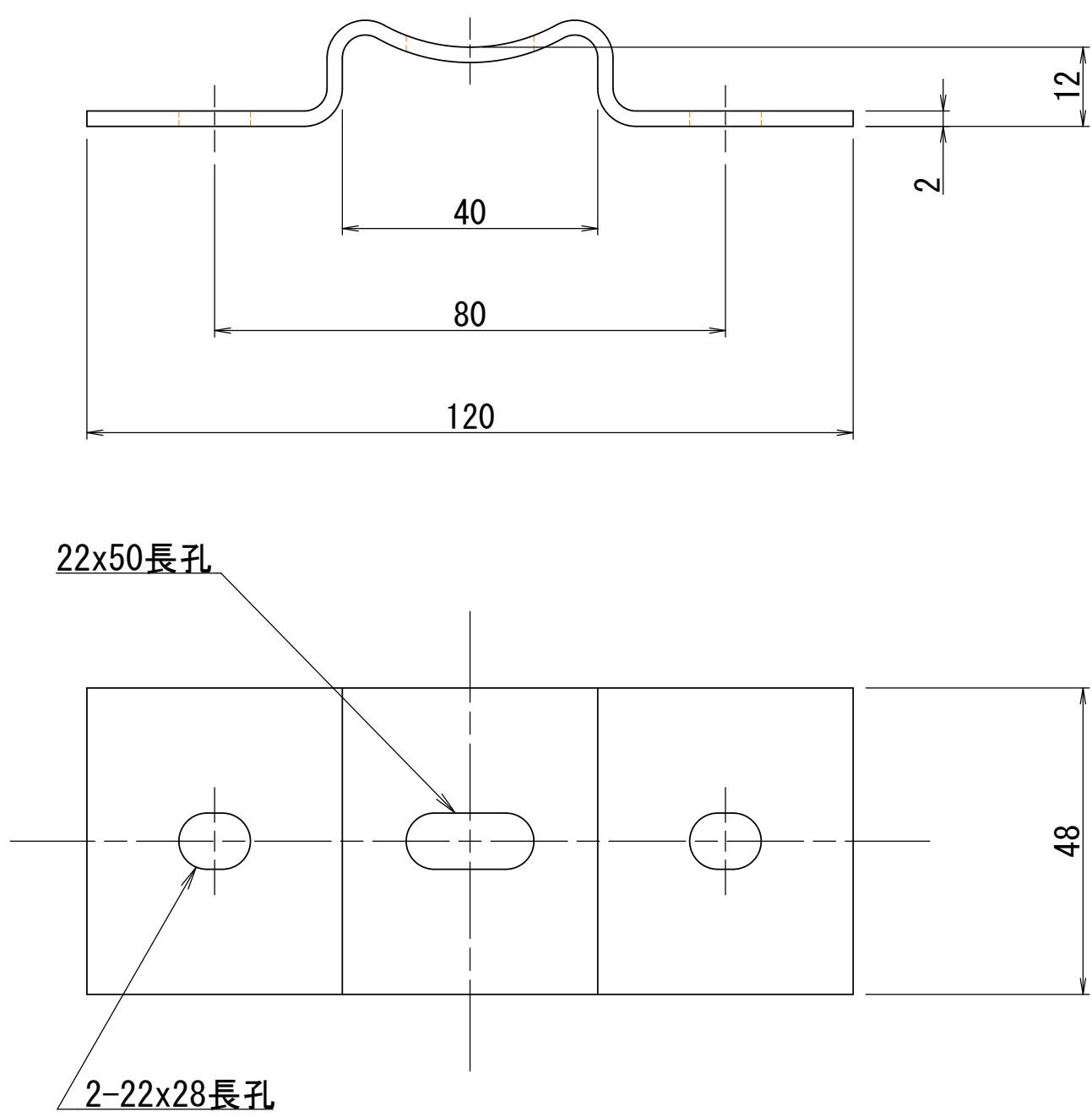
令和 8 年度	工事番号	号
市道八幡猿毛筋	加茂市	町 狭口 地内
猿毛橋橋梁修繕		工事
猿毛橋 ガードレール詳細図(その3)		
縮 尺	1:10	図面全 14 葉の 12
測 量	年 月	
設 計	エヌシーイー株式会社	R6年 3月
加茂市 建設課		

猿毛橋 ガードレール詳細図（その4）

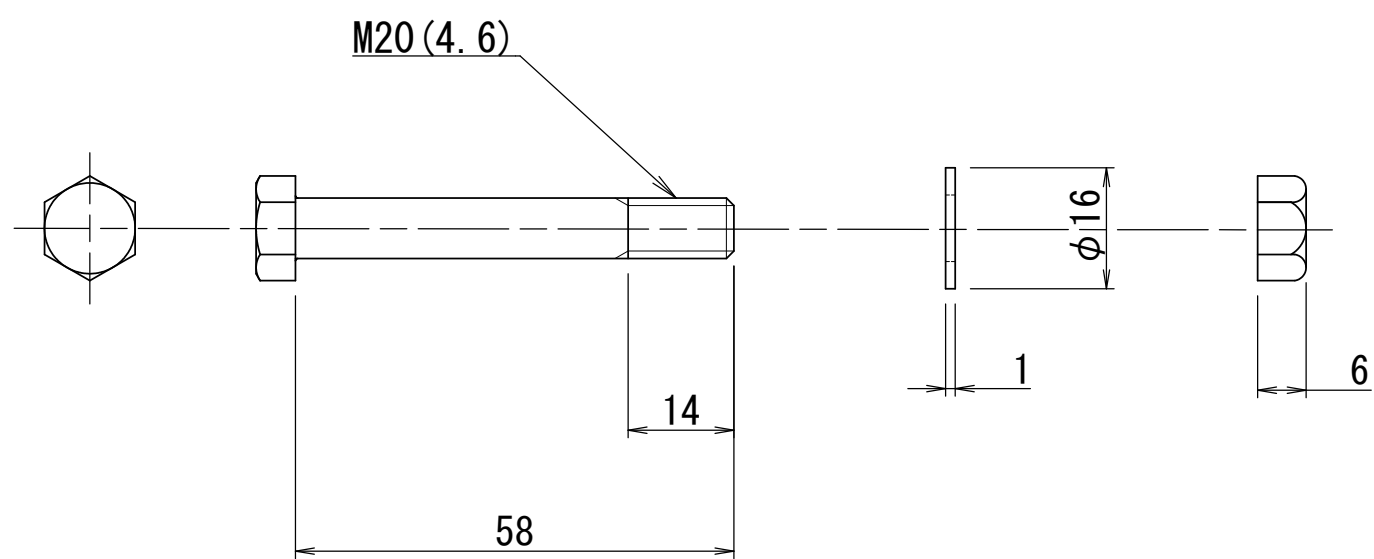
巻袖ビーム S=1/10



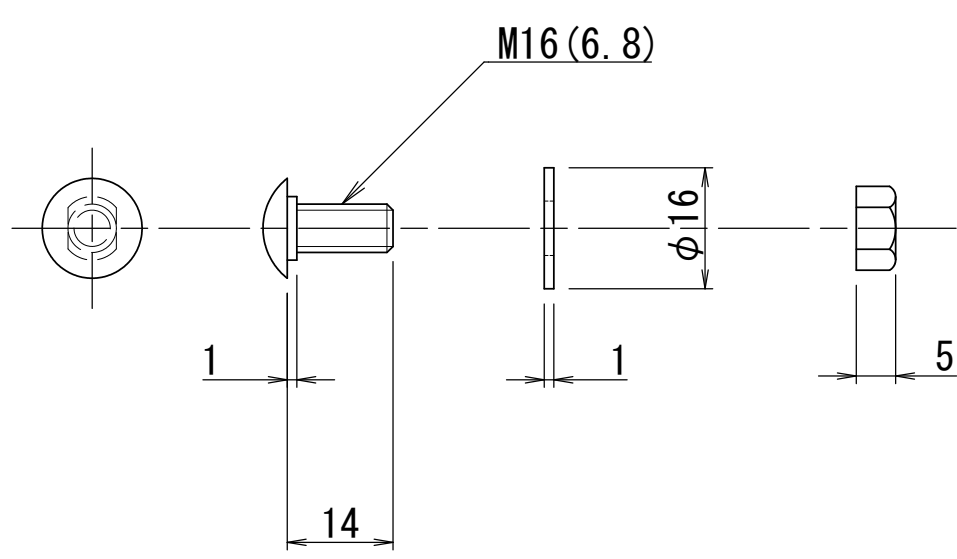
耐雪型ブラケット S=1/5



耐雪型ブラケット取付用ボルト S=1/5



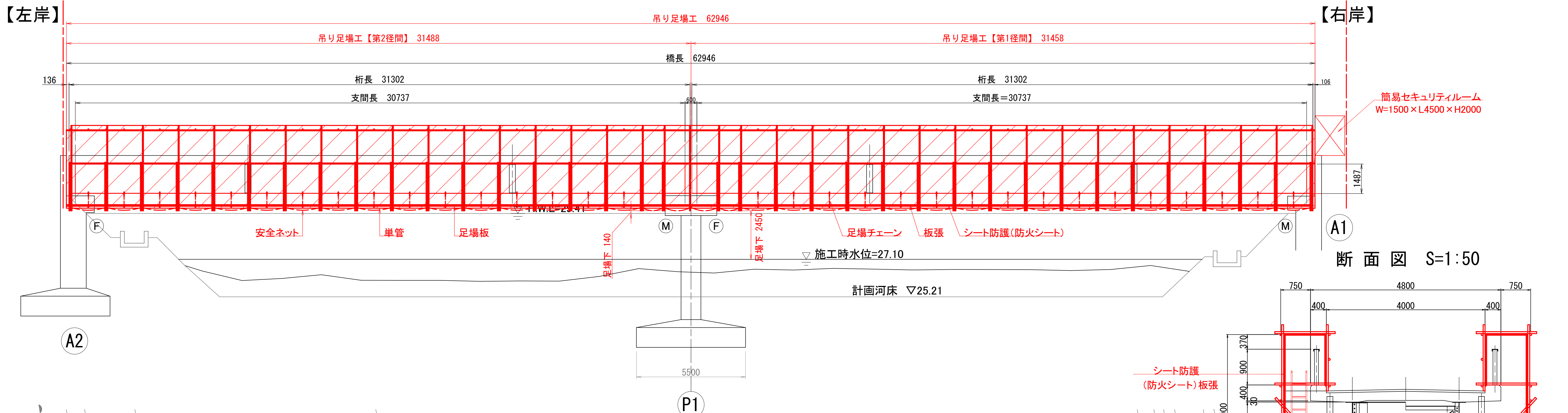
ビーム取付用ボルト S=1/5



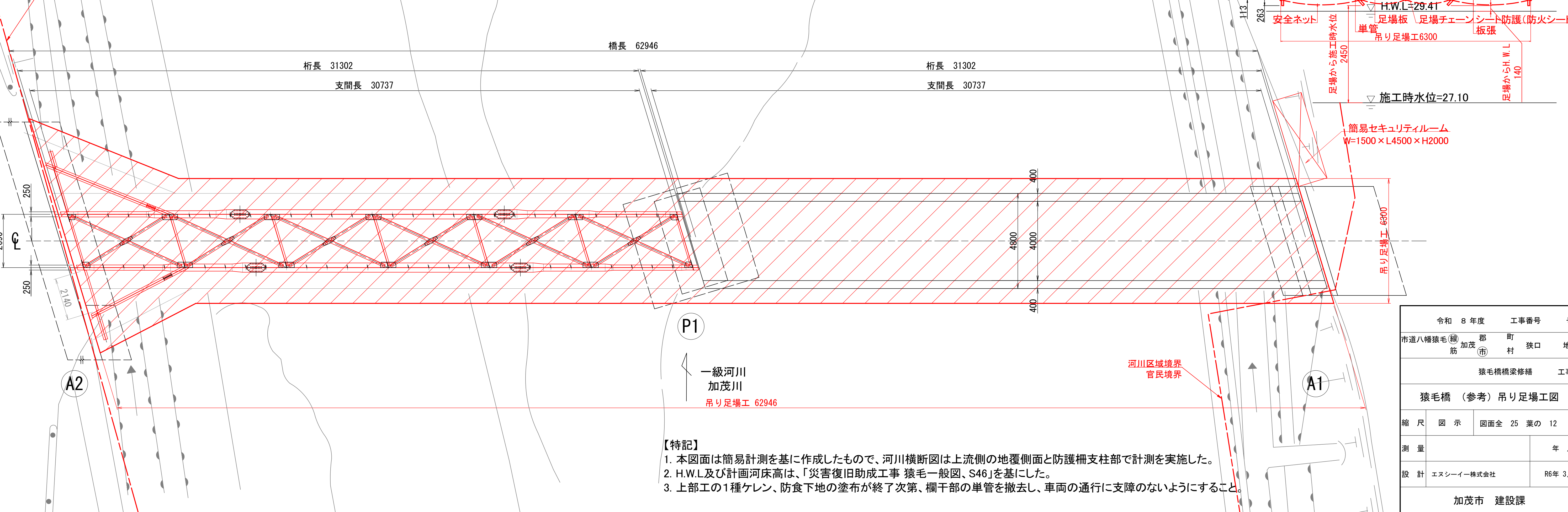
令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛筋	(緑) 加茂市	郡	町	市内
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋 ガードレール詳細図(その4)				
縮 尺	図 示	図面全 14 葉の 13		
測 量				年 月
設 計	エヌシーイー株式会社			R6年 3月
加茂市 建設課				

猿毛橋（参考）吊り足場工図

側面図 S=1:100

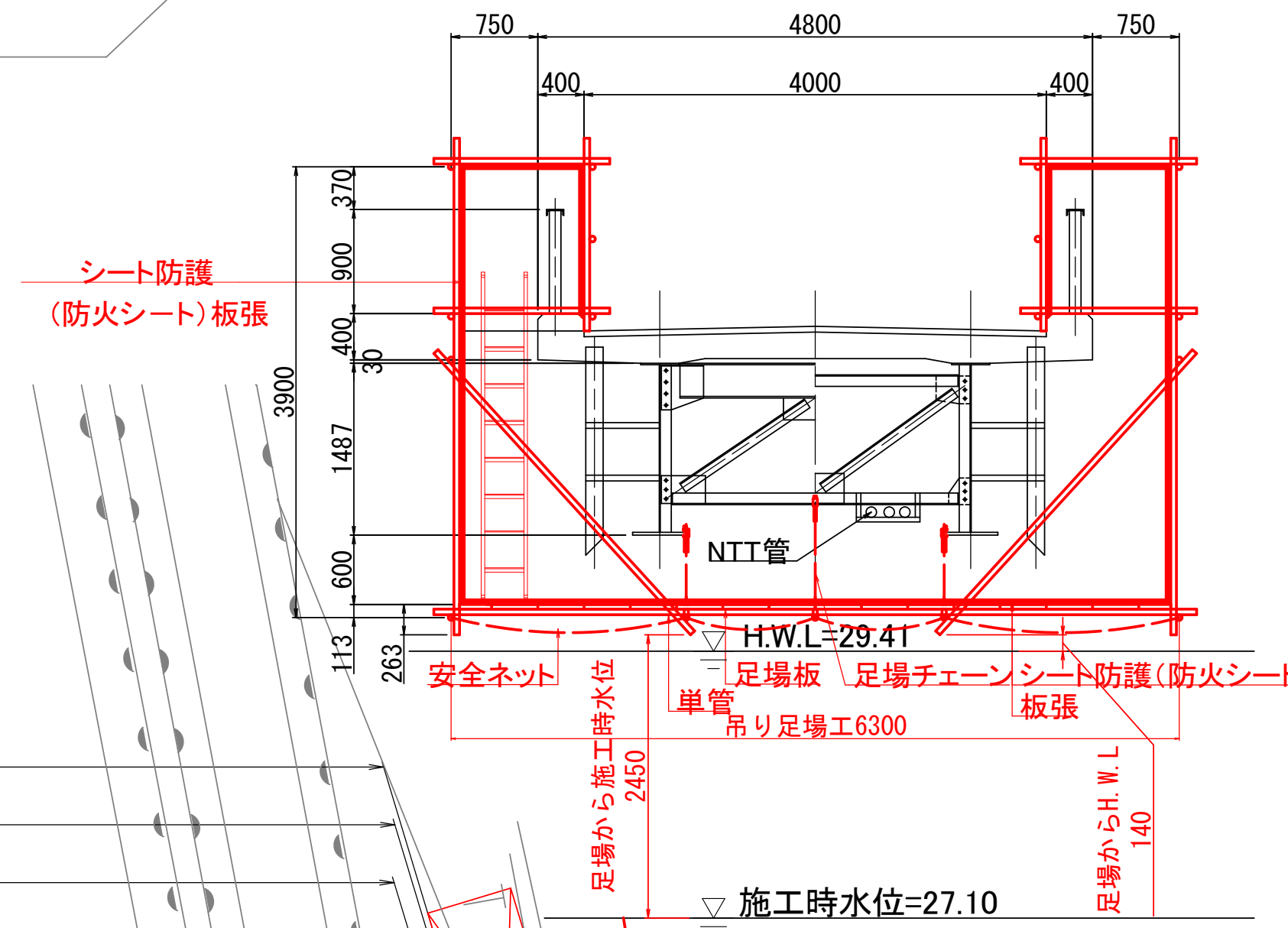


平面図 S=1:100



【特記】
1. 本図面は簡易計測を基に作成したもので、河川横断面図は上流側の地覆側面と防護柵支柱部で計測を実施した。
2. H.W.L及び計画河床高は、「災害復旧助成工事 猿毛一般図、S46」を基にした。
3. 上部工の1種ケレン、防食下地の塗布が終了次第、欄干部の単管を撤去し、車両の通行に支障のないようにすること。

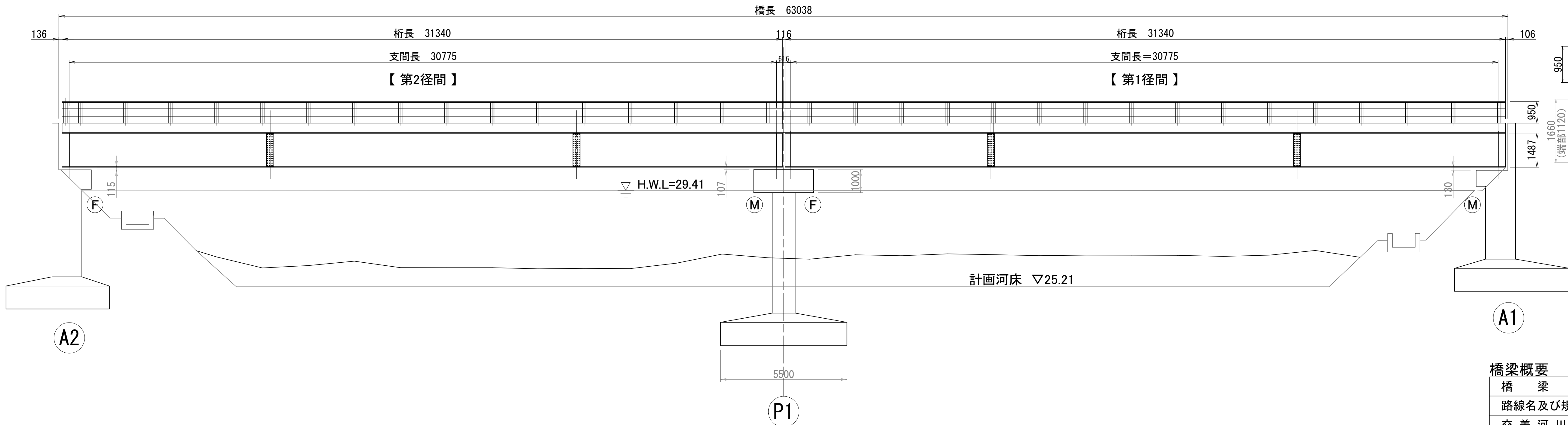
断面図 S=1:50



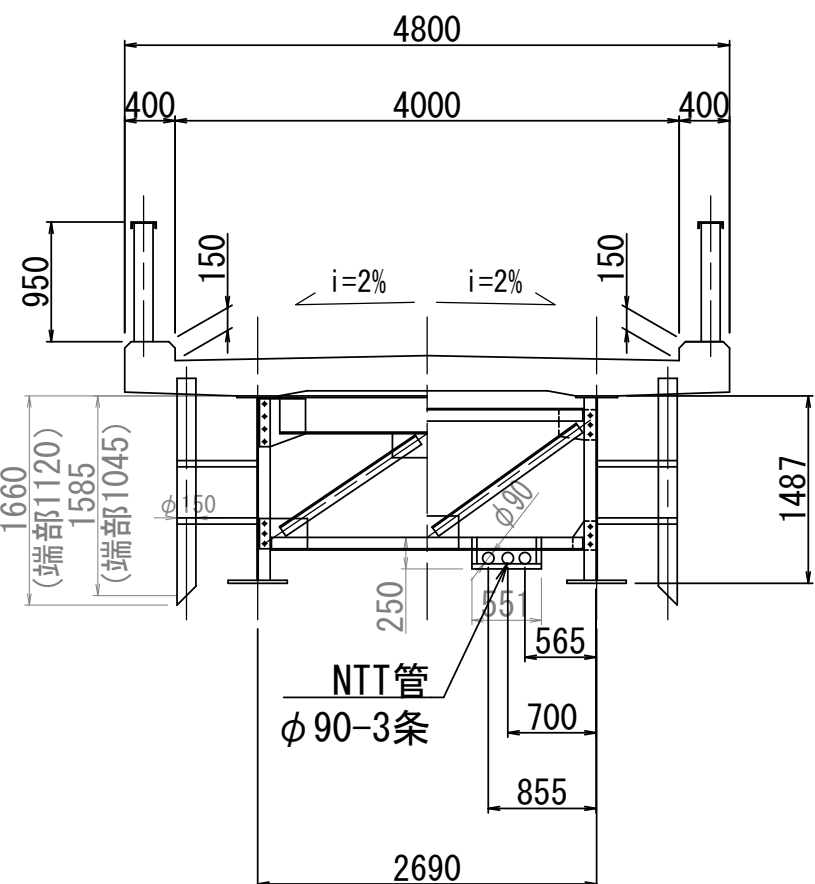
令和 8 年度		工事番号		号
市道八幡猿毛(橋筋)	加茂郡(市)	町村	狹口	地内
猿毛橋橋梁修繕				工事
猿毛橋（参考）吊り足場工図				
縮 尺	図 示		図面全 25 葉の 12	
測 量			年 月	
設 計		エヌシーイー株式会社		R6年 3月
加茂市 建設課				

猿毛橋 現橋一般図

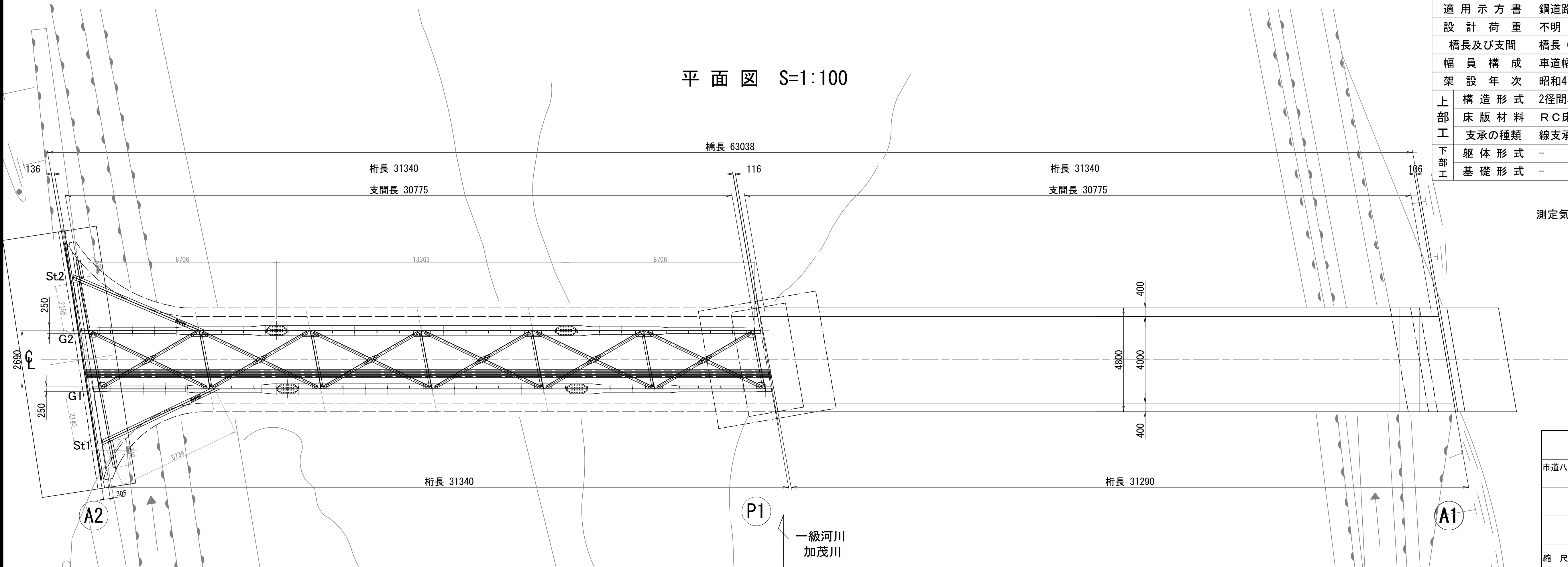
側面図 S=1:100



断面図 S=1:60



平面図 S=1:100



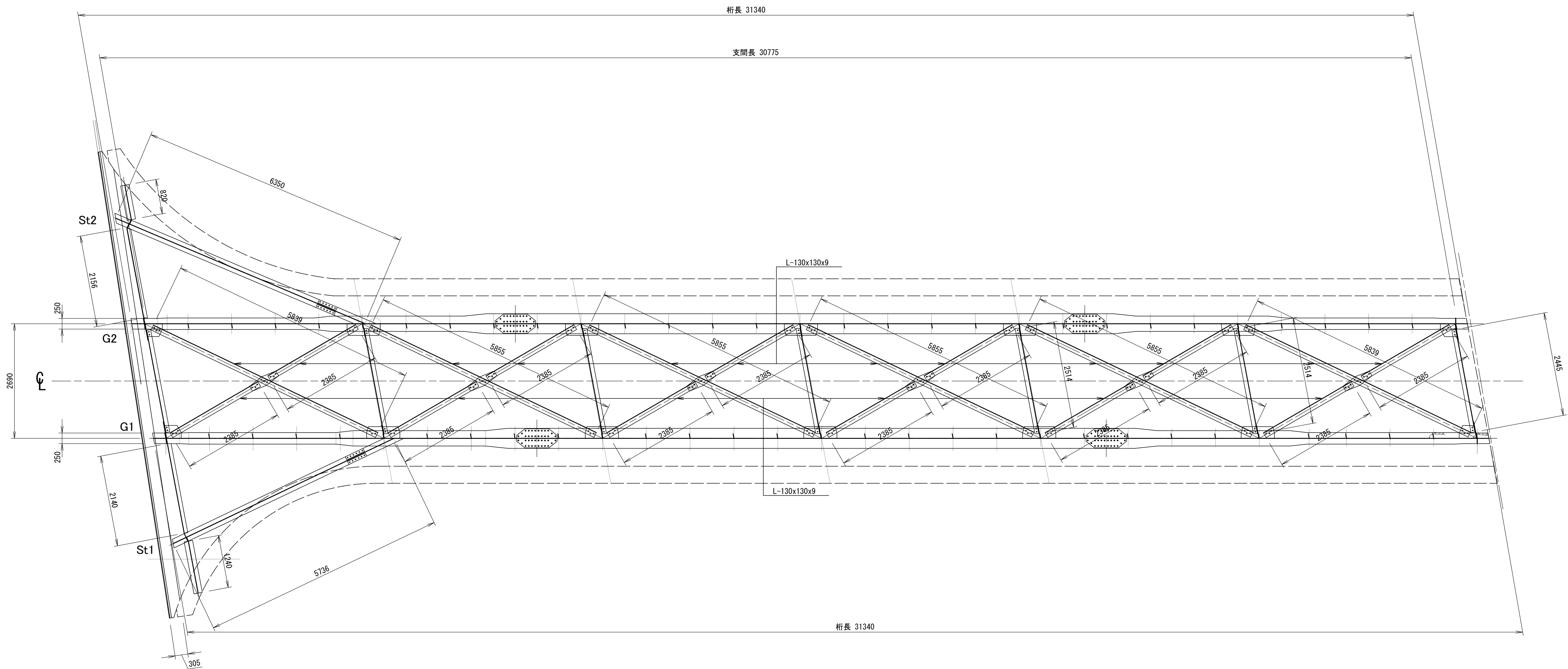
橋梁概要	
橋 梁 名	猿毛橋
路線名及び規格	市道八幡猿毛線
交 差 河 川 名	一級河川加茂川
適 用 示 方 書	鋼道路橋設計示方書(昭和39年)
設 計 荷 重	不明
橋長及び支間	橋長 63.0m、最大支間長 30.7m
幅 員 構 成	車道幅員 4.00m、総幅員 4.80m
架 設 年 次	昭和47年
上 部 工	構造形式 2径間単純鋼合成鉄桁橋 床版材料 R C床版 支承の種類 線支承
下 部 工	躯体形式 - 基礎形式 -

測定気温 9.5℃

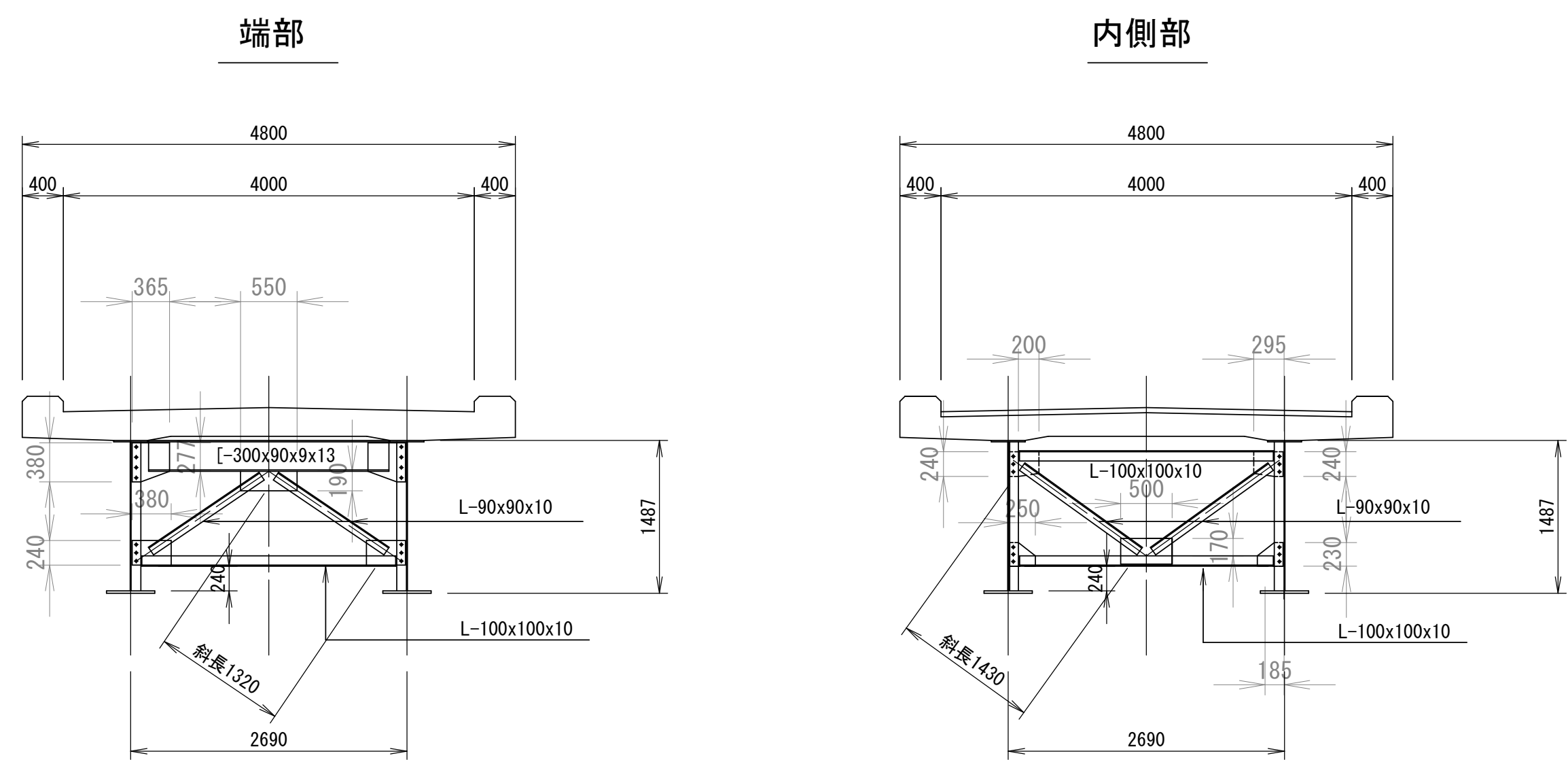
- 【特記】
- 本図面は簡易計測を基に作成したもので、河川横断面図は上流側の地覆側面と防護柵支柱部で計測を実施した。
 - H.W.L及び計画河床高は、竣工図「災害復旧助成工事 猿毛一般図、S46」を基にした。

令和 8 年度	工事番号	号
市道八幡猿毛(總 筋 加茂(市) 郡 村 狹口 地内)	猿毛橋橋梁修繕	工事
猿毛橋 現橋一般図		
縮 尺	図 示	図面全 3 葉の 1
測 量		年 月
設 計	エヌシーイー株式会社	R6年 月
加茂市 建設課		

猿毛橋 主桁及び横構詳細図 S = 1/50

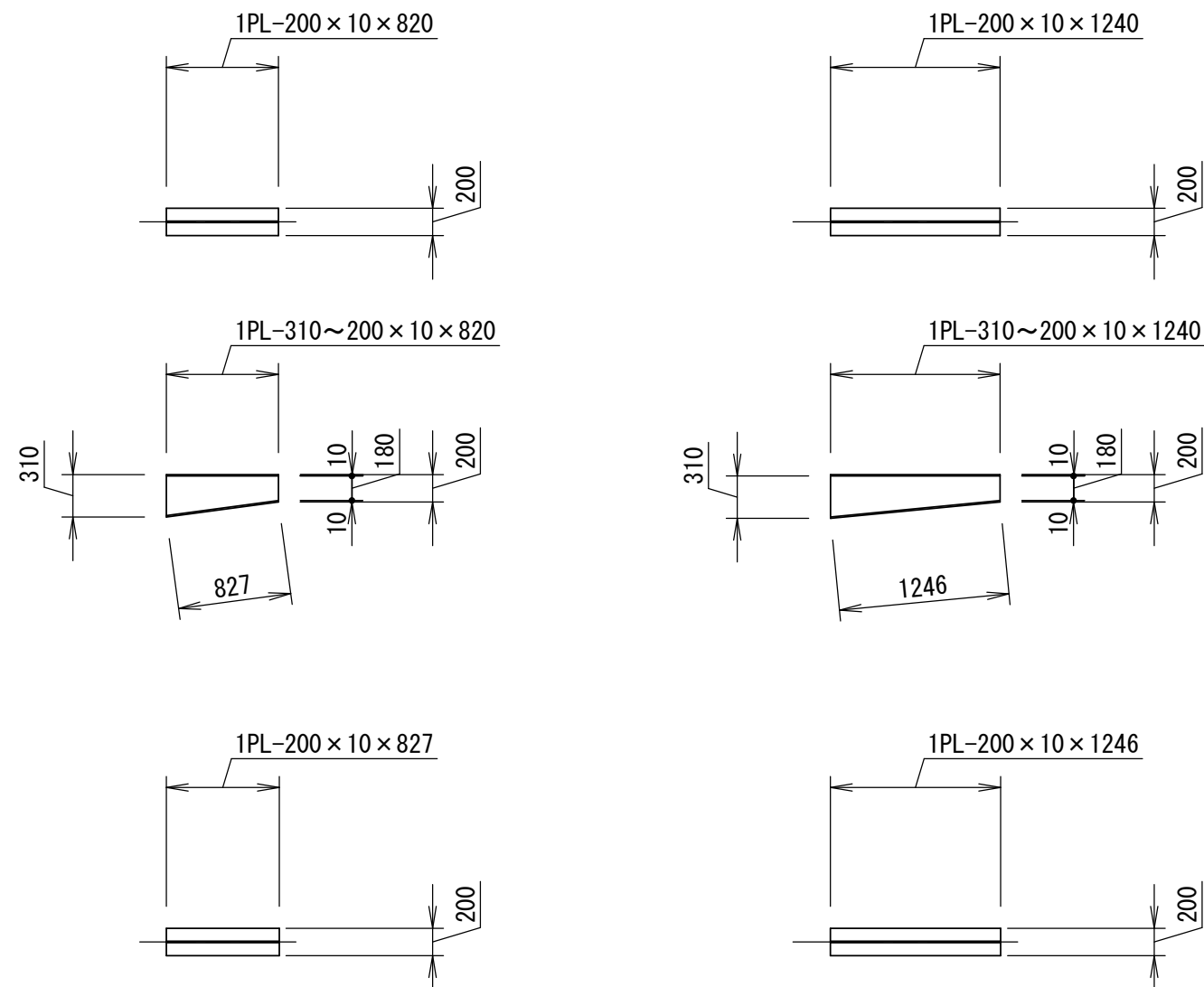
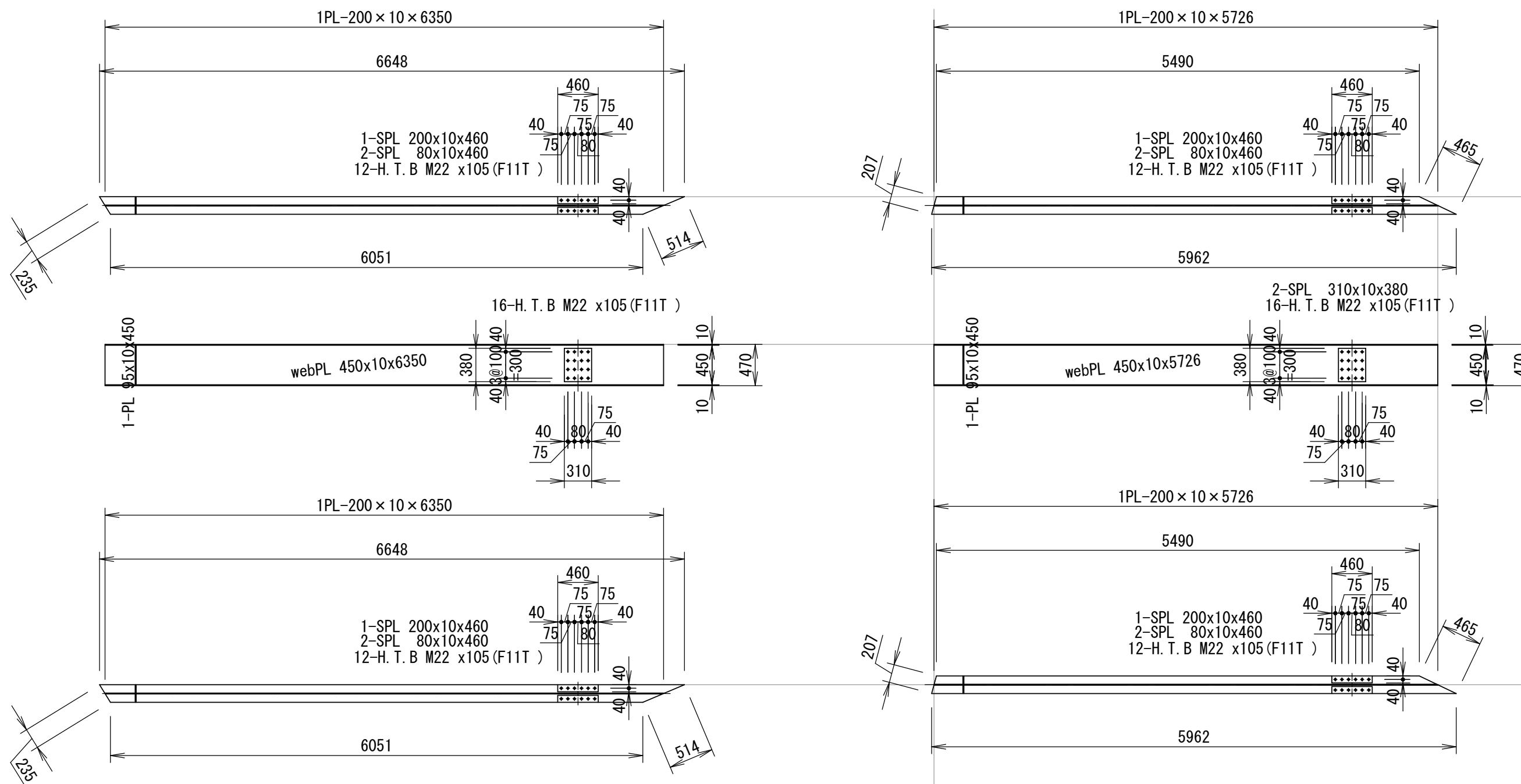
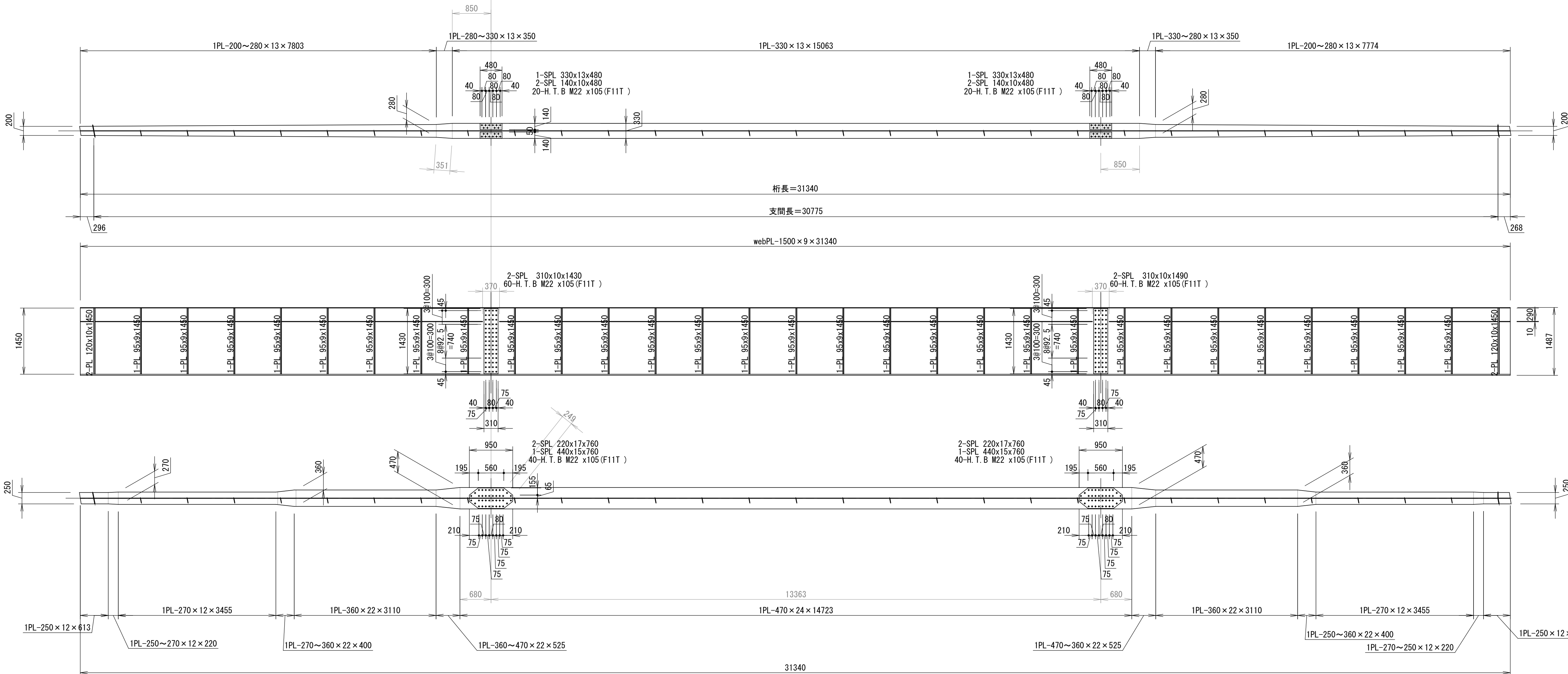


対傾構詳細 S = 1/50



年度	工事番号	号
市道八幡猿毛(總 筋加茂市)	郡 村	町 狭口 地内
工事		
猿毛橋 主桁及び横構詳細図		
縮 尺	図 示	図面全 3 葉の 2
測 量		年 月
設 計	エヌシーイー株式会社	R6年 月
加茂市 建設課		

猿毛橋 主桁詳細図 S = 1/50



令和 8 年度		工事番号		号	
市道八幡猿毛(緑)加茂郡町		狭口		地内	
筋(市)					
猿毛橋橋梁修繕				工事	
猿毛橋 主桁詳細図					
縮 尺		図 示		図面全 3 葉の 3	
測 量					年 月
設 計		エヌシーイー株式会社			R6年 月
加茂市 建設課					